

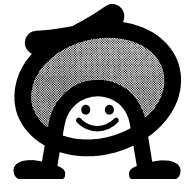


会 議 録

会議の名称	第4回上尾市かわまちづくり協議会	
開催日時	令和6年3月27日(水) 午後 1時30分から 午後 2時15分まで	
開催場所	平方支所 会議室	
議長(委員長・会長)氏名	作山 康	
出席者(委員)氏名	石倉 尊穂、安部 隆文、山根 博安、渋谷 晃一、今川 修一、 須田 悦正、小田川 史明、須田 均(会長含め9名)	
欠席者(委員)氏名	栗原 栄二、寺脇 貴浩、塚越 俊久、堀口 慎一	
事務局(庶務担当)	都市整備部 北島次長 都市整備部 建設管理課 吉川課長、大畑主幹、小森主任、岩城	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 上尾市かわまちづくり計画書について	別紙のとおり (全て報告事項)
議事の経過		別紙のとおり
会議資料		1. 次第 2. 座席表 3. 資料1 第3回上尾市かわまちづくり協議会について 4. 資料2 上尾市かわまちづくり計画書 5. 資料3 今後のスケジュールについて 6. 資料4 かわまちづくり社会実験について
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 6 年 5 月 9 日 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;"> 署名 <u>渋谷 晃一</u>  </div> <div style="text-align: center;"> 署名 <u>須田 悦正</u>  </div> </div>		



第4回 上尾市かわまちづくり協議会

会 議 録

日 時 令和6年3月27日（水） 午後1時30分から
場 所 平方支所 会議室

<p>1 : 30～</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 副会長の選任</p> <p>3. 議事録署名人</p> <p>4. 報告</p> <p>(1)</p> <p>5. 議題</p> <p>(1)</p>	<p>事務局より開会の挨拶、出席者の確認、資料の確認。</p> <p>作山会長より挨拶。</p> <p>作山会長に議長をお願いする。</p> <p>嶋田氏が副会長及び委員の辞任を行ったため、上尾市かわまちづくり協議会条例第6条第1項の規定により、石倉委員を副会長に全会一致で選任された。</p> <p>本会議の会議録署名人は、渋谷委員、須田(悦)委員の2名に、書記は事務局の岩城主任にお願いする。</p> <p>非公開事項の確認、傍聴人の有無の確認を行い、非公開事項は無し、本日の傍聴人は無しで会議を行った。</p> <p>(1) 第3回上尾市かわまちづくり協議会について、事務局より報告。</p> <p>事務局より議題(1)上尾市かわまちづくり計画書について、資料2を説明。質疑応答に移る。</p> <p>質疑等が無かったため、上尾市かわまちづくり計画書について、議決を取り、全会一致で承認された。</p>
---	--

<p>6. その他</p> <p>(1) (2)</p> <p>意見①</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>議長</p> <p>事務局</p>	<p>事務局よりその他(1)今後のスケジュールについて、(2)かわまちづくり社会実験について、資料3・4を説明。質疑応答に移る。</p> <p>10月から社会実験ということだが、毎年12月に『ぐるっとくん地域めぐり作戦』(事務局：青少年課、主催：上尾市青少年育成連合会)(今年は12月14日予定)という史跡を巡るイベントを行っているため、平方地区での連携を検討されたい。中高生を対象とした地域の名所を巡る全市的なイベントであり、昨年は300人ほどの参加者があった。</p> <p>高齢者を対象とした、地域の名所を巡るイベント『お散歩講座』(主催：社会福祉協議会)も実施している。昨年度は秋と2月に開催した。同様に連携を検討されたい。</p> <p>青少年の居場所づくりという点で、青少年育成連合会の取組は大切。リーダー育成、上尾の魅力を伝えること、市民としての誇り(シビックプライド)を育むことを絡ませてほしい。</p> <p>ご提案いただいた散歩イベント等と社会実験の連携は検討したい。また、かわまちづくりのブースを出展し、かわまちづくりの周知やアンケート実施による意見収集を行う形式の社会実験を候補としたい。</p>
--	--

<p>意見②</p> <p>議 長</p>	<p>どろいんきょを代表とした平方の歴史・文化を周知していけるとよい。</p>
<p>委 員</p>	<p>平方の河岸の歴史は深いため、かわまちづくりと共にその再現や、その歴史の PR していただきたい。</p>
<p>議 長</p>	<p>道の駅、かわの駅のようなイメージで、ドッグランなど郊外で楽しめる部分と地元野菜の販売などスーパーマーケット的な部分を兼ね備えたものになると良い。</p>
<p>委 員</p>	<p>橘神社に立て看板がある。社会実験の時に看板・資料を見てもらえるとありがたい。あげお駅からハイキング（主催：上尾市観光協会、JR 上尾駅）もあるため、その連携も含め検討されたい。</p>
<p>議 長</p>	<p>約 100 年前の平方河岸と町並みの繁栄を、模型など視覚的に再現できると面白い。社会実験に向けたノウハウが大学でも有しているので協力できると思う。また、堤防完成まではまだ時間があるので準備期間ということでいろいろ試していけるとよい。</p>
<p>7. 閉会</p> <p>～2 : 15</p>	<p>石倉副会長より閉会の言葉</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

●会議写真



第4回かわまちづくり協議会 出席者名簿

令和 6年 3月27日(水) 午後1:30～

平方支所 会議室

	所 属	氏 名	出席
1	芝浦工業大学	作山 康	○
2	平方まちづくり協議会	石倉 尊穂	○
3	上宿自治会	山根 博安	○
4	平方新田自治会	渋谷 晃一	○
5	西貝塚自治会	栗原 栄二	×
6	平方南地区自治会	安部 隆文	○
7	平方土地改良区	今川 修一	○
8	上尾商工会議所	須田 悦正	○
9	上尾商工会議所	寺脇 貴浩	×
10	上尾市観光協会	塚越 俊久	×
11	上尾市教育委員会教育総務部長	小田川 史明	○
12	上尾市環境経済部長	堀口 慎一	×
13	上尾市都市整備部長	須田 均	○

合計 9名 出席

第4回上尾市かわまちづくり協議会 次第

日 時 令和 6 年 3 月 2 7 日 (水)

午後 1 : 3 0 ~

場 所 平方支所 会議室

1 開 会

2 副会長の選任

3 議事録署名人の選出

4 報 告

- (1) 第3回上尾市かわまちづくり協議会について (資料1)

5 議 題

- (1) 上尾市かわまちづくり計画書について (資料2)

6 そ の 他

- (1) 今後のスケジュールについて (資料3)

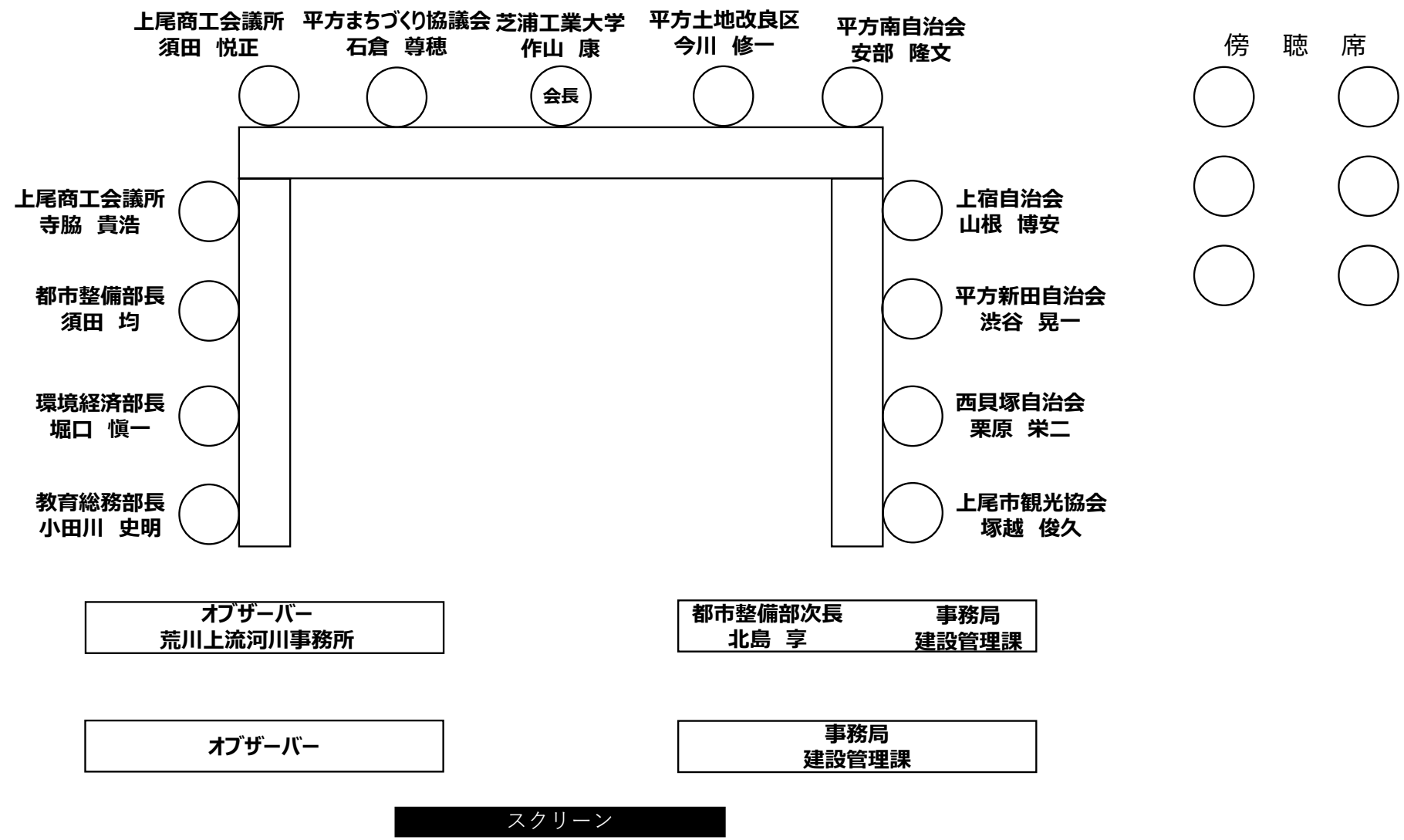
- (2) 令和6年度社会実験について (資料4)

7 閉 会

資料一覧


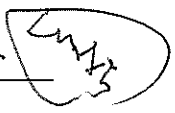
- | | |
|--------|----------------------|
| 1. 次第 | |
| 2. 座席表 | |
| 3. 資料1 | 第3回上尾市かわまちづくり協議会について |
| 4. 資料2 | 上尾市かわまちづくり計画書 |
| 5. 資料3 | 今後のスケジュールについて |
| 6. 資料4 | かわまちづくり社会実験について |

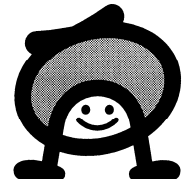
座 席 表



出入口

会 議 録

会議の名称	第3回上尾市かわまちづくり協議会	
開催日時	令和6年1月17日(水) 午前10時00分から 午後12時00分まで	
開催場所	平方支所 会議室	
議長(委員長・会長)氏名	作山 康	
出席者(委員)氏名	嶋田 一孝、石倉 尊穂、安部 隆文、渋谷 晃一、栗原 栄二、 今川 修一、須田 悦正、塚越 俊久、小田川 史明、堀口 慎一、 須田 均(会長含め12名)	
欠席者(委員)氏名	山根 博安、寺脇 貴浩	
事務局(庶務担当)	都市整備部 北島次長 都市整備部 建設管理課 吉川課長、大畑主幹、小森主任、岩城	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 上尾市かわまちづくり計画書・整備の提案について	別紙のとおり (全て報告事項)
議事の経過	別紙のとおり	
会議資料	1. 次第 2. 座席表 3. 資料1 第2回上尾市かわまちづくり協議会について 4. 資料2 堤防視察会・ワークショップ・市民コメント・学生提案について 5. 資料3 上尾市かわまちづくり計画書 6. 資料4 整備の提案について 7. 資料5 周辺整備について 8. 資料6 今後のスケジュールについて	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 6 年 3 月 7 日 署名 塚越 俊久  署名 栗原 栄二 		



第3回 上尾市かわまちづくり協議会

会 議 録

日 時 令和6年1月17日（水） 午前10時00分から
場 所 平方支所 会議室

意見② 委 員	計画書 P11 内の推進体制について、「平方改良区会」との記載があるが、正しくは「平方土地改良区」であるので修正願いたい。
事務局	修正する。
意見③ 委 員	計画書 P10 内の表 2、上尾市かわまちづくりにおける市や民間事業者の考え方のどろいんきょ行事に係る記載について、「区長」は「自治会長」に修正、「愛育班」と「子どもの会」を削除いただきたい。
事務局	修正、削除する。
議 長	同箇所の「市民らによる防災訓練・防災体験」は防災訓練のほか、市民参加で活動しているものはあるのか？特に川沿いならではのものなどがあるのか？
事務局	自治会で防災訓練を実施している。
委 員	自治会で初期消火や AED の使い方など災害に備える活動を行う予定である。

<p>意見④ 議 長</p>	<p>計画内に記載がある「防災倉庫」はどのような使い方を予定しているのか？</p>
<p>事務局</p>	<p>防災倉庫については、自主防災会の組織があることと、平方地区では実際に令和元年台風による水害にあわれた経験があることから、具体的に整備すべき土のう・排水ポンプなどニーズを把握した上で危機管理防災課と連携しながら必要備品等を検討していきたいと考えている。</p>
<p>意見⑤ 議 長</p>	<p>今回計画で堤防ができるとまち側での浸水被害等は軽減されると思うが、E ボートなどは非常時に使えるような訓練を兼ねて、普段のレクリエーションとしても使えると考える。</p>
<p>事務局</p>	<p>令和元年では無堤であったため、外水氾濫による被害として捉えられるが、新堤築堤後は内水による被害の可能性があるかなど含めて検討していく。</p>
<p>意見⑥ 委 員</p>	<p>大宮国際カントリークラブのあるところで調節池を作ることで平方付近の荒川の水位が上がるのではないかという話を聞いたが、そのようなことはあるのか？</p>
<p>事務局</p>	<p>囲繞堤ができることにより若干水位が上がる場合があると聞いているが、川の河道掘削や堤防を高くするなど対策すると聞いている。</p>

<p>荒 上</p>	<p>開平橋の下流に荒川第二・第三調整池を整備する予定となっており、現状の堤防が調整池の外側の堤防で、調整池に水を貯めるための囲繞堤を整備する計画で川に堰を設ける予定はない。囲繞堤を整備する関係で水位が上がる場合があるが、河道掘削など対策をしていく。また、自然の状況による水位変動はあるものの、従前の利用に対して調節池の整備による影響はないように配慮しながら計画を進めているところである。</p>
<p>意見⑦ 議 長</p>	<p>堤防の形が見えてきており、魅力的なものを作っていけると良い。上物についてはこれからであるが、本協議会などでも議論しながら検討していけるとよい。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局より資料４を説明。</p> <p>坂路中央の階段追加やメイン動線からの動線として最下流の階段を拡げ、自転車の押し歩き対応、歴史的な配慮についても提案している。また、側帯整備に必要となる擁壁についても景観に配慮したイメージとなるような提案をさせていただいている。</p>
<p>意見⑧ 議 長</p>	<p>戸田市では去年から全て有料になっているが、花火は無料なのか？</p>
<p>事務局</p>	<p>現状は無料となっているが、花火自体の価格だけでなく、警備費など運営そのものにかかる費用が高騰している背景があると聞いている。</p>

議 長	<p>これだけ良いものを作るのなら、将来的には一部有料にするとか、例えばデザインされた平方シートをつくるとか、有料でも気持ちよく楽しめるような運営についても今後考えていけると良い。</p>
意見⑨ 委 員	<p>側帯整備については、擁壁を立ち上げるということか？建物が近く圧迫感のあるおそれや崩れるおそれがないか心配している。土盛りでやれないのか？</p>
事務局	<p>本堤は土盛りで構成しており、天端を拡げる側帯整備部についてのみ擁壁を考えている。側帯整備を土盛りのみの腹付けで計画すると民地側へ拡がることとなり、河川区域内で計画できず、また堤脚の道路なども計画できなくなる恐れがある。</p>
議 長	<p>景観面と安全面のふたつの指摘である。景観面については、提案いただいているようなイメージで違和感のないようなものにできるのではないかと考えている。安全面ではブロック積だから崩れる懸念があるとすれば、L 型擁壁や重力式コンクリート擁壁など強固な擁壁にすることも考えられるが、側帯としての土取り役割などをふまえると土をとって復旧できるような擁壁形式とする必要があると聞いたことはある。</p>
荒 上	<p>堤防そのものは土で作るのが基本である。側帯部については、具体的な設計が仕上がっているわけではないので今後の検討となるが、ブロックにするのか擁壁にするのかは地盤との関係もあり、少なくとも滑ったり沈下したりすることのないように構造的な安全性のチェック</p>

	をした上で形式を決定することになる。
オブザーバー	現状、最も厳しい断面での概略検討の段階であるが、議長からご提案いただいたような基礎が大きい形式の擁壁を採用しようとするとう堤防の定規断面といわれる、侵してはいけないラインを侵すこととなるため、ブロック積のような基礎の小さい形式が最適ではないかということとで検討を進めている。
議長	前面には道路もあり、建物からはある程度離れていることもある。
オブザーバー	擁壁が崩れたり転倒したりした場合も道路を挟むことで直接民地側に影響があるような位置関係とはなっていない。また景観的にも D/H といった指標があり、道路の幅と沿道の高さの比によって圧迫感が変わってくるが、一般に道幅が広ければ圧迫感は軽減されると考えている。
委員	実際の擁壁の高さはどのくらいなのか？
荒上	天端部分の平場を広げれば広げるほど擁壁は高くなるという関係にあり、利活用に必要となる平場に応じたの検討となるが、現計画では概ね 3～5m 程度の高さになると思われる。皆さまのお住まいの地盤高から堤防計画高までが概ね 5m となっているが、道路の計画縦断や地盤高などで箇所毎に擁壁の高さは異なってくる。
議長	圧迫感など景観については、垂直ではないし、下に土の部分があると緩和される。今は抽象的な議論となっているため懸念があると思うが、ビジュアルにみせるとよい。ただ、元々、堤防天端を利活用した

	<p>いという要望がなければ擁壁もないし、ただの堤防法面になる。その意味では、もちろんメリットデメリットがあるが、利活用するための天端平場を拓げるために必要なものなので、圧迫感などのマイナス要素をできるだけ減らしながら新たな魅力をいかに作っていくかということだと思う。</p>
委 員	<p>擁壁をつくるなら、フリークライミングとかスポーツの活用、本格的ではなくても子供が登るとかの活用も可能かもしれない。</p>
議 長	<p>施設として対応しようとする和管理瑕疵などの問題もいろいろ出てくると思う。推奨はしないが、市民レベルで使う分には色々活用されてもよいかもしれない。例えば、彩湖などではウインドサーフィンが市民レベルで活用されてきたのではなかったと思う。</p>
荒 上	<p>彩湖については、自然保全ゾーンなど利活用を禁止したエリアなどもあるが、親水ゾーンなどでは利活用いただくエリアとしている。</p>
意見⑩ 委 員	<p>どろいんきょ階段の前などの根固めブロックはそのままとなるのか？例えば舟を浮かべたたり、どろいんきょの川入りするとか防災訓練などで利用するときに邪魔になると思う。</p>
事務局	<p>水位の状況などによるが、利活用に問題があるのであれば、安全性などを確認しながら撤去なども検討する。現状は木工沈床などが水面下にあり、利用できるようになっていると思われる。</p>

議 長	いずれにしても完成後には利活用に合わせて調整を実施していくということによろしいかと思う。
5. その他	
(1)	事務局よりその他(1)について、資料5を説明。質疑応答に移る。
意見①	
委 員	周辺整備というのは、道路の拡幅だけになるのか？ドッグランなどの計画は周辺整備に含まないのか？
事務局	市で整備を行うものとして現状検討しているものは提示したものとなるが、ドッグランなど民間連携を含む部分については、今後検討していきたい。
議 長	学生提案でも、ドッグランは民間活用をイメージしていた。ドッグランカフェもあるし訓練施設もある。戸田市の彩湖・道満グリーンパークでは、ドッグランを整備し人気があるスポットとなっている。戸田市では、公園内ということで公社が運営しているが駐車場の有料化などとあわせて運営しているようである。
意見②	
委 員	民間連携を考えていくということで、駐車場についても今後検討いただきたい。また、回遊性を高めていくという点からは、平方公民館から堤防への道の拡幅なども考えられる。

事務局	地区毎の個別の提案・要望などは、自治会等を通じて、まとめて意見としていただければ、今後検討していきたい。
議 長	決定機関ではないので、地元として意見を出していただくことは良いと思うが、この協議会ではどうしても堤防中心の議論を中心としていっているということである。
5. その他 (2)	事務局よりその他(2)について、資料6を説明。質疑応答に移る。
意見① 委 員	堤防の完成予定について、会議では2030年、回覧などでは未定と相違があるが、どのようなになっているか？
荒 上	大枠として2030年完成を目指して事業を進捗していることは変わらないが、用地買収などにより計画通りに必ずしも進むものではないことから、ケースにより臨機応変に対応の上、提示させていただいている次第である。
議 長	予算的な問題があるわけではないか？
荒 上	日本全国で自然災害が多発しており、国土交通省として一律に国土の安全性を高めていくという中で、今回の能登地震のように実際に被害のあった地域などへの手厚さという点では地域差が出てしまう面もあるが、計画を進めていくための予算要求をしていくことに変わりはない。

<p>4. 閉会 ～12：00</p>	<p>嶋田副会長より閉会の言葉</p> <p>以上</p>
-------------------------	-------------------------------

●会議写真



第3回上尾市かわまちづくり協議会 次第

日 時 令和 6 年 1 月 1 7 日 (水)

1 0 : 0 0 ~

場 所 平方支所 会議室

1 開 会

2 議事録署名人の選出

3 報 告

(1) 第2回上尾市かわまちづくり協議会について (資料1)

(2) 堤防視察会・ワークショップ・市民コメント・学生提案について (資料2)

4 議 題

(1) 上尾市かわまちづくり計画書・整備の提案について (資料3・4)

5 そ の 他

(1) 周辺整備について (資料5)

(2) 今後のスケジュールについて (資料6)

6 閉 会

資料一覧

1. 次第

2. 座席表

3. 資料1 第2回上尾市かわまちづくり協議会について

4. 資料2 堤防視察会・ワークショップ・市民コメント・学生提案について

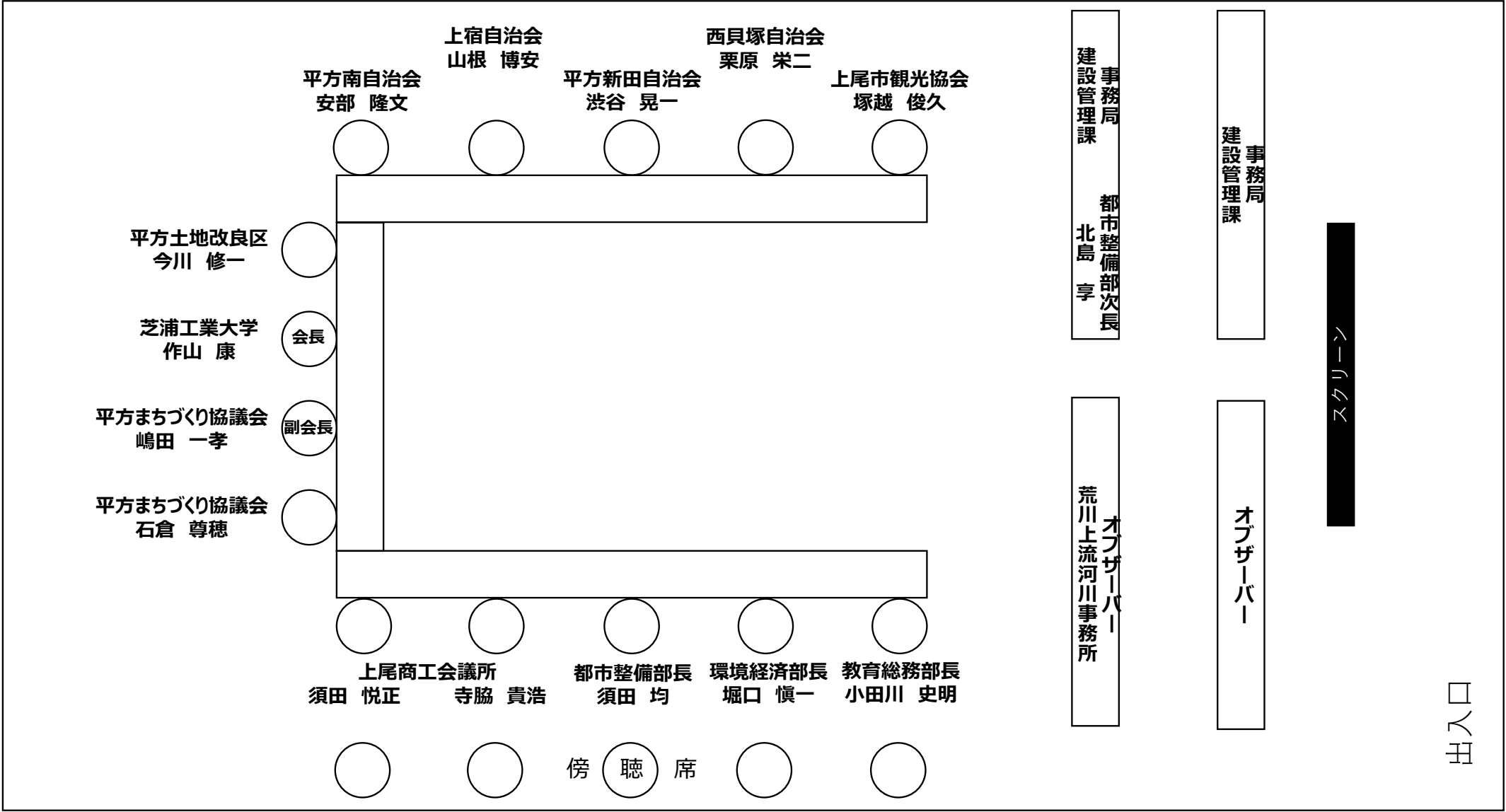
5. 資料3 上尾市かわまちづくり計画書

6. 資料4 整備の提案について



7. 資料5 周辺整備について

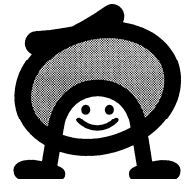
8. 資料6 今後のスケジュールについて

座 席 表



会 議 録

会議の名称	第2回上尾市かわまちづくり協議会	
開催日時	令和5年7月20日(木) 午前 9時50分から 午後12時00分まで	
開催場所	平方公民館 講座室1・2	
議長(委員長・会長)氏名	作山 康	
出席者(委員)氏名	嶋田 一孝、石倉 尊穂、安部 隆文、山根 博安、栗原 栄二、 今川 修一、須田 悦正、寺脇 貴浩、塚越 俊久、小田川 史明、 堀口 慎一、須田 均(会長含め13名)	
欠席者(委員)氏名		
事務局(庶務担当)	都市整備部 北島次長 都市整備部 建設管理課 吉川課長、大畑主幹、小森主任、岩城	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 上尾市かわまちづくり計画の概要について (2) 堤防の利活用について	別紙のとおり (全て報告事項)
議事の経過	別紙のとおり	
会議資料	1. 次第 2. 座席表 3. 資料1 第1回上尾市かわまちづくり協議会議事録 4. 資料2 上尾市かわまちづくり計画概要 5. 資料3 堤防の利活用について 6. 資料4 スケジュール案	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 5 年 9 月 5 日 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;"> 署名 <u>安部 隆文</u>  </div> <div style="text-align: center;"> 署名 <u>石倉 尊穂</u>  </div> </div>		



第2回上尾市かわまちづくり協議会

会 議 録

日 時 令和5年7月20日(木) 午前9時50分から
場 所 平方公民館 講座室1・2

<div>9 : 50～</div> <div>1. 開会</div> <div>2. 議事録署 名人</div> <div>3. 報告 (1)</div> <div>4. 議題 (1)(2)</div> <div>質問① 委 員</div> <div>事務局</div> <div>議 長</div>	<div>事務局より開会のあいさつ、出席者の確認、資料の確認。</div> <div>作山会長より挨拶</div> <div>作山会長に議長にお願いする。</div> <div>本会議の会議録署名人は、安部委員、石倉委員の2名に、書記は事務局の岩城主任にお願いする。</div> <div>非公開事項の確認、傍聴人の有無の確認。</div> <div>(1) 第1回上尾市かわまちづくり協議会について、事務局より報告。</div> <div>事務局より議題(1)(2)について、資料2、資料3を説明。質疑 応答に移る。</div> <div>第1回上尾市かわまちづくり協議会の中で、会長からインスタ映え する風景等の提案を頂いたが資料に記載はあるのか？また、イベント 来訪者と防災倉庫との併用で倉庫の記載がされているが、イベント時 に利用する倉庫も必要という議論も出ていたため、併用の倉庫という 記載ではなく、イベント用倉庫という記載も必要ではないか？</div> <div>資料に記載はないが、インスタ映えするような夕焼けやモニュメン ト等のスポットや写真撮影等が出来ればと考えている。また、倉庫に についても記載する。</div> <div>自然資源や人の行動でインスタ映えする要因になるが、仕掛けがと ても重要である。トイレや倉庫などの構造物に建築家にデザインして もらうなど、人が集まるきっかけづくりをしていく必要があると考え</div>
---	---

<p>質問②</p> <p>委員</p> <p>議長</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>議長</p> <p>荒上</p> <p>委員</p>	<p>る。</p> <p>パース絵を見ると堤防の法面が緑になっているが、夏になると草が生えてしまう恐れがある。彼岸花や菜の花など植物を植える予定はあるか？</p> <p>芝桜の話も出ていたが、浦安市では高校生がクラブ活動の一環として芝桜を植え、維持管理にも関わっていた。周辺の高校生がクラブ活動として植栽の管理を行うのも面白いのではないか。</p> <p>今のご意見の中で彼岸花の話があったが、過去に新田で彼岸花を増やしてほしいといった意見を荒川上流河川事務所に提案したが、難しいという回答だった。その辺りについてもご意見をお聞きしたい。</p> <p>上尾市としては、堤防の法面については荒川上流河川事務所と協議しながら進めていきたいと考えている。ただ、堤防に支障がない箇所（堤防の裏法等）については、植栽等は可能との回答を頂いているため、再度確認させていただく。</p> <p>堤防内の法面について、戸田市で事例があるため全面植栽が不可能ということはないと思う。ランドスケープデザイナーに依頼し、植栽などをスロープや道沿い等の部分的に使用できないかも合わせて確認してほしい。</p> <p>堤防の法面は、法面の保護を前提としているため基本的に芝を張るような構造にしている。芝は根が深く張らないが密に根を張るため、堤防の土を雨水から守る役割がある。菜の花は根が太く深いため、堤防を管理する上で、あまり相応しくない。また、一部分だけ植栽を利用できないかという話があったが、これについては検討させていただく。</p> <p>昔から彼岸花を植えている理由として、モグラ対策のために植えて</p>
---	---

	<p>いる。現状、堤防に生えている彼岸花は撤去されており、モグラ対策として考えると彼岸花は最適ではないかと思うが、新田で彼岸花を植えようと考えていた際に、環境団体から彼岸花は外来種のため植えることができないと聞いた。そのため、彼岸花は植えていないのではないかとも思う。その辺について、荒川上流河川事務所の意見を聞きたい。</p>
荒 上	<p>堤防に観賞目的に彼岸花を植えているのは実態としてないのではないか。おそらく自然発生した彼岸花が堤防に生えているのではないかと思う。越辺川周辺のように彼岸花が観光的な所となっているのもあるが、観光目的で植えているわけではないと思う。</p>
委 員	<p>昔の築堤事業には彼岸花が生えていたが、現在の築堤事業では彼岸花が撤去されている現状である。昔の築堤事業ではカラシナを生えており、地域住民の憩いの場所となっていたところもあった。地域住民の憩いの場としてそういう花を植栽するのもいいのではないかと思う。</p>
質問③	
委 員	<p>菜の花や彼岸花の話が出ていたが、この事業は人を集客したいという目的で考えるとあまり効果がないと思う。実際に開平橋の川越市側に菜の花が植えているところがあるが、わざわざ菜の花を見に行く人がどれくらいいるのかと疑問である。開平橋から見ると綺麗とを感じるが、今回の堤防で歩くスペースが限定されている所に菜の花等を植えてしまうと、ただ綺麗だと思うだけの場所になってしまう恐れがある。パース絵のような芝生で人が集い、休憩できるスペースがある方が堤防をより活用できるのではないか？</p>
議 長	<p>植栽を多く植えるのではなく、アクセントとしてデザインすることや地域団体、学生などの活動で人を集まる仕掛けとして、おしゃれに</p>

<p>質問④</p> <p>委 員</p> <p>事務局</p> <p>荒 上</p> <p>事務局</p> <p>質問⑤</p> <p>委 員</p> <p>議 長</p> <p>事務局</p>	<p>植栽を入れていく必要があるのではないかと思います。</p> <p>既に階段護岸が整備されている所があると伺っているが本当か？</p> <p>また、花火大会の観客席の想定として、上尾市かわまちづくり協議会で階段護岸の見学会を実施したりすることは可能か？</p> <p>一部ではあるが、階段護岸が整備されている所はある。また見学会についても、荒川上流河川事務所と協議し、実施できればと考えている。</p> <p>階段護岸が出来ている個所は、一昨年度の 9 月に工事で地滑りがあった所である。令和 5 年 8 月末に竣工する予定であるため、見学会ができないか施工業者等と協議してみる。</p> <p>階段護岸は花火大会の観覧席として考えており、法面についても斜面が急ではないので観覧席として利用できるのではないかと考えている。また、通常、8 月上旬に花火大会を実施しているが、法面については開催前に草刈りを行う予定である。</p> <p>ライフライン関係で、停電等で電気が来ないなどの想定や施設の管理費などの補填として、太陽光パネルの設置は想定しているのか？</p> <p>上尾市壺丁目で施工した区画整理の公園で太陽光パネルの設置を行っている。また、公園内に防犯カメラも設置しているため、河川でも設置可能と思うが可能性としてはどうか？</p> <p>ライフラインについては、トイレや上下水道は考えており、太陽光パネルについても検討していきたいと思う。</p>
--	---

質問⑥	
議 長	戸田市の花火大会では、板橋区と共同で開催しており、板橋区側の堤防の構造は階段護岸となっており、戸田市側の堤防の構造は栈敷席のような構造となっている。また、栈敷席部を花火大会の有料観覧席にしており、とても人気である。今回の堤防の構造的に実現可能かわからないが、栈敷席タイプにすることは可能か？
事務局	今回の堤防計画では勾配的に栈敷席タイプの堤防は難しいと考えている。
質問⑦	
委 員	荒川上流河川事務所が実施した見学会の際に、花火大会で利用が予想される法面がとても急に感じてしまった。法面の勾配は西谷土手の勾配を想定しているのか？
荒 上	前回、見学会で見ていただいたのは低水護岸で、現在市道が通っている所から上部に土盛りする予定である。土盛りした際の勾配は、1 : 3.8 となる予定で、土手については緩やかになるのではないかと考えている。今ある土手よりかは少し急になる可能性があるが、下流は 1 : 4 くらいを想定している。
議 長	先ほど、栈敷席のような構造が難しいとあったが、想定している勾配であれば、栈敷席はできるのではないかと考えているが本当に難しいのか？
事務局	戸田市の栈敷席は、芝の法面部分を行っているのか？
議 長	芝の部分を栈敷席としている。
荒 上	イベント時に仮設として一時的なものであれば設置している事例はある。
議 長	戸田市で行っているので、ぜひ栈敷席については検討してほしい。
委 員	利根川の加須市あたりで栈敷席を行っている所もあるため、全面が

<p>委員</p> <p>荒上</p> <p>質問⑧</p> <p>議長</p>	<p>難しいのであれば、一部だけでも検討していただきたい。</p> <p>昔の堤防の構造では、堤内で栈敷席のようなものが築造されているところもあった。</p> <p>昔の堤防の構造は、台形が積み重なっており、平場のある構造が多かったが、雨が降った際に平場上に水が溜まり、堤防の構造物内に水が浸透する等の問題があった。現在では、平場を設けないパース図のような構造が主流となっているが、今回の堤防で栈敷席ができるかは検討させていただく。</p> <p>水防関連イベントとして、東京のお台場でイーボートを用いて競争するような大会があり、イーボートは救難用のボートであったが、水防訓練と合わせたイベントで親しんでもらえるようなことが出来れば面白いのではないかと思います。そういったイベントを行えば、学生も含めていろいろな取組みができるのではないかと思います。また、民間企業にも声掛けして、イベントの開催などのお手伝いをして頂ければ、水防に関するイベントとしては面白いのではないかと思います。</p> <p>また、その他のイベントとして救命時に使用する浮き輪を投げるイベント等が出来れば、水防訓練と合わせたイベントを実施できるのではないかと思います。また、公園の設計もイベント屋のようなプロを入れて設計をしたりするので、こちらの堤防を整備する際はランドスケープデザイナーに協力していただき魅力的なものができるのではないかと思います。埼玉県でも行う公共事業についてもランドスケープデザイナーを取り入れ、空間のレベルアップを図っている。堤防に行くきっかけづくりとして、ランドスケープデザイナーに依頼してデザインしてみるのも面白いのではないかと思います。</p>
--	---

委員	素人では考えつかないことなどがあるので、専門の方に意見をいただくのはいいと思う。
議長	立地的に人が多く訪れる場所ではないため、地域のクラブや学校のクラブ活動で楽しく使用する場所を提供して、利用する人たちがいつの間にか集まってくる場所として、育てていくイメージではないかなと考えている。そのためにも風景などの仕掛けが重要になってくるのではないかと思う。
質問⑨	
委員	<p>予算がいくらあるのかわからない状況で、市としてもこの堤防だけに予算を割くことは難しいと考えている。現実的に言うとイベントを行う人に貸し出すなど、例えば美術大学の学生と連携して彫刻を展示してもらったりすると、インスタ映えするなど効果があるのではないかと考えている。堤防の完成が5年後なのか、10年後なのかわからない状況で、民間事業者に貸し出すというのは現実的ではないので、倉庫などの最小限の設備から考えていく必要があると思う。また、最近の傾向でイベントを実施している方は個人でイベントを開催する方が多くなっており、100人集まれば成功というイベントもあれば、1000人集まれば成功などいろんな規模のイベントがあるため、小さいところから考えていくべきだと思う。キッチンカーについても、実際に出店している方の話では、7割くらいが赤字の現状であり、これ以上キッチンカーが増えるのかというのは疑問がある。その辺も踏まえて現実的にできる範囲の中で企画を練っていく必要があると思う。</p>
議長	<p>トイレや倉庫、電源など最低限あれば便利ではないかと思う。芝浦工業大学では原市団地で月に1度、サテライトラボとしてカフェを開いてピザ等の提供をしている。学生のクラブ活動として20、30人集まれば、それが噂となって人が集まったりする。商売として行うのは難</p>

事務局	<p>しいが、大学生や高校生、地元の方々が楽しむ場、集まる場として堤防を活用することはできると思う。そういったイベントを楽しむ地元のプレイヤーがいると思うので、そのような方々を集めてやっていくのが現実的だと思う。できるところからやっていき、成長過程をイメージして行っていければと思う。</p> <p>そういったことが出来るように電気や倉庫などの最低限のものを整えておいて、いつでも参加できるようにしておくというのも手ではないかと考える。</p>
質問⑩ 委 員	<p>荒川で魚釣りをしている方がおり、入間川からボートを下し、今回計画している堤防周辺で魚釣りをしていたりする。魚釣り等に関連するイベントなどもいいのではないかと思います。</p>
議 長 委 員	<p>魚の種類は何が釣れるのか？</p> <p>ブラックバスやフナ、コイなどが釣れる。小さいボートだけでなく、浮き輪を利用して浮いた状態で魚釣りを楽しんでいる方もいる。</p>
議 長	<p>ある人にとっては有名な場所といった可能性もある。そういった小さな活動がいくつもあることによって人が集まるきっかけづくりになる。河川管理者としては、ボートを利用する釣りの行為は問題ないという認識でいいのか？</p>
荒 上 委 員	<p>ボートの発着場などを勝手に作るなどは問題である。</p> <p>仮に堤防が出来てからボートの発着などが出てきた場合、ボートを使用できない等の規制対象となるのか？</p>
荒 上 事務局	<p>基本的には上尾市の占用となるため、上尾市が管理することとなっているため、相談しながら考えていきたい。</p> <p>利用形態についてはパース絵について、こういった可能性ものを掲載しているので、より具体的な活動については安全性の確保などを考</p>

議 長	<p>えて、個別具体的になる前に考えていく必要があると思う。</p> <p>最初から規制するのではなく、トライアンドエラーで活動していければと思う。</p>
質問⑪	
委 員	<p>堤防が出来上がってから、時代の変化に伴い堤防の形を変更していくことは可能なのか？</p>
荒 上	<p>構造的に変更することは難しいが、堤防上部に構造物等を造ったりすることは河川法の範囲の中であれば可能である。</p>
事務局	<p>本堤に支障がない構造が前提条件になるので、荒川上流河川事務所と協議しながら考えていきたい。</p>
質問⑫	
委 員	<p>議会の一般質問として、協議会の中で検討するという答弁があったため、事務局から説明してほしい。</p>
事務局	<p>令和５年の３月議会において、矢口議員からかわまちづくりに関する一般質問を頂いた。質問の内容は、計画内にカヌーやカヤックのできる船着き場やアーバンスポーツが出来るスポット、ドッグラン等の施設、サイクルポートを作ることが可能かという内容である。上尾市の回答としては、協議会で検討していくと回答している。また、植栽に関しても上尾市の花であるつつじを植えて花祭りが出来ないかなど質問をいただいた。こちらについても検討していきますと回答している。</p>

事務局	<p>議長の言った通り、あくまでもこの計画は堤防の計画を進めていく中で堤防の上部利用について協議し計画していくものである。令和 6 年に記載されていることについては、国に対して行うべきことが記載されているので、審査が通る前提で進めていく予定である。また、堤防上部の活用方法は皆様方の意見を聞きながら行っていくが、堤防周辺だけの話ではなくなっている、庁内の関係各課で行われている庁内検討会議で周辺にある上尾丸山公園や平方野球場等の公共施設とどのように連携させていくのか協議をしている。庁内検討会議で議論した内容については、平方地区のまちづくり協議会に諮っていき検討していきたいと考えている。上尾市としても堤防上部の利活用と合わせてどのように周辺整備をしていくか重要と考えている。</p> <p>市民コメントについては、意見が多数出る可能性がある。その場合は、市民コメントの意見を分類し、市民コメントの状況を踏まえて再度協議会を行うのか検討していきたい。また、庁内検討会議で市民コメントの内容についても協議を進めていきたい。</p>
議長	<p>第 5 回までかわまちづくり協議会を実施する可能性があるということか？</p>
事務局	<p>市民コメントの状況をみて、判断していきます。</p>
議長	<p>市民コメントが多く出てくると思う。構造物の整備等の最低限は上尾市で行ってもらうが、市民が率先して管理することや昨今は市にお任せする時代でない、市民の方々が管理しやすいように市が応援するスタンスがここで行うかわまちづくりなのかなと考える。また、「みんなの川床づくり」のようなキャッチフレーズを作ることで、ほかの方々から楽しいことをやっている雰囲気と捉えられるので、そのようなキャッチフレーズを作ってみるのもいいのかなと思う。</p>

質問②	
委 員	直接は関係ない話になるかもしれないが、現状の計画として 2030 年までに完成させる計画で動いていると思うが、変更はないか？
荒 上	2030 年の完成を予定している。
委 員	堤防周辺で用地買収を進めていると思うが、順調に進めているのか？また、インターネット上にリバーサイドフェニックスゴルフクラブの使用期限が 2 年間延長されたと見たが、囲繞堤（いぎょうてい）が 2 年間遅れるということになるが、2032 年に繰り越されるのではないか？
荒 上	囲繞堤（いぎょうてい）は荒川調整池工事事務所の管轄であり、荒川上流河川事務所としては詳細なことは伺っておりません。
委 員	ゴルフクラブの用地買収については、荒川上流河川事務所は関係ないのか？
荒 上	荒川上流河川事務所の他の担当課が担当しているため、詳しいお話は把握していない。
委 員	今のお話から 2030 年完成予定から完成が先延ばしになるというのは大きな話だと思う。また、他の用地買収についても完了していない状況とお聞きしているが、より堤防整備に影響が出てくるのではないかと思う。
荒 上	他の用地買収については順調に進んでいると聞いている。ただ、移転先などの調整で期間を要していると思われる。
委 員	工事が終わらない、後ろ倒しに計画が進んでしまうと、今回協議されている堤防箇所では花火大会が 10 年以上できない可能性が出てくる。ぜひ、花火大会を開催できるように調整を進めてほしい。
事務局	花火大会については上尾市も花火大会を開催したいと考えているので、開催の可能性について関係機関と協議して開催できるように努めていきたい。

質問③	
委 員	堤防の本体工事を進めていくにあたり、周辺環境の整備について触れていかないのか？
事務局	周辺整備については、かわまちづくり協議会ではなく、まちづくり協議会等で説明していきたいと考えている。かわまちづくり協議会は堤防の利活用について協議していただければと思う。改めて周辺整備については、後日協議させていただく。
委 員	最近、地元の方々とお話しする場面があり、堤防の計画について知らない、堤防の上部利用について東屋などは求めている等の意見を聞いた。地元の意見や地域の環境を無視した話で地元の理解を求めなくていいのか？
事務局	<p>話の前後はあるが、基本的な考え方として平方一体のまちづくりとして考えている。今回新しく堤防ができることによって周辺の地区と分断される可能性など様々な問題は出てくると思うが、新しくできる堤防を地区の資産としてどのように生かしていくか考える必要がある。</p> <p>平方地区が衰退しているというお声を聞くので、この資産をうまく活用しながら周辺整備も併せて進めていき、平方のまちづくりとして発展していければと考えている。</p> <p>また、平方まちづくり協議会も上尾市としては活用させていただこうかと考えている。庁内検討会議やかわまちづくり協議会の内容をご提示させていただければと思う。</p>
委 員	平方まちづくり協議会もすべての住民が所属しているわけではないので、庁内検討会議やかわまちづくり協議会でどのように話を進めているか提示してもらいたい。また、反対意見等の少数意見の取り扱いについても、どのように対応していくのか考える必要がある。
委 員	どんなことを行っても反対意見を言う方はある一定はいる。地域全

議 長	<p>体を思っでの発言なのか、または自身の利害のために発言しているのか精査する必要がある。地区全体のお話が出たので、要望として開平橋より南側についても整備している状況であるが、今回議題となっている堤防と同じように道路整備等をお願いしたいと思う。</p> <p>かわまちづくり協議会は堤防上部の利活用を協議する場であり、堤防を創るかどうかは国の計画で決まっていることなので堤防の是非について議論はしない。国防として市民を守るために堤防を創るのであり、我々が行っているかわまちづくり協議会からは回答は行わない。かわまちづくり協議会は、堤防を整備するのでどのように活用しているかを議論する場であるため、住民の方にも理解していただきたい。</p> <p>よければ、自治会でかわまちづくり協議会がこんな議論をしているなど周知していただければと思う。周辺整備については、こちらのかかわまちづくり協議会で議論するものでないことは理解しておりますが、途中報告できる場を設けていただければと思う。</p>
事務局	<p>承知しました、検討させていただく。</p>
委 員	<p>地区の住民に対して、堤防の説明が不十分だったかもしれないと反省している。改めて地区の班長に資料を用いてお話ししようかと思っている。</p>
委 員	<p>これまでに堤防の説明会や調整池の説明会等を行っているが、そこに参加している人については事業に関して理解がある方と考えている。また、荒川上流河川事務所や荒川調節地工事事務所から回覧等で周知を行っているはずなので、その回覧を見ているのであれば、どのように今後進むのかはわかるはずである。</p>
委 員	<p>実際にどのような堤防ができる等の概略図はできているが、実際に作成してみないとわからないところもある。</p>
事務局	<p>庁内検討会議では半径 1 キロ圏内で、どのような公共施設があるかなどピックアップを行い、どのような整備ができるか検討している。</p>

	<p>いろんな課題が多く上がっているので、出来るもの出来ないものを判断して進めていきたい。</p>
議 長	<p>形が見えない中で議論するのは難しいが、周辺整備に関する情報などは提示できるか？</p>
事務局	<p>次回の平方まちづくり協議会に周辺整備について提示することは可能である。</p>
議 長	<p>次回の平方まちづくり協議会はいつ実施する予定か？</p>
委 員	<p>未定である。</p>
事務局	<p>次回の平方まちづくり協議会では、庁内で検討している周辺整備について提示できます。</p>
議 長	<p>形が見えない中で議論するのもわからないと思うので、芝浦工業大学の学生に模型を作らせようかと考えている。12月まで時間を要してしまうが、大学の講義の一環としてお手伝いできればと考えている。</p>
事務局	<p>第3回かわまちづくり協議会について、平方公民館で行う予定となっている。協議会への傍聴参加の回覧板を事務局で作成し、平方の住民に回覧を行います。かわまちづくり計画の案が決まり、市民コメントのタイミングで自治会宛に市民コメントを行う旨を回覧できればと思う。また、地元の方々が興味関心のある周辺道路等の整備については、上尾市の方と協議をして進めていきたいと思う。</p> <p>改めて、平方まちづくり協議会の場で説明させていただければと思う。</p>
委 員	<p>広報やホームページに掲載されていることを見る方は、関心がある方が中心で年齢が高い人はあまり見ないと思われる。情報の出し方を自治会としてもやるが、情報共有していただくと助かる。</p>
<p>4. 閉会 ～12：00</p>	<p>嶋田副会長より閉会の言葉</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

●会議写真



堤防視察会・かわまちづくりワークショップ

【概要】

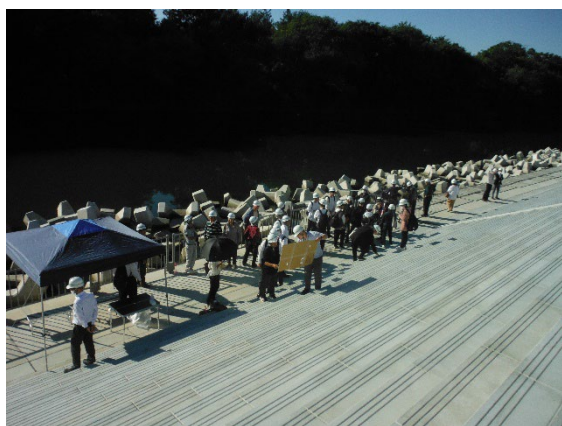
日時：令和 5年10月23日（月） 14：15 ～ 16：45

場所：荒川堤防・平方公民館 講座室 1・2

参加者：市民 21名・芝浦工業大学 9名

（上尾市・荒川上流河川事務所・(株)東京建設コンサルタント）

堤防視察会の様子



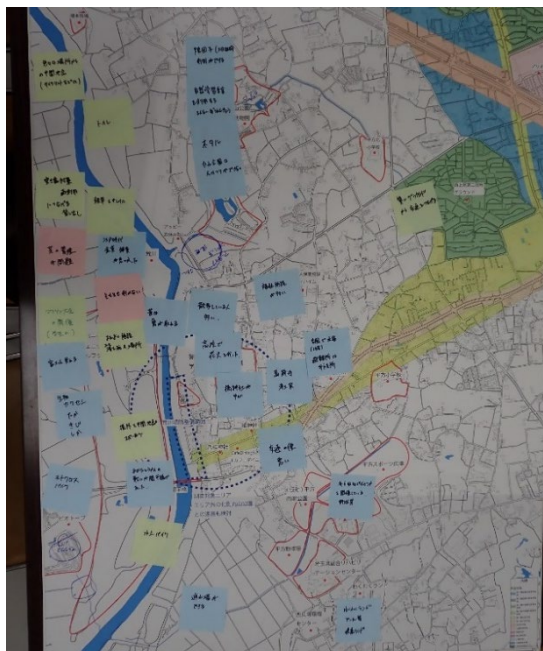
ワークショップの様子

【主な議題】

①周辺整備について ②堤防の利活用について ③社会実験について
各班のとりまとめ（一部抜粋）

主な意見

- ・上尾橋高校との連携（部活動等）
- ・ドッグ施設（ドッグラン等）
- ・自然の活用（釣り・天体観測等）
- ・フリーマーケット、無人販売



上尾市かわまちづくり計画（案）に関する市民コメント結果

上尾市市民コメント制度要綱に基づき、上尾市かわまちづくり計画（案）の市民コメントを実施したことから、以下の通り結果報告いたします。

○実施期間：令和 5（2023）年 11 月 22 日（金）～令和 5（2023）年 12 月 22 日（金）

○対 象 者：上尾市内に在住・在勤・在学の人
上尾市内に事務所・事業所・固定資産を有する人、利害関係者

○実施方法：計画（案）・意見書を公共施設へ設置するほか、市ホームページに掲載

○設置場所：建設管理課、市役所 1 階情報公開コーナー、各 支所・出張所・公民館

○実施結果：

1. 提出の方法と人数

提出方法	提出人数	摘要
1. 直接窓口		
2. メール	1 人	
3. ファックス		
4. 郵 送		
5. その他		
合 計	1 人	

2. 意見と回答

ご意見がある箇所	意 見	回 答（市の考え方）
全体及び特に p 7 (③広域利用者の立寄・発着地)	<p>平方地区にある荒川対岸側の三ツ又沼ビオトープも広域利用者の立寄・発着地の観点や計画全体の中で取組みの連携を図っていただきたい。</p> <p>また、計画を検討する上で添付のリーフレット「歴史と文化と自然に育まれた河岸町平方」や「昔の荒川・三ツ又を語る会」を参考にしていきたい。</p>	<p>上尾市かわまちづくり計画(案)の策定をかわまちづくり協議会にて行っているため、自然学習等の観点も含めて三ツ又沼ビオトープとの連携について検討してまいります。</p>

三ツ又沼ビオトープについて



三ツ又沼ビオトープとは…

荒川の河口から48km地点付近の開平橋上流の河川敷にある三ツ又沼は、埼玉県上尾市、川越市、川島町の境に位置する、荒川と入間川のかつての合流点付近の旧流路の一部です。

この沼を中心とした地域では、水生植物や湿地性の植物が豊かに茂り、様々な野鳥やトンボ類が暮らし、メダカやスミレなどかつて身近に見られた動植物のほかにも、ミクリ、エキサイゼリ、ハナムグラなどの希少な植物も多く確認されています。

引用：荒川上流河川事務所HP



(案)

2024.1.17ver

<様式 1>

(番号)

令和〇年〇月〇日

(関東地方整備局長経由)
国土交通省 水管理・国土保全局長 殿

上尾市 市長 畠山 稔

「かわまちづくり」計画の登録について（申請）

「かわまちづくり」支援制度実施要綱第 7 の規定に基づき、申請いたします。

記

名 称：上尾市かわまちづくり計画

推進主体：上尾市

以上

<様式 2>

市町村及び河川の概要

1. 市町村等の概要

- ①都道府県名 埼玉県
 ②市町村名 上尾市
 ③人口 230,189 人 (令和 5 年 8 月 1 日現在)
 ④面積 45.51km²

2. 河川の概要

①これまで実施済みの関連施策

【荒川・入間川サイクリングロード】

荒川・入間川に挟まれた区域等において、埼玉県により堤防天端等を活用した自転車道が整備されています。

通称	名称	起点	終点	延長
荒川自転車道	さいたま武蔵丘陵森林公園自転車道線	一般国道 17 号 (さいたま市)	武蔵丘陵森林公園 (滑川町)	45.9 k m
入間川自転車道	県道川越狭山自転車道線	荒川自転車道(入間大橋/川越市)	一般国道 407 号(豊水橋/狭山市)	22.8 k m



(写真は入間川自転車道)

図 1 河川沿いの自転車道

【上尾市サイクリングコース】

上尾市市民協働事業*により、上尾市西側地域をめぐる「荒川堤・古刹を巡る自然満喫コース 26km」(上尾西ルート)が設定されており、対象地区の天端道路がルートの一部に設定されています。

*平成 29 年度自転車のまちづくり市民協働事業 自転車のまち“あげお”ステップアップ作戦 パート 7



図 2 上尾市サイクリングコース

②市民や民間事業者による河川利活用状況

【どろいんきょ】

荒川沿川の上尾市平方地区では、八枝神社の夏祭り・祇園祭で行われる行事として神輿のどろいんきょ（県指定無形民俗文化財）があります。白木の神輿を引き回し、民衆の庭先で水を掛けて転がし、人も神輿もどろんこになって豊年満作を祈り、悪疫退散を願います。本来の祭りの行事ではありませんが、神輿の渡御の最中、川入が恒例的行われていきます。



図3 荒川に入る神輿
「平方上宿の祇園祭 どろいんきょ」

【あげお花火大会】

荒川と入間川にはさまれた埼玉県上尾市のゴルフ場が会場となり実施されます。尺玉のほか、音楽花火やメッセージ付き記念花火など、バリエーション豊かなプログラムで魅了します。多くの花火大会では2～7号玉が使われるが、10号玉（尺玉）が数多く打ち上げられます。また、2尺玉も打ち上げられるなど、迫力のある花火大会です。

現在、平方地区の浸水対策のため、国による堤防整備事業が行われています。安全確保の観点から、堤防整備が行われる当面の間は花火大会を休止することが決定しています。



図4 あげお花火大会
上尾市観光協会 Web サイト

【サイクリング】

平方地区は荒川自転車道のメインルートからは外れますが、上尾市サイクリングコースにも設定されている荒川沿い左岸（上尾市内）には、カフェや榎本牧場等の複数の観光資源や休憩スポットがあるため、サイクリストが立ち寄り利用や休息等のために訪れています。



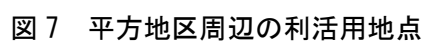
図5 平方地区のサイクリング利用

【ミズベリング】

平方地区では、かわまちづくりの推進に向けて、有志による水辺の乾杯などのミズベリング活動が展開されつつあります。



図6 平方地区での水辺で乾杯



3. かわまちづくりの方針

平方地区は無堤防区間であり、令和元年東日本台風による洪水で38戸が浸水する被害が生じました。この被害に対応して、早期の浸水被害解消を目的として、本堤防に先行して、用地買収を要しない川岸の国有地で整備可能な小堤を整備しています。今後実施される本堤防整備に際し、地域の賑わい形成や、どろいんきょや花火大会等の従来の利活用の継続を目的として、かわまちづくりを進めることとします。

＜上尾市かわまちづくりの基本的考え方＞

地域の安全・安心に寄与すること(方針1)を前提に、地域の方々の日常的な利用(方針2)と来訪者の利用を通じて、新たな交流が生まれることにより地域活性化を目指します(方針3)。

さらに、サイクリング等広域的な利用者の立寄や発着地として活用していきます(方針4)。



【方針1】地域の安全・安心に寄与する	<ul style="list-style-type: none"> 堤防整備による地域の安全・安心 消防活動等、地域の防災活動に資する場
【方針2】地域の情報発信拠点とする	<ul style="list-style-type: none"> 平方地区は舟運(河岸)で栄えた地であり、八枝神社・祇園祭で行われるどろいんきょ等、地域の歴史の伝承の場としての利用を図る。
【方針3】地域内の交流・地域外との交流を通じ、地域活性化を図る	<ul style="list-style-type: none"> 堤防整備において、側帯を整備することにより、交流の場として活用を図る。天端・側帯は、①地域の方々の日常的な散策・交流の場、イベント、屋外レクリエーション活動、水際の親水利用等を通じて、地域居住者以外の来訪者の来訪を促し、地域との交流等を通じて、地域活性化を図る。
【方針4】広域的な利用の立寄・発着地として活用する	<ul style="list-style-type: none"> サイクリング利用の立ち寄り拠点化・まちなか「散走」への誘導、歴史をテーマとした散策利用、上尾丸山公園(総合公園)との連携を通じて、市内各所と連携した広域的な活用を図る。

これまでの上尾市かわまちづくり勉強会や上尾市かわまちづくり勉強会での議論をふまえながら、上尾市かわまちづくりの基本的考え方に基づいた堤防整備後の利活用の方向性について、3つの視点から検討を進めていきます。

＜堤防整備後の利活用の方向性＞

堤防整備後の利活用は、

- ①地域の利用
- ②来訪者等の利用(イベント等)
- ③広域利用者の立寄・発着地としての活用

の3つの視点から検討していきます。

表1 堤防整備後の利活用の方向性(案)(かわまちづくり勉強会等による議論総括)

方向性	利活用	具体的な利用方法の案
地域の利用	①地域の歴史の伝承と地域の憩いの場としての利用	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史の伝承の場としての利用(平方河岸や地域の発展史、旧街並み、築堤前の地域の状況等＝歴史広場・看板設置、屋外レクチャー等) ・どろいんきょの「ころがし」や「川入り」等の利用 ・周辺住民が川を見ながら集い・憩う(場づくり)
	②防災活動	<ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練 ・市民らによる防災訓練・防災体験
来訪者等の利用(イベント等)	③イベントの展開	<ul style="list-style-type: none"> ・あげお花火大会の観覧利用 ・地域の人が集う地域イベント(「市」、農産物直売、ドッグラン等)の開催 ・集客イベントの展開
	④屋外レクリエーション活動	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の暗さを活かした天体観測や焚火等、アウトドア活動(上尾丸山公園天文台の協力連携等) ・課外学習活動等での利用
	⑤親水利用	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺への近づき、釣り ・水上レクリエーション(カヌー等)
広域利用者の立寄・発着地としての活用	⑥サイクリング利用(立ち寄り拠点化・まちなか「散走」への誘導)	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリング利用者の立ち寄り利用の促進(休息、飲食、メンテナンス)(立ち寄り利用による交流・地域活性化や、自転車減速による散策者の安全確保) ・市のサイクリングコース等を活用したまちなか「散走」への誘導 ・自転車を活用した市内の歴史地点(寺社仏閣・史跡等)や街道等を巡る「散走」への誘導
	⑦歴史をテーマとした散策利用(広域連携利用)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史(河岸、寺社、地域銀行や工場跡地等)を巡る歴史散歩 ・中山道や伝鎌倉街道等の街道筋をたどる広域歴史散歩・散走
	⑧上尾丸山公園(総合公園)等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防天端等を活用した散策・自転車ネットワーク利用 ・自然学習館、天文台等職員と連携した荒川の自然観察会

①地域における課題、必要性

荒川水系は、埼玉県秩父山地の甲武信ヶ岳（標高 2,475m）にその源を発しています。荒川は、利根川・江戸川・多摩川等とともに、わが国で最大の広さを持つ関東平野を流れ、東京湾に注ぐ一級河川です。その流域は、東京都と埼玉県を合わせて 20 区 40 市 18 町 1 村にまたがり、面積 2,940km²、人口 930 万人、人口密度約 3,100 人/km²。水道用水供給人口約 1,500 万人。利根川・淀川に次いでわが国の主要河川の中では第三位の人口、鶴見川について第二位の人口密度となっています。

また、流域内の資産額は約 150 兆円、そのうち想定氾濫区域内資産額は約 78 兆円にも達します。（河川現況調査 平成 14 年 3 月/基準年平成 7 年度）

荒川は、江戸時代初期の付替工事（利根川の東遷、荒川の西遷）と明治から昭和初期の荒川放水路の建設という 2 つの大きな付替事業により今の形がほぼ作られました。

平均川幅 1500m、日本一川幅の広い箇所（2500m）、他の河川には見られない 26 本の横堤群、河川敷に残る豊かな自然など多くの特徴をもっています。

しかし、2019（令和元）年 10 月 12 日の台風 19 号にて、荒川からの溢水により、平方地区において浸水被害が発生しました。

荒川の一部は無堤地帯であり、堤防整備による安全安心なまちづくりが地域から強く要望されています。更に、新たな堤防整備により、地区の住居やゴルフ場（クラブハウス等）の移転が必要となる他、県指定無形民俗文化財に指定されている既存伝統行事「平方上宿の祇園祭どろいんきょ」の川入行事やあげお花火大会など当該地区での利活用が実施できなくなっており、地域での利活用の継続と地域活性化が課題となっています。



図 8 台風 19 号（令和元年度東日本台風）による平方地区及び周辺の浸水被害状況

②市町村の地域計画や沿川地域のまちづくりの中での河川の位置づけ

上尾市の行政計画におけるかわまちづくり計画対象である平方地区の位置づけは、下図のとおりとなっており、河川を含む歴史や自然、景観の保全・継承が謳われています。

第 6 次上尾市総合計画
(2021 年 3 月)

- ・平方地区の位置づけ
 - ①「地域拠点」として位置づけ
 - ②土地利用は、「田園保全・活用ゾーン」

上尾市都市計画マスタープラン 2020
(2021 年 3 月)

- ・地区別構想における将来像
「豊かな自然と歴史のある 暮らしやすいまち 平方」

第 2 次上尾市緑の基本計画
(2021 年 3 月)

- ・平方地域の緑の取組み
 - ①上尾丸山公園を中心とした緑の人づくり
 - ②豊かな緑・水辺環境の保全
 - ③伝統的な農村景観の継承

1) 第6次上尾市総合計画(2021年3月)

将来都市像を「みんなでつくる みんなが輝くまち あげお」とし、市民同士がつながりを持ち、協働でまちづくりに取り組むことで、誰もが安心・安全に暮らすことができ、将来にわたり市民と地域が輝き続けるまちを目指すこととなっています。まちづくりを進める上での基本理念を「①安心・安全な暮らし」「②誰もが自分らしく」「③人とつながりのあるまちへ」「④持続可能な未来への責任」とし、将来都市構造は、将来都市像を実現するために、暮らしの場の近くにさまざまな都市機能や働く場が適切に立地し、それらが道路・公共交通のネットワークによって有機的に結びついた「コンパクト・プラス・ネットワーク」型の都市構造を目指しています。

かわまちづくりの対象となっている平方地区周辺は「平方拠点」として地域拠点（地域の中心として、生活関連サービス施設などの充実と災害時の防災活動拠点としての機能を図るエリア）に位置付けられています。



図9 上尾市の将来都市構造図

2) 上尾市都市計画マスタープラン 2020(2021年3月)

都市マスタープランでは、将来都市像の実現に向けたまちづくりを進める上での基本的な考え方として「暮らしの場としての選ばれるまち～便利、快適、活力、安全・安心、魅力を備えた質の高いまちづくり～」を掲げ、「①「便利」と「快適」を実現できるコンパクトなまちの実現」「②暮らしの安定と都市の発展を支える「活力」のあるまちの実現」「③多世代が「安全・安心」に生活できる「魅力」あふれるまちの実現」の3つをまちづくりの基本目標としています。

かわまちづくりの対象となっている平方地域では、荒川や三つ又ビオトープなどの水辺やのどかな田園風景、河岸町として栄えた歴史文化を活かしながら、ふるさととして、愛着の感じられる、便利で暮らしやすいまちの形成を目指し、地域の将来像を「豊かな自然と歴史のある暮らしやすいまち 平方」としています。



図10 平方地域の地区別構想

3) 第2次上尾市緑の基本計画(2021年3月)

緑の基本計画では、緑の将来像を「皆で多彩な緑をつなぐ・ふれあう 共生可能なまちづくり」と定めて、協働により緑のまちづくりを進めていく方針とし、荒川は「水と緑の骨格」に位置づけられています。

かわまちづくりの対象となっている平方地域の緑の取組みでは、「①上尾丸山公園を中心とした緑の人づくり」「②豊かな緑・水辺環境の保全」「③伝統的な農村景観の継承」として、市民とともに上尾丸山公園の自然再生等様々なイベントの実施による市民の生物多様性を学ぶ機会創出、緑の保全意識向上を図る他、荒川・江川流域を中心とした保全配慮地区での水辺と樹林地を一体的な保全、地域の南西部に残る昔ながらの農村景観や、多様な生き物の生息空間を保全するため、水田や畑、農業用排水路などの農地の保全を中心とした取組みを進めることとされています。

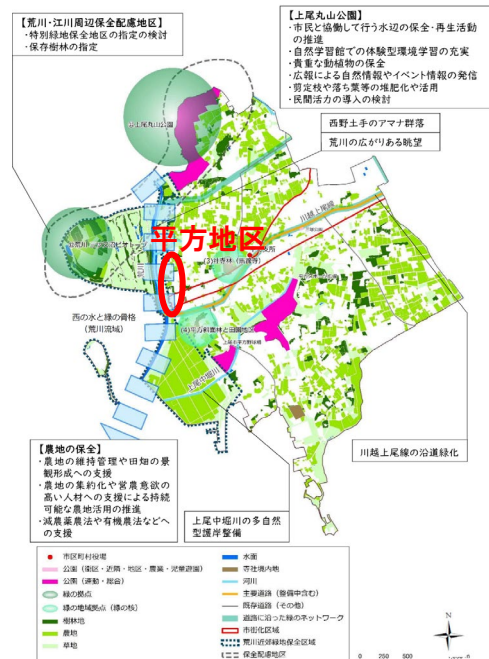


図11 平方地域の緑の取組み

③地域活性化や賑わいあるまちづくりに対する市町村や民間事業者の考え方

地域活性化や賑わいあるまちづくりに向けて、上尾市かわまちづくりにおける市や民間事業者等の考え方を利活用の方向性別に下表に示します。

表2 上尾市かわまちづくりにおける市や民間事業者の考え方

方向性	利活用	上尾市・民間事業者の考え方（今後検討）
地域の利用	①地域の歴史の伝承と地域の憩いの場としての利用	<ul style="list-style-type: none"> ・市による学習看板設置や<u>地域の方</u>によるボランティアガイドによる歴史伝承レクチャーなど ・どろいんきょ行事は、平方4地区の区長等区3役、どろいんきょ保存会会長、八枝神社宮司、当番、若衆頭、子どもの会、愛育班、囃子連や上宿の相談役等により構成される<u>実行委員会</u>により開催
	②防災活動	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>上尾市消防組織</u>による消防訓練 ・市民らによる防災訓練・防災体験（<u>市主催防災イベント</u>など）
来訪者等の利用（イベント等）	③イベントの展開	<ul style="list-style-type: none"> ・あげお花火大会（<u>上尾市観光協会</u>主催）の観覧利用、堤防整備後は有料観覧席等設置可能性検討 ・地域イベント、集客イベント、サイクリングイベントなど（<u>地元農事組合法人、自転車メーカー、キャンプメーカーなどの民間事業者等</u>）
	④屋外レクリエーション活動	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の暗さを活かした天体観測や焚火等、アウトドア活動（<u>上尾丸山公園天文台の協力連携</u>等） ・<u>課外学習活動等での利用（教育機関との連携）</u>
	⑤親水利用	<ul style="list-style-type: none"> ・水上レクリエーション（<u>地域でのカヌー等利用団体、環境学習等を実施するNPO</u>）
広域利用者の立寄・発着地としての活用	⑥サイクリング利用（立ち寄り拠点化・まちなか「散歩」への誘導）	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリング利用者の立ち寄り利用の促進（<u>市による安全・誘導サイン設置等の対策、民間事業者による飲食・休憩スポットの提供</u>）
	⑦歴史をテーマとした散策利用（広域連携利用）	<ul style="list-style-type: none"> ・市によるモデルルート設定やルート案内サインの整備 ・TABIRIN等<u>民間事業者</u>を活用したルート広報
	⑧上尾丸山公園（総合公園）等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>自然学習館、天文台等職員と連携した荒川の自然観察会</u>

④地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標

地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標として、以下を設定します。

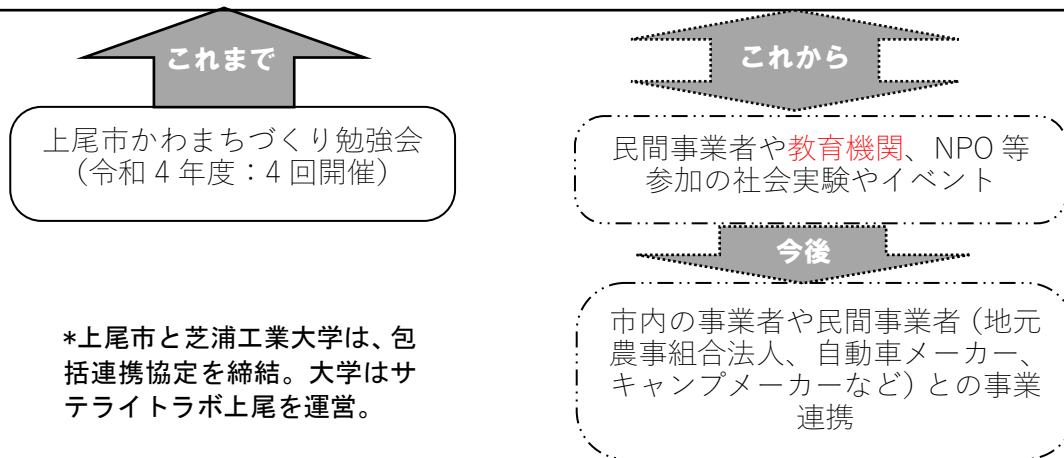
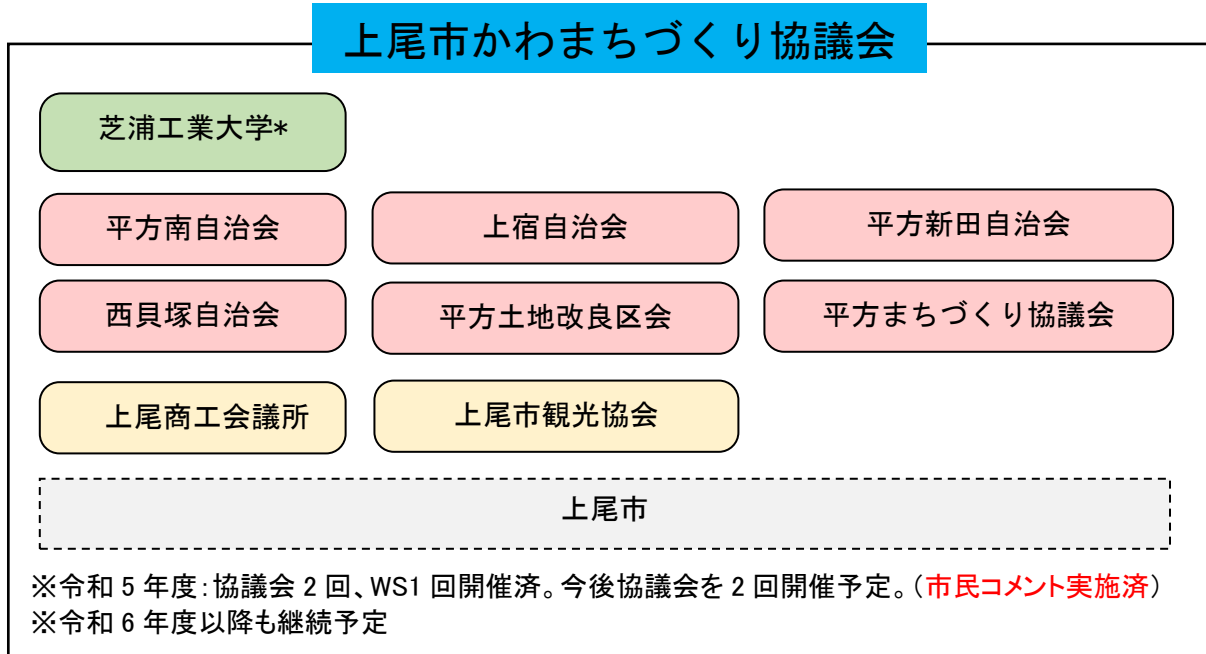
表3 上尾市かわまちづくりにおける定量的目標

方向性	指標	基準値（従前）	定量的目標（整備後）
地域の利用	・ 防災行事開催回数	1回/年	1回/年
	・ 歴史行事開催回数	1回/年	1回/年
来訪者等の利用（イベント等）	・ イベントに係る一時占用届提出数	1回/年 （花火中止前）	5回/年
広域利用者の立寄・発着地としての活用	・ 自転車・歩行者通行量	32,148人/年 （2022年推計）	35,000人/年

4. 推進体制・取組内容

①協議会、運営組織等の体制

令和4年度実施された上尾市かわまちづくり勉強会による準備段階を経て設立された下図構成員による「上尾市かわまちづくり協議会」により、かわまちづくりの検討を進めていきます。将来的には具体の運営・維持管理や利活用に係る地域の合意を確認する推進協議会への発展（民間事業者等のプレーヤーも参画）を想定しています。



②地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する多様な関係者との連携・取組内容

令和4年度に4回実施した「上尾市かわまちづくり勉強会」、令和5年度に設置された「上尾市かわまちづくり協議会」では、包括連携協定を締結している芝浦工業大学の学識者や上尾商工会議所、上尾市観光協会が参画しています。

今後協議会では、上尾市観光協会や上尾市商工会議所と連携した社会実験イベントを実施・運営していく予定です。また、屋外レクリエーション活動では、上尾市丸山公園職員等、各種イベントでは、市と包括連携協定を締結している芝浦工業大学やその他教育機関と連携や協力により運営していく予定です。

これら堤防整備までの期間においての民間事業者や大学、NPO等参加の社会実験やイベントを継続的に実施し、機運を高めていき、将来的にはこれら社会実験成果をふまえた市内の企業や民間事業者(地元農事組合法人、自転車メーカー、キャンプメーカーなど)との事業連携を検討していきます。

5. 都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組

①都市・地域再生等利用区域の指定に向けた、公募や河川敷地の利用調整に関する会の取組等

現段階では未定ですが、「上尾市かわまちづくり協議会」により、前述の社会実験成果等をふまえて検討予定です。

想定される天端拡幅による側帯天端部平場を想定しています。

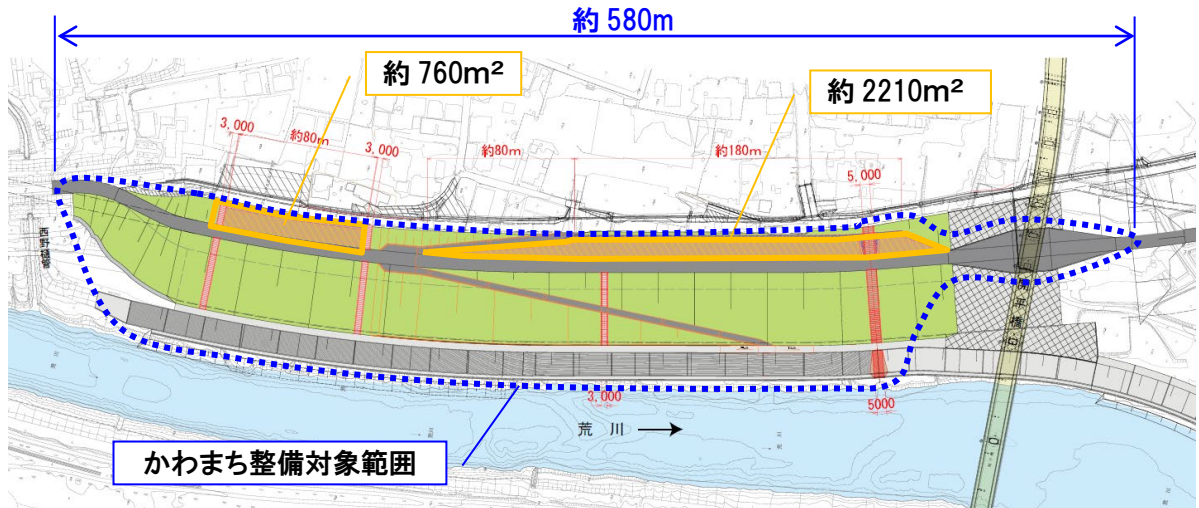


図 12 都市・地域再生等利用区域の指定に向けた想定区域

②都市・地域再生等利用区域の指定年月日

未定（築堤整備完了後）

<様式3>

ソフト施策の個別施策計画書

1. 河川名
荒川水系荒川
2. 提案事業の実施範囲
上尾市平方地区（荒川左岸 48.1 k～48.6k）
3. 提案事業の概要
<p>上尾市を占用許可者として、行政や地元関係者、有識者等から構成する「上尾市かわまちづくり協議会」により検討を実施しながら、民間事業者と連携して河川空間の活用を図っていきます。</p> <p>ソフト施策では、地域活性化や賑わい創出に資するように①地域の利用、②来訪者等の利用（イベント等）、③広域利用者の立寄・発着地としての活用の3つの視点から検討、展開していきます。</p> <p>【地域の利用】<市・地域の方が主体となり活用></p> <p>①地域の歴史の伝承と地域の憩いの場としての利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史の伝承の場としての利用（平方河岸や地域の発展史、旧街並み、築堤前の地域の状況等＝歴史広場・看板設置、屋外レクチャー等） ・どろいんきょの「ころがし」や「川入り」等の利用 ・周辺住民が川を見ながら集い・憩う（場づくり） <p>②防災活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練 ・市民らによる防災訓練・防災体験 <p>【来訪者等の利用（イベント等）】<市・商工会議所・観光協会が連携し、民間事業者参画を促す></p> <p>③イベントの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あげお花火大会の観覧利用 ・地域の人が集う地域イベント（「市」、農産物直売、ドッグラン等）の開催 ・集客イベントの展開 <p>④屋外レクリエーション活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間の暗さを活かした天体観測や焚火等、アウトドア活動（丸山公園天文台の協力連携等） ・課外学習活動等での利用 <p>⑤親水利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水辺への近づき、釣り ・水上レクリエーション（カヌー等） <p>【広域利用者の立寄・発着地としての活用】<散策・自転車ネットワークによる広域展開></p> <p>⑥サイクリング利用（立ち寄り拠点化・まちなか「散走」への誘導）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイクリング利用者の立ち寄り利用の促進（休息、飲食、メンテナンス） （立ち寄り利用による交流・地域活性化や、自転車減速による散策者の安全確保） ・市のサイクリングコース等を活用したまちなか「散走」への誘導 ・自転車を活用した市内の歴史地点（寺社仏閣・史跡等）や街道等を巡る「散走」への誘導 <p>⑦歴史をテーマとした散策利用（広域連携利用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史（河岸、寺社、地域銀行や工場跡地等）を巡る歴史散歩 ・中山道や伝鎌倉街道等の街道筋をたどる広域歴史散歩・散走 <p>⑧上尾丸山公園（総合公園）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤防天端等を活用した散策・自転車ネットワーク利用 ・自然学習館、天文台等職員と連携した荒川の自然観察会

<様式 4>

ハード施策の個別整備計画書

1. 河川名

荒川水系荒川

2. 整備範囲

上尾市平方地区（荒川左岸 48.1 k~48.6k）



側帯の整備
（イベント広場・駐車
スペース・修景植栽/
花壇等）

側帯の整備
（イベント広場・あずまや（サイクルステーショ
ン）・トイレ・防災倉庫・イベント倉庫・建屋（仮
設店舗、イベント時詰所）・修景植栽/花壇・どろい
んきょ・ころがし場等）

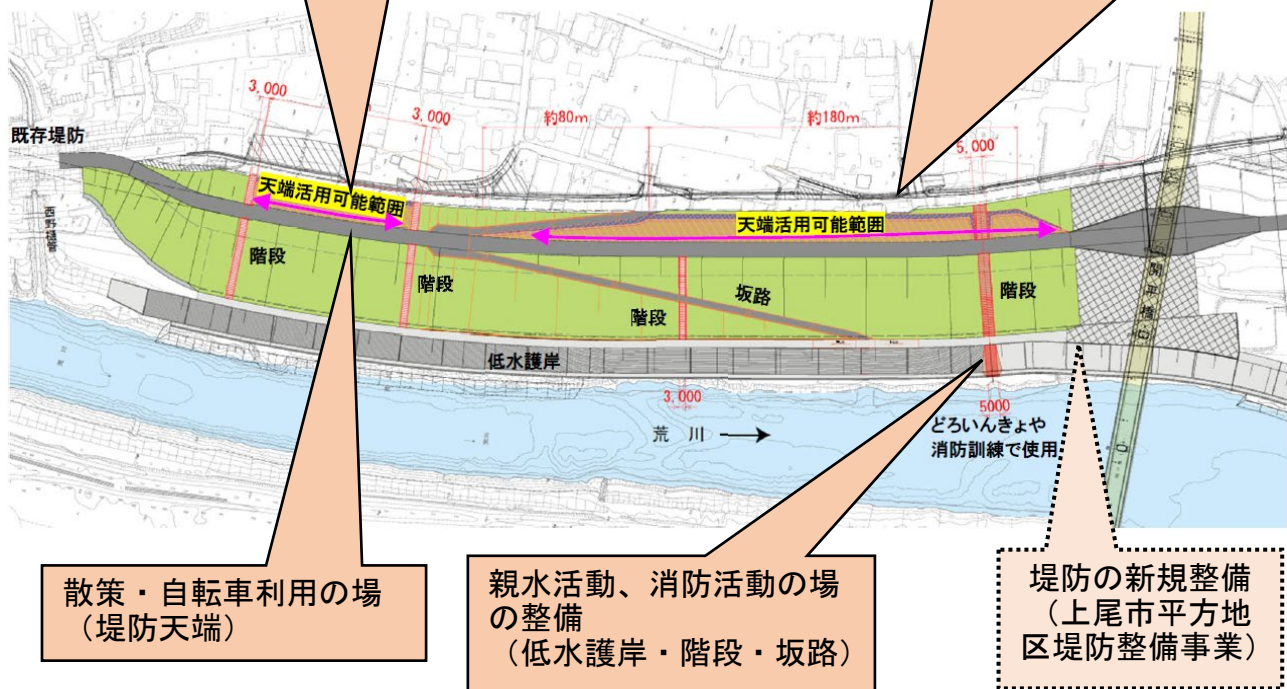


図 13 全体位置図

3. 整備内容

次の施設の整備を検討します。

上尾市（観光協会・商工会等含む）	河川管理者（国土交通省）
<ul style="list-style-type: none"> ● 休息・休憩に供する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ あずまや（サイクルステーション） ・ トイレ ・ ベンチ ・ 修景植栽・花壇（ツツジ・灌木等） ● イベント等地域活性化に資する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント広場、駐車スペース ・ 建屋（仮設店舗、イベント時詰所） ・ イベント倉庫 ● 地域の情報発信に関する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看板 ・ 誘導表示 ● 地域文化の伝承に関する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ どろいんきょ・転がし場 ・ 歴史性に配慮した修景、説明モニュメント ● 防災に関する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災倉庫、シェルター等 <p>上記施設に必要となるその他安全・ライフライン施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 転落防止柵 ・ 上下水道 ・ 電源引込、照明 	<p>（堤防整備に伴う付帯施設整備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 側帯 ・ 堤防部の坂路・階段 ・ 親水護岸・階段護岸

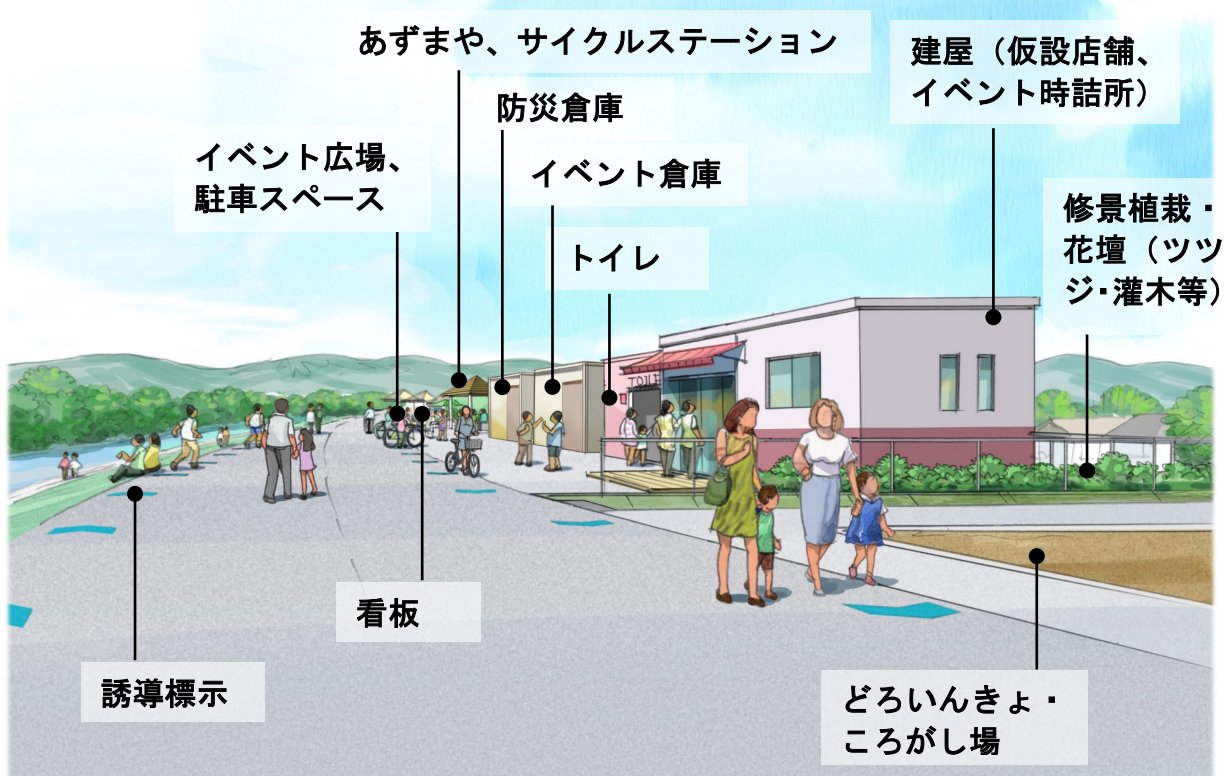


図 14 上尾市かわまちづくり・整備イメージ(1)

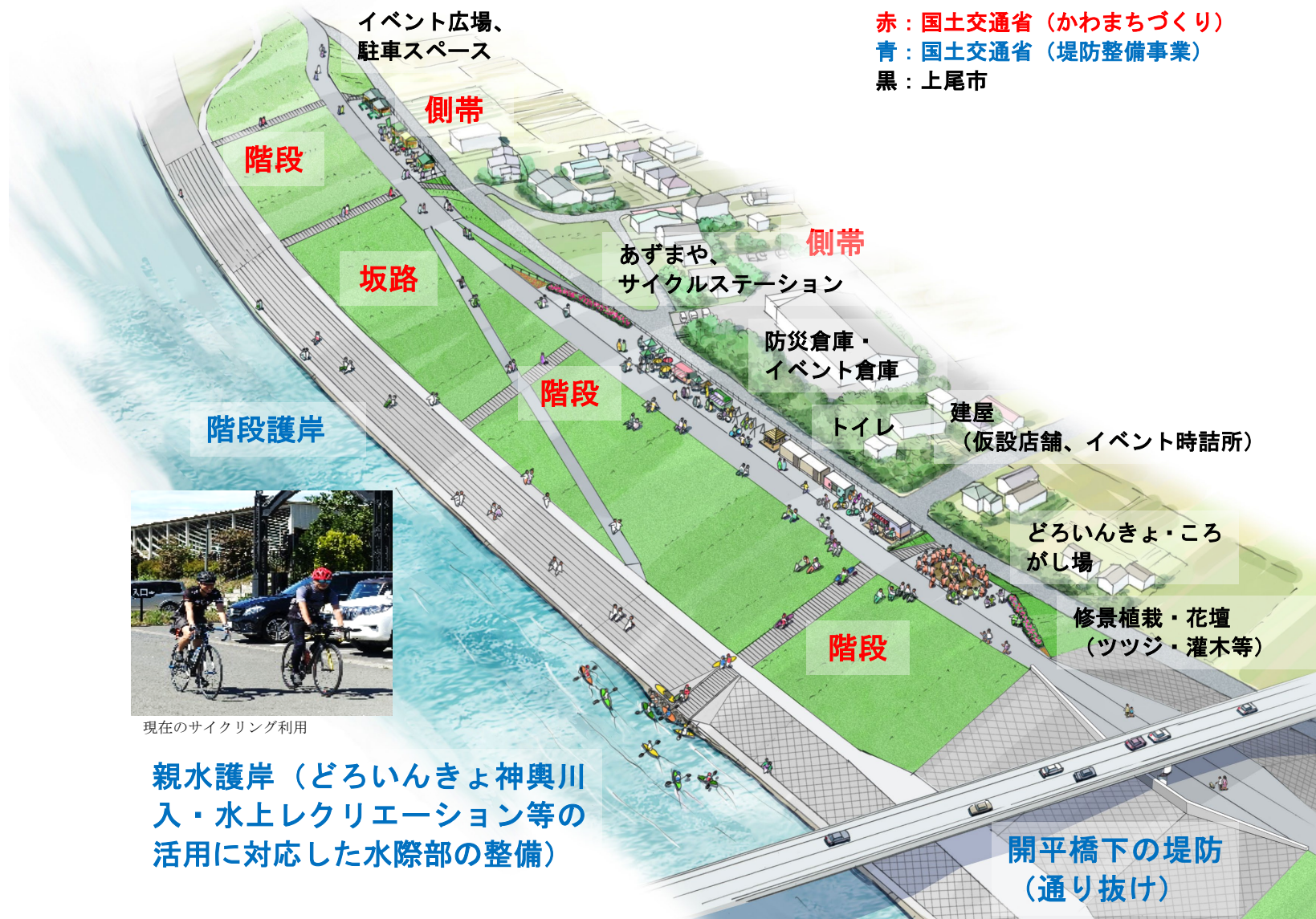


図 15 上尾市かわまちづくり・整備イメージ (2)

4. 整備の実現方策

・関連事業の整備計画

荒川平方地区では、上尾市平方地区堤防整備事業が実施中であり、堤防整備事業と当該事業との一体的な整備により、親水性を活かした魅力的な水辺等環境空間の創出を図ることができる。

・役割分担

	上尾市（観光協会・商工会等含む）	国土交通省
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・どろいんきょ・花火大会等の従来の行催事の継続的实施 ・地域イベント・集客イベントや屋外レクリエーション等のイベント開催支援 ・大学との連携による地域活性化方策 ・地域の情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市・地域再生等利用区域指定支援（事業運営上の必要性に応じて実施） ・先進事例等の情報提供
ハード	<ul style="list-style-type: none"> ● 休息・休憩に供する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・あずまや（サイクルステーション） ・トイレ ・ベンチ ● 修景植栽・花壇（ツツジ・灌木等） ● イベント等地域活性化に資する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・イベント広場、駐車スペース ・建屋（仮設店舗、イベント時詰所） ・イベント倉庫 ● 地域の情報発信に関する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・看板 ・誘導表示 ● 地域文化の伝承に関する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・どろいんきょ・転がし場 ・歴史性に配慮した修景、説明モニュメント ● 防災に関する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・防災倉庫、シェルター等 <p>上記施設に必要となるその他安全・ライフライン施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転落防止柵 ・上下水道 ・電源引込、照明 	<p>（堤防整備に伴う付帯施設整備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・側帯 ・堤防部の坂路・階段 ・親水護岸・階段護岸

・整備工程

事業者	事業内容	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
上尾市	広場修景					
	休息・休憩施設					
	イベント関連施設					
	情報発信施設					
	地域文化伝承施設					
	防災関連施設					
国土交通省	堤防関連施設整備					

5. その他特筆すべき事項

●どろいんきょ（上尾市指定無形民俗文化財（S57 指定）、「平方祇園祭のどろいんきょ行事」として埼玉県指定無形民俗文化財（H23 指定））

（１）概要

平方祇園祭のどろいんきょ行事は、7月の海の日の前の日曜日に、平方上宿に鎮座する八枝神社を中心とする夏祭りである。この祭りでは、神輿のほか、いんきょ神輿と呼ばれる装飾のない白木の神輿が町内を渡御する。上宿の各班で出す神酒所を廻る形で神輿の渡御は行われる。この神酒所の中の5か所で「どろいんきょ」が行われる。神酒所となる家の庭には、あらかじめ水を撒いておき、この土の上でいんきょ神輿を転がすことを「どろいんきょ」と呼んでいる。

（２）歴史的背景

どろいんきょは、上尾市大字平方の上宿地区に鎮座する八枝神社の祇園祭の中で行われる行事である。八枝神社は、江戸時代には牛頭天王社と呼ばれていたが、明治初年に改称し現在に至っている。明治初年に著された『武蔵国郡村誌』では、八枝神社の祭日を7月14日としている。

明治時代、八枝神社の祇園祭は、現在の大字平方の範囲にあたる、南・下宿・上宿・新田の四地区合同で行われてきた。神輿がこの四地区を巡回し、その中でどろいんきょが行われてきた。「八枝神社日記」の明治42年6月24日の項には、「隠居輿」の修繕に関する記述があり、このころには既にどろいんきょが行われていたことが推察される。

祇園祭で、どろいんきょを含む神輿渡御を行うには、四地区の合意が必要であった。合意が得られた年のみ神輿の渡御ができたのである。大正一二年にどろいんきょを含む神輿渡御を実施したが、以降、これを最後に四地区合同での神輿渡御は行われなくなった。その後、祇園祭は四地区それぞれで神輿渡御が行われ、どろいんきょも各地区で小規模に行われる程度であった。

こうした中、上宿地区では、昭和四八年に祇園祭の中でどろいんきょを本格的に復活した。どろいんきょは、昭和五七年には上尾市指定無形民俗文化財、平成二三年には「平方祇園祭のどろいんきょ行事」として埼玉県指定無形民俗文化財に指定され、現在に至っている。

（３）川入

どろいんきょの途中に、荒川への川入りがある。本来の祭りの行事ではないが、復活以降の恒例行事となっている。五班で行われる二回目のどろいんきょの最中、隠居神輿を逆さまにして担ぎ、神酒所を出て、川岸に向かう。隠居神輿を荒川に投げ入れ、若い衆もそれにしたがって川に飛び込む。少し下流に流されてから岸に上がり、また逆さまに隠居神輿を担いで神酒所に戻ると、どろいんきょが再開される。神輿と隠居神輿は、進んだ道を戻らないことが基本であるが、隠居神輿を逆さまに担ぐことで、本来の巡行ではないことになり、一度進んだ道に戻るができる。



図 16 荒川に入る神輿
「平方上宿の祇園祭 どろいんきょ」



資料：「あげお文化遺産ガイド」

<https://ageobunkaisan.jp/doroin/kyo/contents/doro/doro.html>

図 17 神輿の渡御とどろいんきょ・川入箇所

●平方地域の歴史

(1) 地域史概要（平方上宿の立地と環境）

上尾市大字平方は、中山道の上尾宿から城下町・川越に向かう、古くからの街道沿いに立地する。この街道は大宮台地上を通過して、荒川・入間川を渡り、川越に向かうが、平方はこの荒川の大宮台地際に位置する。現在、荒川は開平橋で渡るが、江戸時代には船渡で渡河していた。また、江戸時代初頭から、平方河岸が整備され、近郷から江戸に年貢米を含む様々な荷物が集まり賑わったといわれる。『新編武蔵風土記稿』によると、江戸時代には「平方宿」と呼ばれ、現在の埼玉葛地方から上尾・桶川を通じて川越・多摩地域に抜ける重要な運送の中継地点となっていたという。

大字平方は大きく南・下宿・上宿・新田の四地区に分かれる。このうち下宿・上宿は、川越に向かう街道沿いの集落で、街並みを形成し、特に平方河岸が賑わいを見せた大正時代までは、活況を呈していた。一方、南・新田は、畑作主体の農村であった。

平方のどろいんきょの行われる平方上宿は、この街道の荒川に接する地域であり、平方河岸に関係する家も多かったという。

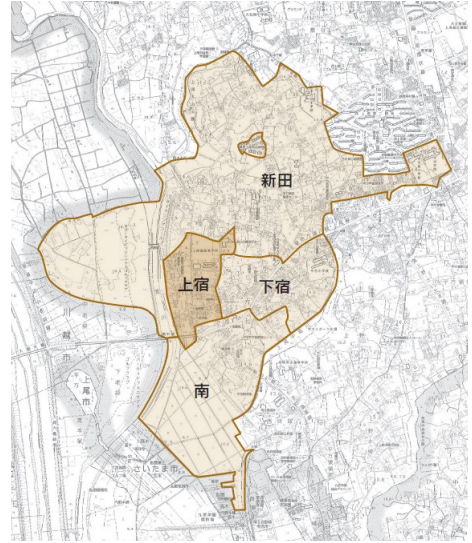


図 18 大字平方の四地区

資料：「平方上宿の祇園祭 どろいんきょ」、上尾市無形民俗文化財活用活性化実行委員会

平方は、蚕種製造－養蚕－製糸といった一連のサイクルを完結し、煉瓦工場をもち、酒造・醤油・味噌の醸造工場が立つほど地域経済の拠点として栄えた。金融においても、独自の地域銀行が設立された。石倉家が「平方の三井」と呼ばれたのもこの頃である。また砂利・砂採取などの新興産業が興り、農業においても技術改良が盛んに行われている。

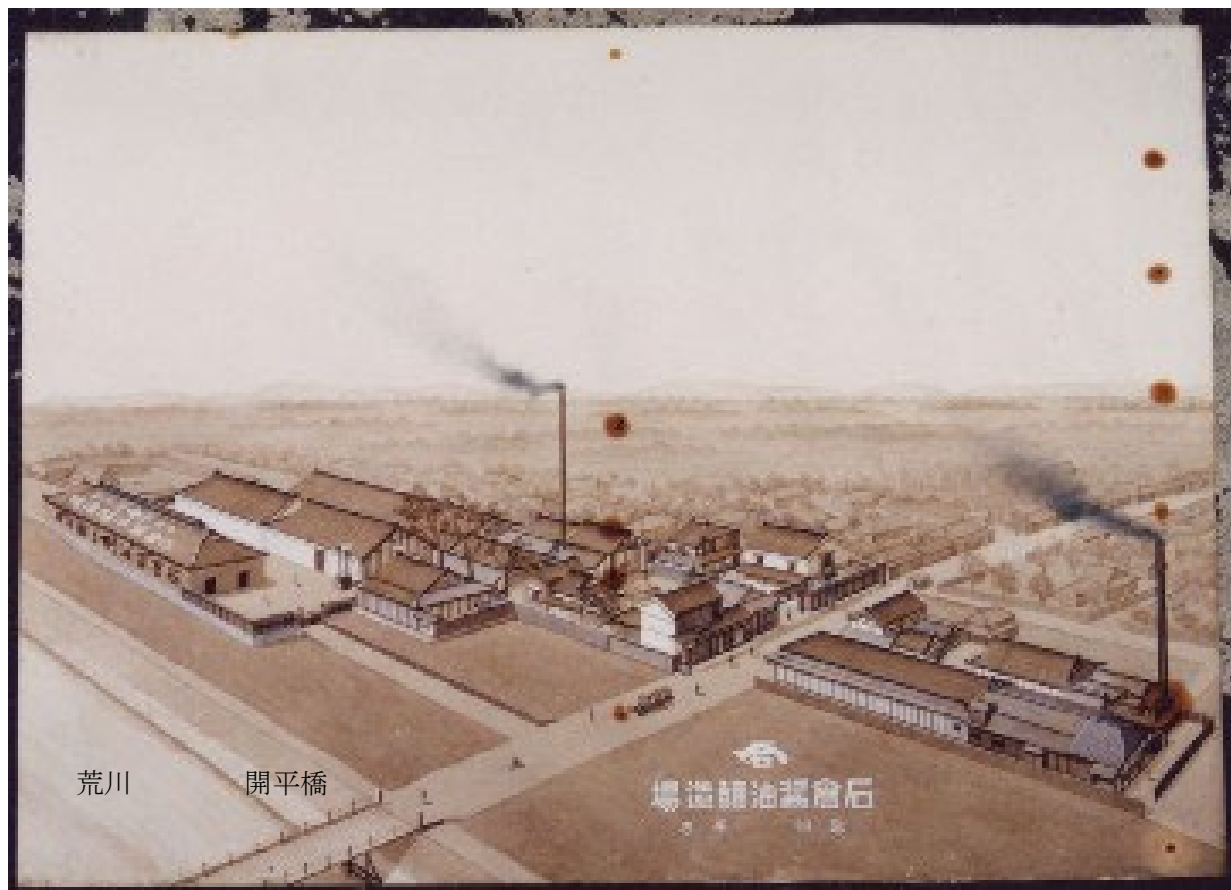
資料：リーフレット「歴史と文化と自然に育まれた 河岸町平方」



図 19 昭和初期の平方地区（橘神社の看板より）



図 20 昭和初期の平方地区（橘神社[上記★印]の看板より）



資料：上尾市教育委員会（平方村石倉家文書）Web サイト

図 21 平方地区の酒造・醤油・味噌の醸造工場

(2) 平方河岸・舟運

江戸期の関東は、荒川・利根川の舟運によって江戸の経済を支えていた。江戸の衣食住の様々な資材は、江戸近郊から供給され、江戸を中心に広がる広範囲の舟運による経済圏ができあがっていた。埼玉県内では江戸への近さもあり、平方と川越が栄えた。

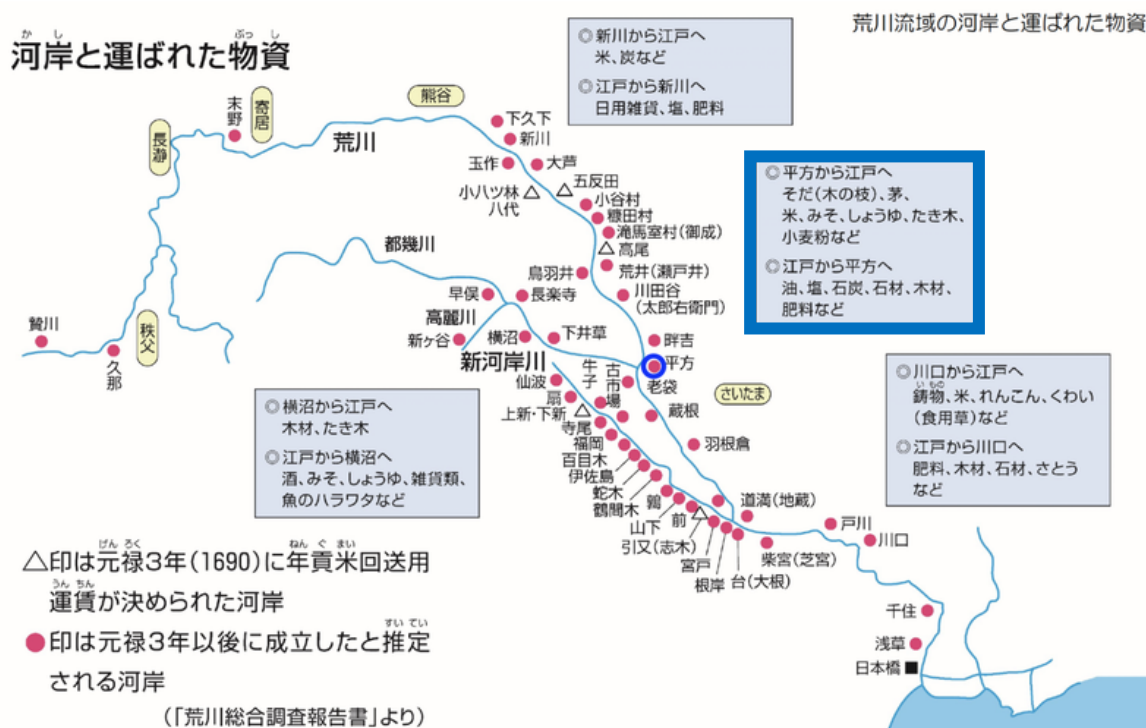
明治期の近代化の中で鉄道の出現と、製糸の海外輸出拠点が横浜であったことから東京の経済圏は大きく様変わりした。しかし、平方は鉄道が通らなかったこともあり、舟運が昭和まで残存していた。

平方河岸は、近世には岩槻や原市方面から川越を経て多摩方面へ通じる、脇往還筋にある渡船場としても機能する交通の要諦だった。河岸の歴史は古く、寛永 15 (1638) 年以前には既に成立していたと考えられている。

江戸へ送る年貢米の集荷先として、平方周辺の村々の他、南村、久保村、原市村などの幕府直轄地や、弁財村、戸崎村、上瓦葺村などの旗本知行地といった地域からも広く利用され、大正時代末まで大変栄えていた。

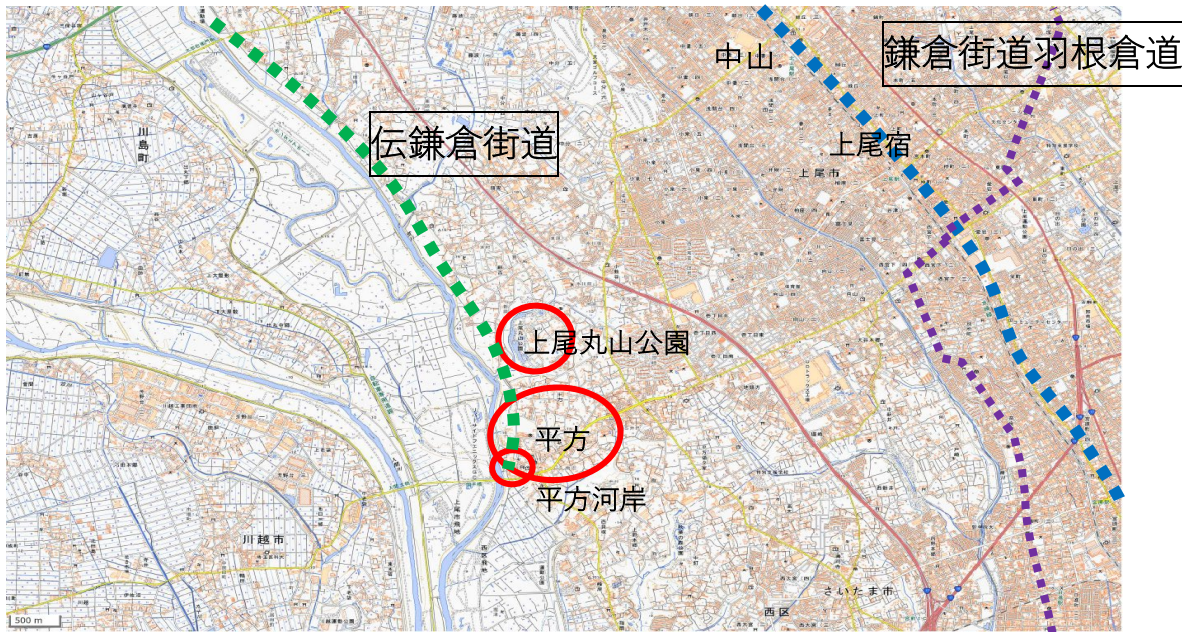
河岸の繁栄を表すのが、橘神社にある平方村河岸出入商人衆奉納の石祠（上尾市指定有形文化財）である。3 基ある石祠のうち、中央の神明社が指定の石祠で、明治 40 年代に河岸場から橘神社に移された。左側銘文によると、平方村及び平方河岸に出入りする商人衆により、享保 2 (1717) 年に造立・奉納されたものである。右側銘文には、宝永 6 (1709) 年に祈願して以来、平方河岸が大神宮の神徳により反映したことのお礼と、今後の輸送の安全と一層の発展を願う奉納の趣旨が記されている。

資料：上尾市教育委員会・橘神社「平方村河岸出入商人衆奉納の石祠」説明看板



資料：井下田潤氏「高瀬舟」「河岸」／下館河川事務所 Web サイト
図 22 荒川沿いの河岸

●街道



(街道の線形はおおむねの位置を示す)

図 23 平方地区周辺の街道

○伝鎌倉街道

鎌倉幕府の成立とともに整備された鎌倉街道は鎌倉と関東諸国・信濃・陸奥とを結んだ歴史の道として知られています。かつての鎌倉街道には、上道・中道・下道の幹線とそこから派生する大小の枝道が発達していました。

北本市内の西部には、古くから鎌倉街道と伝わる古街道が南北に通っています。

この街道は中道から枝分かれして荒川沿岸を北上し、群馬県へと通じる上野道と考えられており、支道としての役割を果たしていたようです。

街道沿いには中世の城館跡や寺院等の文化財が数多く存在し、歴史的に重要な街道であったことがうかがえます。

この街道のルートは、上尾市の平方から桶川市の川田谷をへて、市内では庚塚（芭蕉句碑）一石戸宿—須賀神社・氷川神社—道標「これより石と舟とミち」—鉄砲宿を結んでいたと伝えられています。（平成29年12月 北本市 北本市教育委員会）

資料：北本市教育委員会設置看板

○鎌倉街道羽根倉道

鎌倉街道は、鎌倉時代に幕府があった鎌倉と日本各地をつないでいた道である。

上尾市内を通過する鎌倉街道は、荒川（旧入間川）の羽根倉橋から2本の道が通っている。一つは大宮台地の西端沿いに平方を経て、県道57号線沿いに桶川・北本・鴻巣・行田を通り、利根川を渡り上野国（現太田市周辺）へ抜ける道で、上野道と呼ばれた。文献が少ない幻の鎌倉街道である。

もう一つは羽根倉橋から台地上を北上し、さいたま市北区別所から上尾市西宮下に入る道である。この道は羽根倉道とも奥州脇道とも称され、古くは大宮氷川神社と府中武蔵国府を結んだ連絡道である。

資料：広報あげお 2014.12

●河川の現況

○2022 年 7 月 8 日・水辺で乾杯



図 24 水辺で乾杯実施状況

○平方地区の堤防整備状況



図 25 護岸基礎部分の作業状況（令和 5 年 2 月 11 日撮影）

●かわまちづくり勉強会（令和４年度）／かわまちづくり協議会（令和５年度）

かわまちづくり計画の検討及び策定に向け、地元関係者等から意見を求める場として、令和４年度はかわまちづくり勉強会を実施しています。

表４ 上尾市かわまちづくり勉強会（令和４年度）開催状況

回数	開催日	主な協議事項
第１回	R4年８月２５日（木）・２６日（金）	・かわまちづくりは ・堤防整備後の利活用方法
第２回	R4年１０月２７日（木）	・かわまちづくりの進め方 ・堤防整備後の利活用方法
第３回	R5年１月１８日（水）	・荒川築堤の整備の考え方 ・堤防の坂路、階段
第４回	R5年３月１４日（火）	・堤防の利活用方法 ・次年度の検討スケジュール

表５ 上尾市かわまちづくり協議会（令和５年度）開催状況

回数	開催日	主な協議事項
第１回	R5年５月１１日（木）	１．かわまちづくりに関するこれまでの経緯 ２．堤防の利活用について ３．今後の取り組みについて
第２回	R5年７月２０日（木）	１．上尾市かわまちづくり計画の概要について ２．堤防の利活用について
ワークショップ	R5年１０月２３日（月）	１．平方堤防の利活用イメージの共有
第３回	R5年１１月予定	１．上尾市かわまちづくり計画内容について （ワークショップ形式を想定）
第４回	R6年２月予定	１．計画内容の承認 →市長への答申



第１回上尾市かわまちづくり勉強会



第１回上尾市かわまちづくり協議会

<様式5>

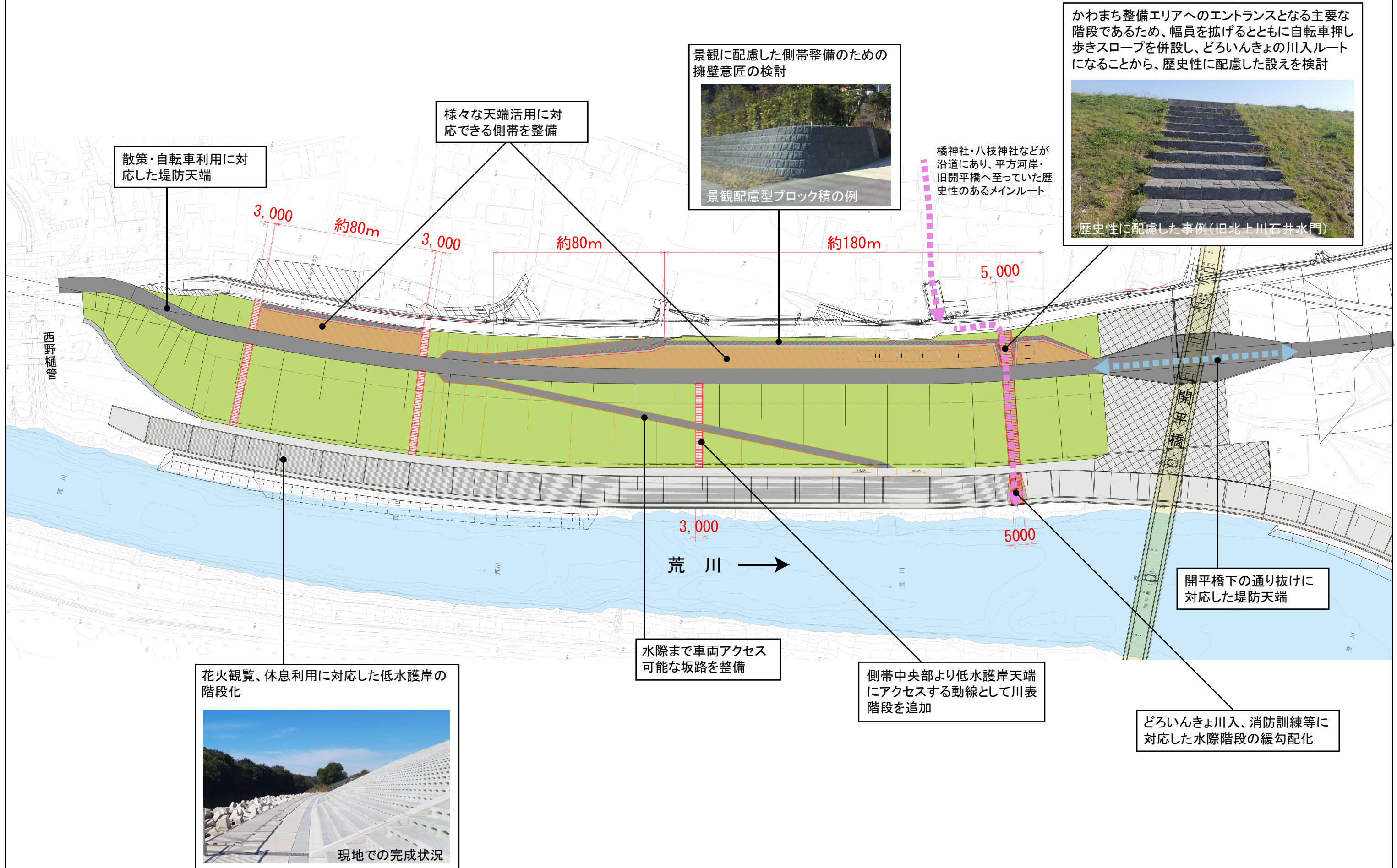
維持管理計画書

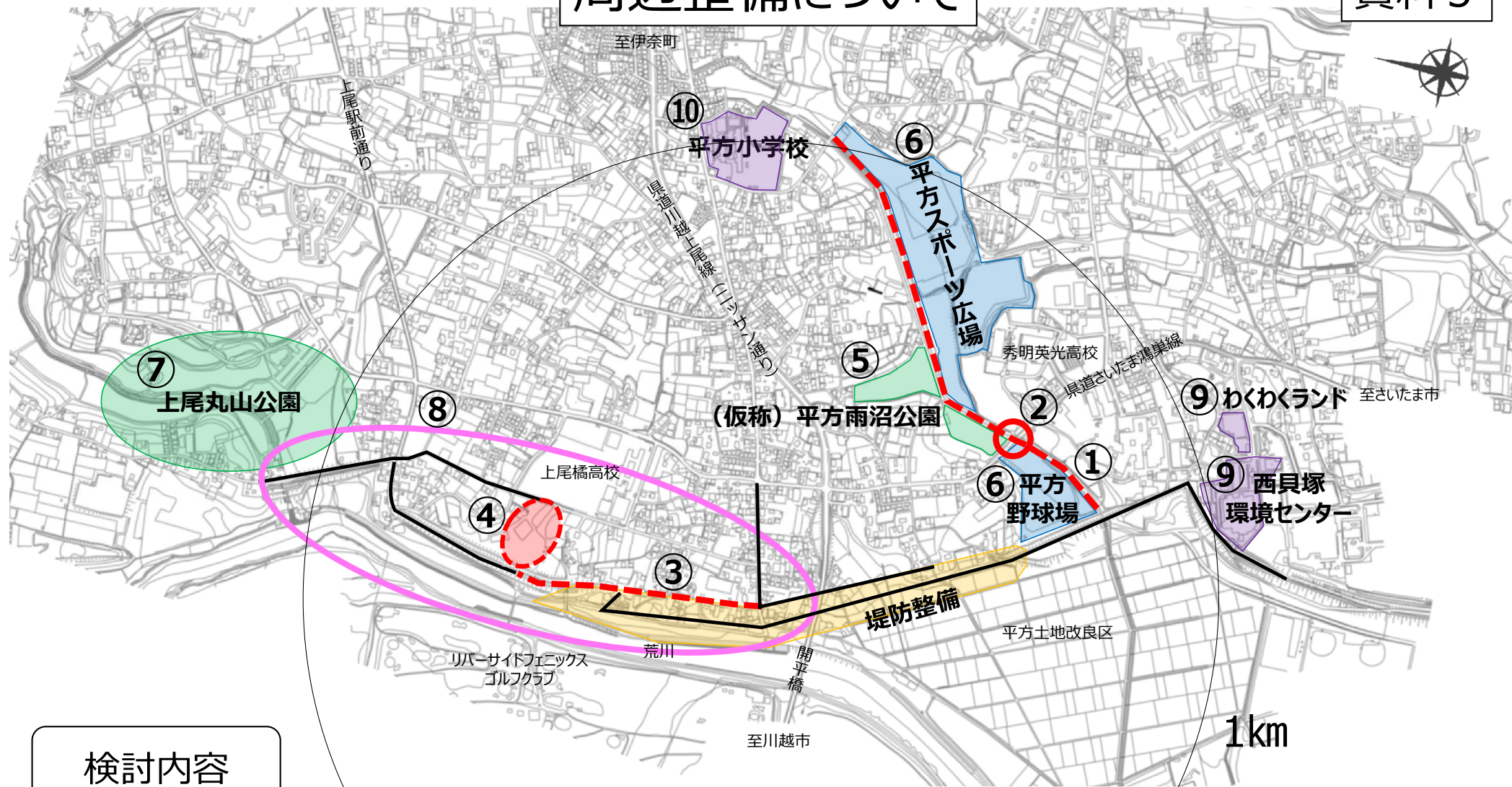
1. 継続的な有効利用に関する計画

- ・地域住民の日常的な散策・休息や、行催事利用（どろいんきょ、あげお花火大会）について、その利用を図る。
- ・どろいんきょ（側帯でのどろいんきょや川入）、あげお花火大会は継続的に実施を図る。
- ・イベント展開では、関係機関（観光協会、商工会、芝浦工業大学等）との協力・連携のもと、民間事業者の参加運営により実施を検討している。
- ・屋外レクリエーション活動は、上尾丸山公園職員（自然・天文等）、市民団体・NPO、民間事業者、**教育機関**等との連携協力・運営により実施を検討している。
- ・親水利用は、市民団体・NPO、民間事業者等との連携協力・運営により実施を検討している。
- ・サイクリング利用に関連したイベントやマナーアップ対策は、市民団体・NPO、愛好者団体、民間事業者等との連携協力・運営により実施を検討している。
- ・歴史散歩等歴史をテーマとした散策利用は、市民団体・NPO、愛好者団体、公民館等との連携協力・運営により実施を検討している。

2. 維持管理計画

- ・堤防及び河川管理施設については、河川管理者が「荒川上流河川維持管理計画」もとづき、維持管理及び巡視・点検を行う。
- ・側帯の維持管理（日常清掃等）及び諸施設の維持管理については、上尾市及び民間事業者等により実施する。
- ・地域住民の日常的な利用の中で、日常清掃活動等に協力するほか、不具合箇所の市への連絡等を行っていく。
- ・出水時は、居住者・利用者の安全を図るため、警報、使用制限、施設保護、避難、救助活動等の対策を実施する。河川管理者及び上尾市は出水後、速やかに施設点検を行い、施設の復旧や土砂の除去等を行う。





検討内容

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| ① 中堀川側道の整備 | ⑦ 上尾丸山公園の利用 |
| ② 県道さいたま鴻巣線との交差点の検討 | ⑧ 有形、無形文化財の利活用 |
| ③ 道路の拡幅（4 m→6 m） | ⑨ 西貝塚環境センター・わくわくランドとの連携 |
| ④ 新設道路の整備 | ⑩ 平方小学校との連携 |
| ⑤ (仮称)平方雨沼公園の整備 | |
| ⑥ 平方スポーツ広場・平方野球場の利用 | |

上尾市かわまちづくり計画 作業スケジュール

資料6

2024.1.17版

	令和4年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下
かわまちづくり計画												申請書 (たたき台)
勉強会調整等		庁内調整等 (計画範囲・担当課)	観光協会・商工会等との調整		第1回勉強会	第2回勉強会 (活用案の検討)			第3回勉強会		第4回勉強会	

	令和5年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下
かわまちづくり計画					計画内容を まとめる	事前調整					最終調整	
協議会検討会	庁内検討会	第1回協議会 (委嘱式) (申請書原案に基づいた協議)	庁内検討会	第2回協議会 (利活用案、計画内容)			ワークショップ (現地視察・)	市民コメント	庁内検討会	第3回協議会 (計画内容ほぼ確定)	庁内検討会	第4回協議会 (計画承認、答申)
		5/11		7/20			10/23	11月中旬～12月中		1/17		3月中旬

	令和6年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下
かわまちづくり計画	募集	締切	審査		登録	伝達式						
協議会社会実験	市長決裁			庁内検討会	第5回協議会 (社会実験案)		社会実験	庁内検討会	第6回協議会 (社会実験結果報告、 今後の予定)			

(案)

2024.3.27ver

<様式 1>

(番号)

令和〇年〇月〇日

(関東地方整備局長経由)
国土交通省 水管理・国土保全局長 殿

上尾市 市長 畠山 稔

「かわまちづくり」計画の登録について（申請）

「かわまちづくり」支援制度実施要綱第 7 の規定に基づき、申請いたします。

記

名 称：上尾市かわまちづくり計画

推進主体：上尾市

以上

<様式 2>

市町村及び河川の概要

1. 市町村等の概要

- ①都道府県名 埼玉県
 ②市町村名 上尾市
 ③人口 230,189 人 (令和 5 年 8 月 1 日現在)
 ④面積 45.51km²

2. 河川の概要

①これまで実施済みの関連施策

【荒川・入間川サイクリングロード】

荒川・入間川に挟まれた区域等において、埼玉県により堤防天端等を活用した自転車道が整備されています。

通称	名称	起点	終点	延長
荒川自転車道	さいたま武蔵丘陵森林公園自転車道線	一般国道 17 号 (さいたま市)	武蔵丘陵森林公園 (滑川町)	45.9 k m
入間川自転車道	県道川越狭山自転車道線	荒川自転車道(入間大橋/川越市)	一般国道 407 号(豊水橋/狭山市)	22.8 k m



(写真は入間川自転車道)

図 1 河川沿いの自転車道

②市民や民間事業者による河川利活用状況

【どろいんきょ】

荒川沿川の上尾市平方地区では、八枝神社の夏祭り・祇園祭で行われる行事として神輿のどろいんきょ（県指定無形民俗文化財）があります。白木の神輿を引き回し、民衆の庭先で水を掛けて転がし、人も神輿もどろんこになって豊年満作を祈り、悪疫退散を願います。本来の祭りの行事ではありませんが、神輿の渡御の最中、川入が恒例的行われています。



図3 荒川に入る神輿
「平方上宿の祇園祭 どろいんきょ」

【あげお花火大会】

荒川と入間川にはさまれた埼玉県上尾市のゴルフ場が会場となり実施されます。尺玉のほか、音楽花火やメッセージ付き記念花火など、バリエーション豊かなプログラムで魅了します。多くの花火大会では2～7号玉が使われるが、10号玉（尺玉）が数多く打ち上げられます。また、2尺玉も打ち上げられるなど、迫力のある花火大会です。

現在、平方地区の浸水対策のため、国による堤防整備事業が行われています。安全確保の観点から、堤防整備が行われる当面の間は花火大会を休止することが決定しています。



図4 あげお花火大会
上尾市観光協会 Web サイト

【サイクリング】

平方地区は荒川自転車道のメインルートからは外れますが、上尾市サイクリングコースにも設定されている荒川沿い左岸（上尾市内）には、カフェや榎本牧場等の複数の観光資源や休憩スポットがあるため、サイクリストが立ち寄り利用や休息等のために訪れています。



図5 平方地区のサイクリング利用

【ミズベリング】

平方地区では、かわまちづくりの推進に向けて、有志による水辺の乾杯などのミズベリング活動が展開されつつあります。



図6 平方地区での水辺で乾杯



図 7 平方地区周辺の利活用地点

3. かわまちづくりの方針

平方地区は無堤防区間であり、令和元年東日本台風による洪水で38戸が浸水する被害が生じました。この被害に対応して、早期の浸水被害解消を目的として、本堤防に先行して、用地買収を要しない川岸の国有地で整備可能な小堤を整備しています。今後実施される本堤防整備に際し、地域の賑わい形成や、どろいんきょや花火大会等の従来の利活用の継続を目的として、かわまちづくりを進めることとします。

＜上尾市かわまちづくりの基本的考え方＞

地域の安全・安心に寄与すること(方針1)を前提に、地域の方々の日常的な利用(方針2)と来訪者の利用を通じて、新たな交流が生まれることにより地域活性化を目指します(方針3)。

さらに、サイクリング等広域的な利用者の立寄や発着地として活用していきます(方針4)。



【方針1】地域の安全・安心に寄与する	<ul style="list-style-type: none"> 堤防整備による地域の安全・安心 消防活動等、地域の防災活動に資する場
【方針2】地域の情報発信拠点とする	<ul style="list-style-type: none"> 平方地区は舟運（河岸）で栄えた地であり、八枝神社・祇園祭で行われるどろいんきょ等、地域の歴史の伝承の場としての利用を図る。
【方針3】地域内の交流・地域外との交流を通じ、地域活性化を図る	<ul style="list-style-type: none"> 堤防整備において、側帯を整備することにより、交流の場として活用を図る。天端・側帯は、①地域の方々の日常的な散策・交流の場、イベント、屋外レクリエーション活動、水際の親水利用等を通じて、地域居住者以外の来訪者の来訪を促し、地域との交流等を通じて、地域活性化を図る。
【方針4】広域的な利用の立寄・発着地として活用する	<ul style="list-style-type: none"> サイクリング利用の立ち寄り拠点化・まちなか「散走」への誘導、歴史をテーマとした散策利用、上尾丸山公園（総合公園）との連携を通じて、市内各所と連携した広域的な活用を図る。

これまでの上尾市かわまちづくり勉強会や上尾市かわまちづくり勉強会での議論をふまえながら、上尾市かわまちづくりの基本的考え方に基づいた堤防整備後の利活用の方向性について、3つの視点から検討を進めていきます。

＜堤防整備後の利活用の方向性＞

堤防整備後の利活用は、

- ①地域の利用
- ②来訪者等の利用(イベント等)
- ③広域利用者の立寄・発着地としての活用

の3つの視点から検討していきます。

表1 堤防整備後の利活用の方向性(案)(かわまちづくり勉強会等による議論総括)

方向性	利活用	具体的な利用方法の案
地域の利用	①地域の歴史の伝承と地域の憩いの場としての利用	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史の伝承の場としての利用(平方河岸や地域の発展史、旧街並み、築堤前の地域の状況等＝歴史広場・看板設置、屋外レクチャー等) ・どろいんきょの「ころがし」や「川入り」等の利用 ・周辺住民が川を見ながら集い・憩う(場づくり)
	②防災活動	<ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練 ・市民らによる防災訓練・防災体験 ・水辺利用の安全教育(災害用Eボートレース等)
来訪者等の利用(イベント等)	③イベントの展開	<ul style="list-style-type: none"> ・あげお花火大会の観覧利用 ・地域の人が集う地域イベント(「市」、農産物直売、ドッグラン等)の開催 ・集客イベントの展開
	④屋外レクリエーション活動	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の暗さを活かした天体観測や焚火等、アウトドア活動(上尾丸山公園天文台の協力連携等) ・課外学習活動等での利用
	⑤親水利用	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺への近づき、釣り ・水上レクリエーション(カヌー等)
広域利用者の立寄・発着地としての活用	⑥サイクリング利用(立ち寄り拠点化・まちなか「散走」への誘導)	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリング利用者の立ち寄り利用の促進(休息、飲食、メンテナンス)(立ち寄り利用による交流・地域活性化や、自転車減速による散策者の安全確保) ・市のサイクリングコース等を活用したまちなか「散走」への誘導 ・自転車を活用した市内の歴史地点(寺社仏閣・史跡等)や街道等を巡る「散走」への誘導
	⑦歴史をテーマとした散策利用(広域連携利用)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史(河岸、寺社、地域銀行や工場跡地等)を巡る歴史散歩 ・中山道や伝鎌倉街道等の街道筋をたどる広域歴史散歩・散走
	⑧上尾丸山公園(総合公園)等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防天端等を活用した散策・自転車ネットワーク利用 ・自然学習館、天文台等職員と連携した荒川の自然観察会

①地域における課題、必要性

荒川水系は、埼玉県秩父山地の甲武信ヶ岳（標高 2,475m）にその源を発しています。荒川は、利根川・江戸川・多摩川等とともに、わが国で最大の広さを持つ関東平野を流れ、東京湾に注ぐ一級河川です。その流域は、東京都と埼玉県を合わせて 20 区 40 市 18 町 1 村にまたがり、面積 2,940km²、人口 930 万人、人口密度約 3,100 人/km²。水道用水供給人口約 1,500 万人。利根川・淀川に次いでわが国の主要河川の中では第三位の人口、鶴見川について第二位の人口密度となっています。

また、流域内の資産額は約 150 兆円、そのうち想定氾濫区域内資産額は約 78 兆円にも達します。（河川現況調査 平成 14 年 3 月/基準年平成 7 年度）

荒川は、江戸時代初期の付替工事（利根川の東遷、荒川の西遷）と明治から昭和初期の荒川放水路の建設という 2 つの大きな付替事業により今の形がほぼ作られました。

平均川幅 1500m、日本一川幅の広い箇所（2500m）、他の河川には見られない 26 本の横堤群、河川敷に残る豊かな自然など多くの特徴をもっています。

しかし、2019（令和元）年 10 月 12 日の台風 19 号にて、荒川からの溢水により、平方地区において浸水被害が発生しました。

荒川の一部は無堤地帯であり、堤防整備による安全安心なまちづくりが地域から強く要望されています。更に、新たな堤防整備により、地区の住居やゴルフ場（クラブハウス等）の移転が必要となる他、県指定無形民俗文化財に指定されている既存伝統行事「平方上宿の祇園祭どろいんきょ」の川入行事やあげお花火大会など当該地区での利活用が実施できなくなっており、地域での利活用の継続と地域活性化が課題となっています。



図 8 台風 19 号（令和元年度東日本台風）による平方地区及び周辺の浸水被害状況

②市町村の地域計画や沿川地域のまちづくりの中での河川の位置づけ

上尾市の行政計画におけるかわまちづくり計画対象である平方地区の位置づけは、下図のとおりとなっており、河川を含む歴史や自然、景観の保全・継承が謳われています。

第 6 次上尾市総合計画
(2021 年 3 月)

平方地区： ①「地域拠点」として位置づけ
②土地利用は、「田園保全・活用ゾーン」

上尾市都市計画マスター
プラン 2020(2021 年 3 月)

・地区別構想における将来像
「豊かな自然と歴史のある 暮らしやすいまち 平方」

第 2 次上尾市緑の基本計
画 (2021 年 3 月)

・平方地域の緑の取組み
①上尾丸山公園を中心とした緑の人づくり
②豊かな緑・水辺環境の保全
③伝統的な農村景観の継承

埼玉版スーパー・シティプロジェクト
(エントリー中)

～みんなでつくる みんなが輝くまち あげお～
・平方拠点におけるコミュニティの醸成と賑わいの創出

1) 第6次上尾市総合計画 (2021年3月)

将来都市像を「みんなでつくる みんなが輝くまち あげお」とし、市民同士がつながりを持ち、協働でまちづくりに取り組むことで、誰もが安心・安全に暮らすことができ、将来にわたり市民と地域が輝き続けるまちを目指すこととなっています。まちづくりを進める上での基本理念を「①安心・安全な暮らし」「②誰もが自分らしく」「③人とつながりのあるまちへ」「④持続可能な未来への責任」とし、将来都市構造は、将来都市像を実現するために、暮らしの場の近くにさまざまな都市機能や働く場が適切に立地し、それらが道路・公共交通のネットワークによって有機的に結びついた「コンパクト・プラス・ネットワーク」型の都市構造を目指しています。

かわまちづくりの対象となっている平方地区周辺は「平方拠点」として地域拠点（地域の中心として、生活関連サービス施設などの充実と災害時の防災活動拠点としての機能を図るエリア）に位置付けられています。



図9 上尾市の将来都市構造図

2) 上尾市都市計画マスタープラン 2020 (2021年3月)

都市マスタープランでは、将来都市像の実現に向けたまちづくりを進める上での基本的な考え方として「暮らしの場としての選ばれるまち～便利、快適、活力、安全・安心、魅力を備えた質の高いまちづくり～」を掲げ、「①「便利」と「快適」を実現できるコンパクトなまちの実現」「②暮らしの安定と都市の発展を支える「活力」のあるまちの実現」「③多世代が「安全・安心」に生活できる「魅力」あふれるまちの実現」の3つをまちづくりの基本目標としています。

かわまちづくりの対象となっている平方地域では、荒川や三つ又ビオトープなどの水辺やのどかな田園風景、河岸町として栄えた歴史文化を活かしながら、ふるさととして、愛着の感じられる、便利で暮らしやすいまちの形成を目指し、地域の将来像を「豊かな自然と歴史のある暮らしやすいまち 平方」としています。



図10 平方地域の地区別構想

3) 第2次上尾市緑の基本計画 (2021年3月)

緑の基本計画では、緑の将来像を「皆で多彩な緑をつなぐ・ふれあう 共生可能なまちづくり」と定めて、協働により緑のまちづくりを進めていく方針とし、荒川は「水と緑の骨格」に位置づけられています。

かわまちづくりの対象となっている平方地域の緑の取組みでは、「①上尾丸山公園を中心とした緑の人づくり」「②豊かな緑・水辺環境の保全」「③伝統的な農村景観の継承」として、市民とともに上尾丸山公園の自然再生等様々なイベントの実施による市民の生物多様性を学ぶ機会創出、緑の保全意識向上を図る他、荒川・江川流域を中心とした保全配慮地区での水辺と樹林地を一体的な保全、地域の南西部に残る昔ながらの農村景観や、多様な生き物の生息空間を保全するため、水田や畑、農業用排水路などの農地の保全を中心とした取組みを進めることとされています。

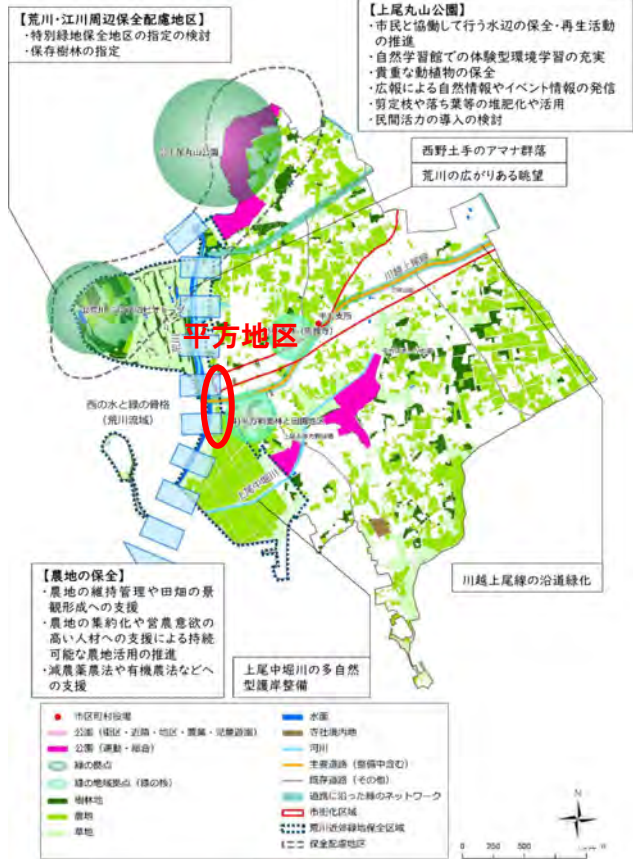


図 11 平方地域の緑の取組み

4) 埼玉版スーパー・シティプロジェクト (エントリー中)

将来都市像である「みんなでつくる みんなが輝くまち あげお」の実現に向けて、市民同士がつながりを持ち、協働でまちづくりに取り組むことで、誰もが安心・安全に暮らすことができ、将来にわたり市民と地域が輝き続けるまちを目指すために、埼玉県が実施している「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」に上尾市としてもエントリーしています。

埼玉版スーパー・シティプロジェクトは、超少子高齢社会を見据え、市町村の「コンパクト」「スマート」「レジリエント」の3つの要素を兼ね備えた持続可能なまちづくりを県が支援するプロジェクトで上尾市では、コンパクト：「コンパクト・プラス・ネットワーク」型都市構造の実現、スマート：新技術の活用による利便性の高いデジタルサービスの充実、レジリエント：安全な暮らしを守るまちづくりを基本コンセプトとしており、本計画地を含む平方拠点では、「平方拠点におけるコミュニティの醸成と賑わいの創出」を目指した取組みを推進していく計画となっています。



図 12 上尾版スーパー・シティプロジェクト

③地域活性化や賑わいあるまちづくりに対する市町村や民間事業者の考え方

地域活性化や賑わいあるまちづくりに向けて、上尾市かわまちづくりにおける市や民間事業者等の考え方を利活用の方向性別に下表に示します。

表2 上尾市かわまちづくりにおける市や民間事業者の考え方

方向性	利活用	上尾市・民間事業者の考え方（今後検討）
地域の利用	①地域の歴史の伝承と地域の憩いの場としての利用	<ul style="list-style-type: none"> 市による学習看板設置や地域の方によるボランティアガイドによる歴史伝承レクチャーなど どろいんきょ行事は、平方4地区の自治会区長等区3役、どろいんきょ保存会会長、八枝神社宮司、当番、若衆頭、子どもの会、愛育班、囃子連や上宿の相談役等により構成される実行委員会により開催
	②防災活動	<ul style="list-style-type: none"> 上尾市消防組織による消防訓練 市民らによる防災訓練・防災体験（市主催防災イベント、自治会別出水時訓練など） 水辺利用の安全教育（河川管理者共催の災害用Eポートレース等）
来訪者等の利用（イベント等）	③イベントの展開	<ul style="list-style-type: none"> あげお花火大会（上尾市観光協会主催）の観覧利用、堤防整備後は有料観覧席等設置可能性検討 地域イベント、集客イベント、サイクリングイベントなど（地元農事組合法人、自転車メーカー、キャンプメーカーなどの民間事業者等）
	④屋外レクリエーション活動	<ul style="list-style-type: none"> 夜間の暗さを活かした天体観測や焚火等、アウトドア活動（上尾丸山公園天文台の協力連携、光学機器メーカー連携等） 課外学習活動等での利用（教育機関との連携）
	⑤親水利用	<ul style="list-style-type: none"> 水上レクリエーション（地域でのカヌー等利用団体、環境学習等を実施するNPO）
広域利用者の立寄・発着地としての活用	⑥サイクリング利用（立ち寄り拠点化・まちなか「散走」への誘導）	<ul style="list-style-type: none"> サイクリング利用者の立ち寄り利用の促進（市による安全・誘導サイン設置等の対策、民間事業者による飲食・休憩スポットの提供）
	⑦歴史をテーマとした散策利用（広域連携利用）	<ul style="list-style-type: none"> 市によるモデルルート設定やルート案内サインの整備 TABIRIN等民間事業者を活用したルート広報
	⑧上尾丸山公園（総合公園）等との連携	<ul style="list-style-type: none"> 自然学習館、天文台等職員と連携した荒川の自然観察会

④地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標

地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標として、以下を設定します。

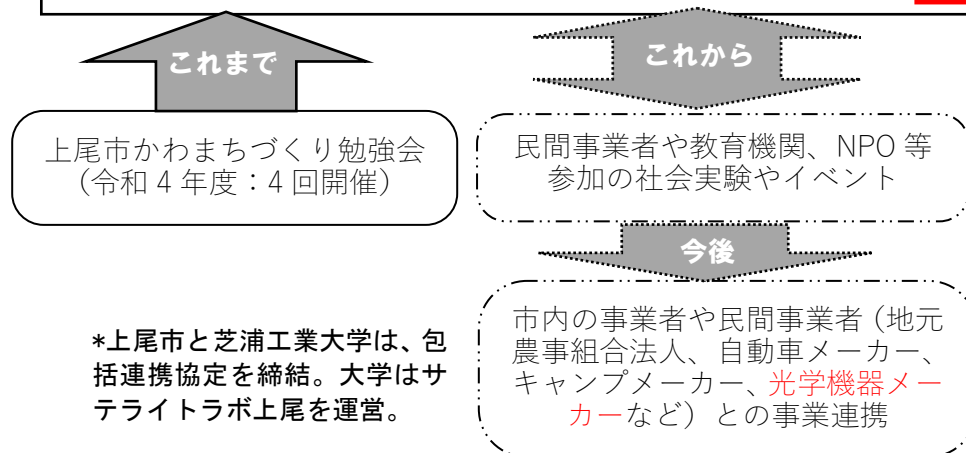
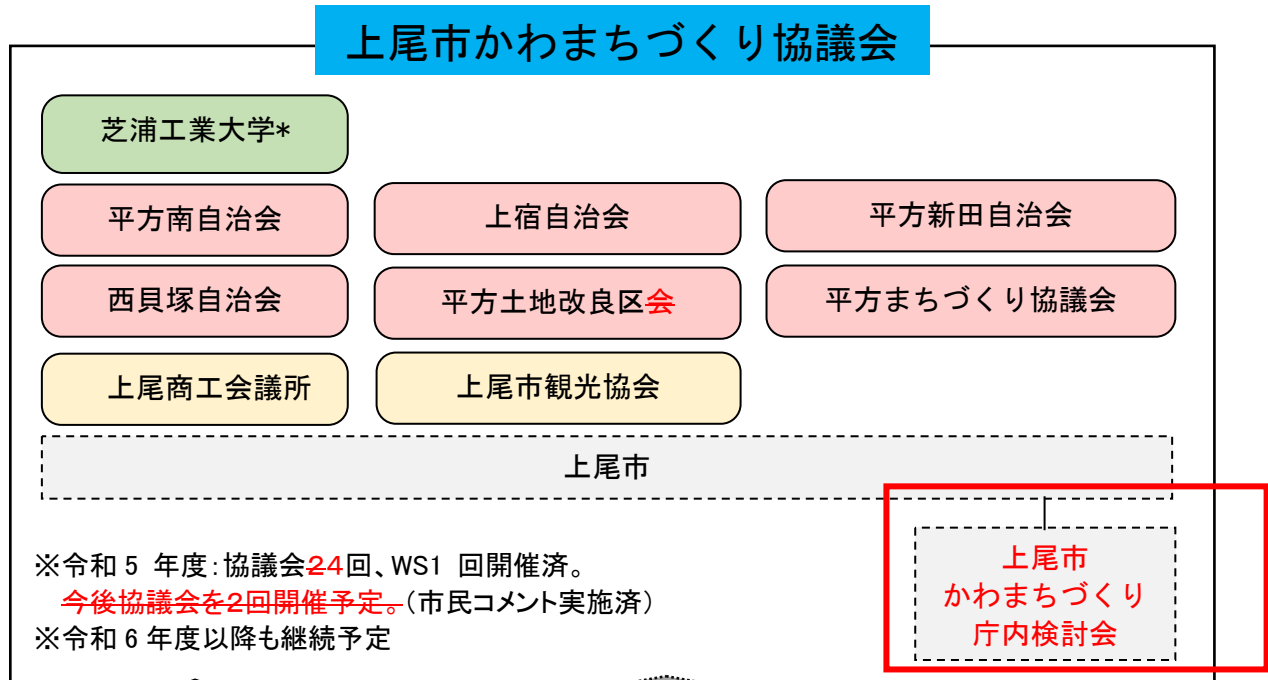
表3 上尾市かわまちづくりにおける定量的目標

方向性	指標	基準値（従前）	定量的目標（整備後）
地域の利用	・防災行事開催回数	1回/年	1回/年
	・歴史行事開催回数	1回/年	1回/年
来訪者等の利用（イベント等）	・イベントに係る一時占用届提出数	1回/年（花火中止前）	5回/年
広域利用者の立寄・発着地としての活用	・自転車・歩行者通行量	32,148人/年（2022年推計）	35,000人/年

4. 推進体制・取組内容

①協議会、運営組織等の体制

令和4年度実施された上尾市かわまちづくり勉強会による準備段階を経て設立された下図構成員による「上尾市かわまちづくり協議会」により、かわまちづくりの検討を進めていきます。将来的には具体の運営・維持管理や利活用に係る地域の合意を確認する推進協議会への発展（民間事業者等のプレーヤーも参画）を想定しています。



②地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する多様な関係者との連携・取組内容

令和4年度に4回実施した「上尾市かわまちづくり勉強会」、令和5年度に設置された「上尾市かわまちづくり協議会」では、包括連携協定を締結している芝浦工業大学の学識者や上尾商工会議所、上尾市観光協会が参画しています。

今後協議会では、上尾市観光協会や上尾市商工会議所と連携した社会実験イベントを実施・運営していく予定です。また、屋外レクリエーション活動では、上尾市丸山公園職員等、各種イベントでは、市と包括連携協定を締結している芝浦工業大学やその他教育機関と連携や協力により運営していく予定です。

これら堤防整備までの期間においての民間事業者や大学、NPO等参加の社会実験やイベントを継続的に実施し、機運を高めていき、将来的にはこれら社会実験成果をふまえた市内の企業や民間事業者（地元農事組合法人、自転車メーカー、キャンプメーカー、光学機器メーカーなど）との事業連携を検討していきます。

5. 都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組

①都市・地域再生等利用区域の指定に向けた、公募や河川敷地の利用調整に関する会の取組等

現段階では未定ですが、「上尾市かわまちづくり協議会」により、前述の社会実験成果等をふまえて検討予定です。

想定される天端拡幅による側帯天端部平場を想定しています。

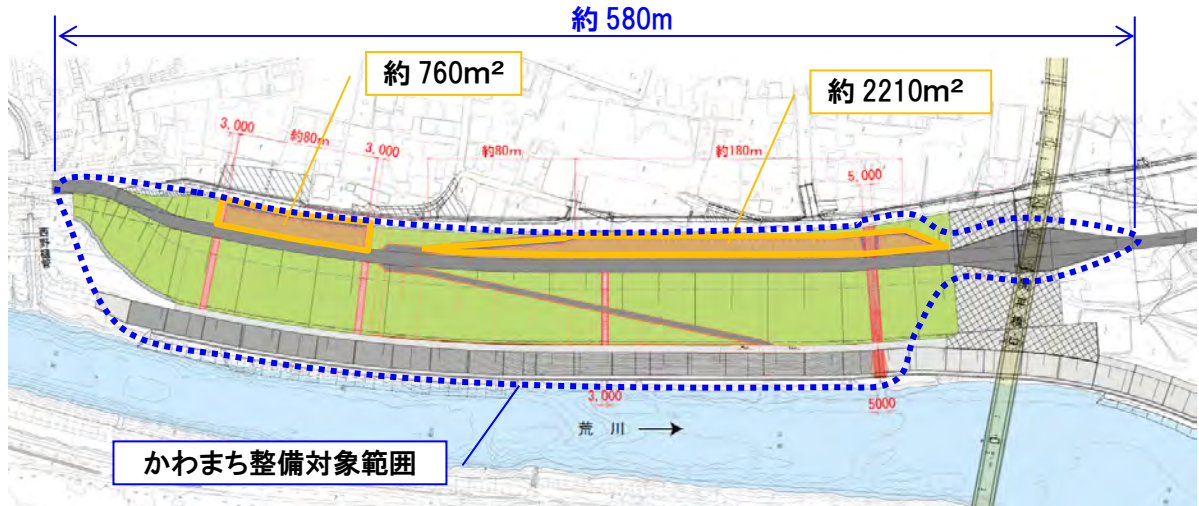


図 13 都市・地域再生等利用区域の指定に向けた想定区域

②都市・地域再生等利用区域の指定年月日

未定（築堤整備完了後）

<様式3>

ソフト施策の個別施策計画書

1. 河川名
荒川水系荒川
2. 提案事業の実施範囲
上尾市平方地区（荒川左岸 48.1 k～48.6k）
3. 提案事業の概要
<p>上尾市を占用許可者として、行政や地元関係者、有識者等から構成する「上尾市かわまちづくり協議会」により検討を実施しながら、民間事業者と連携して河川空間の活用を図っていきます。</p> <p>ソフト施策では、地域活性化や賑わい創出に資するように①地域の利用、②来訪者等の利用（イベント等）、③広域利用者の立寄・発着地としての活用の3つの視点から検討、展開していきます。</p> <p>【地域の利用】<市・地域の方が主体となり活用></p> <p>①地域の歴史の伝承と地域の憩いの場としての利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史の伝承の場としての利用（平方河岸や地域の発展史、旧街並み、築堤前の地域の状況等＝歴史広場・看板設置、屋外レクチャー等） ・どろいんきょの「ころがし」や「川入り」等の利用 ・周辺住民が川を見ながら集い・憩う（場づくり） <p>②防災活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練 ・市民らによる防災訓練・防災体験 ・水辺利用の安全教育（災害用Eボートレース等） <p>【来訪者等の利用（イベント等）】<市・商工会議所・観光協会が連携し、民間事業者参画を促す></p> <p>③イベントの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あげお花火大会の観覧利用 ・地域の人が集う地域イベント（「市」、農産物直売、ドッグラン等）の開催 ・集客イベントの展開 <p>④屋外レクリエーション活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間の暗さを活かした天体観測や焚火等、アウトドア活動（丸山公園天文台の協力連携、光学機器メーカー連携等） ・課外学習活動等での利用 <p>⑤親水利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水辺への近づき、釣り ・水上レクリエーション（カヌー等） <p>【広域利用者の立寄・発着地としての活用】<散策・自転車ネットワークによる広域展開></p> <p>⑥サイクリング利用（立ち寄り拠点化・まちなか「散走」への誘導）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイクリング利用者の立ち寄り利用の促進（休息、飲食、メンテナンス） （立ち寄り利用による交流・地域活性化や、自転車減速による散策者の安全確保） ・市のサイクリングコース等を活用したまちなか「散走」への誘導 ・自転車を活用した市内の歴史地点（寺社仏閣・史跡等）や街道等を巡る「散走」への誘導 <p>⑦歴史をテーマとした散策利用（広域連携利用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史（河岸、寺社、地域銀行や工場跡地等）を巡る歴史散歩 ・中山道や伝鎌倉街道等の街道筋をたどる広域歴史散歩・散走 <p>⑧上尾丸山公園（総合公園）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤防天端等を活用した散策・自転車ネットワーク利用 ・自然学習館、天文台等職員と連携した荒川の自然観察会

<様式 4 >

ハード施策の個別整備計画書

1. 河川名

荒川水系荒川

2. 整備範囲

上尾市平方地区（荒川左岸 48.1 k~48.6k）



側帯の整備
（イベント広場・
駐車スペース・修
景植栽/花壇等）

散策・自転車
利用の場の整
備
（堤防天端）

側帯の整備
（イベント広場・あずまや（サイクルステー
ション）・トイレ・防災倉庫・イベント倉庫・
建屋（仮設店舗、イベント時詰所）・修景植
栽/花壇・どろいんきょ・ころがし場等）

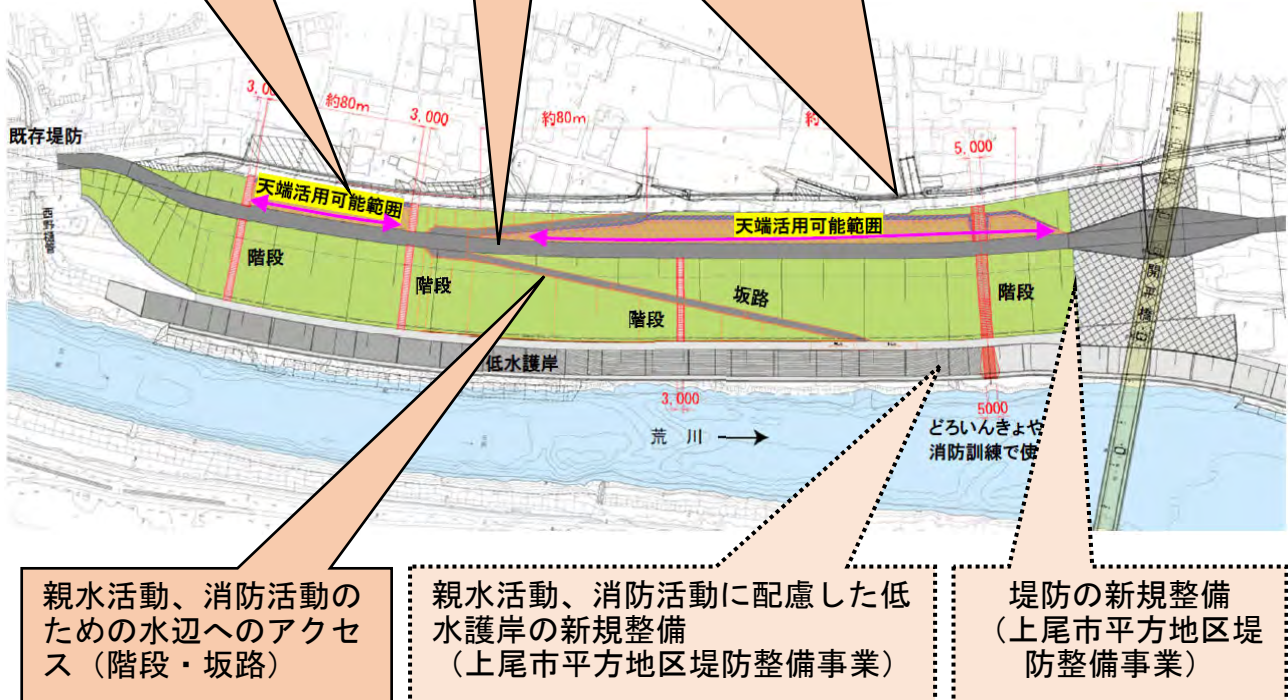


図 14 全体位置図

3. 整備内容

次の施設の整備を検討します。

上尾市（観光協会・商工会等含む）	河川管理者（国土交通省）
<ul style="list-style-type: none"> ● 休息・休憩に供する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ あずまや（サイクルステーション） ・ トイレ ・ ベンチ ・ 修景植栽・花壇（ツツジ・灌木等） ● イベント等地域活性化に資する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント広場、駐車スペース ・ 建屋（仮設店舗、イベント時詰所） ・ イベント倉庫 ● 地域の情報発信に関する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看板 ・ 誘導表示 ● 地域文化の伝承に関する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ どろいんきょ・転がし場 ・ 歴史性に配慮した修景、説明モニュメント ● 防災に関する施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災倉庫（避難シェルター兼用）、シェルター等 <p>上記施設に必要となるその他安全・ライフライン施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 転落防止柵 ・ 上下水道 ・ 電源引込、照明 	<p>（堤防整備、低水護岸整備に伴う付帯施設整備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 側帯 ・ 堤防部の坂路・階段 ・ 親水護岸・階段護岸

※上記整備にあたっては、歴史性に配慮した修景等を検討する

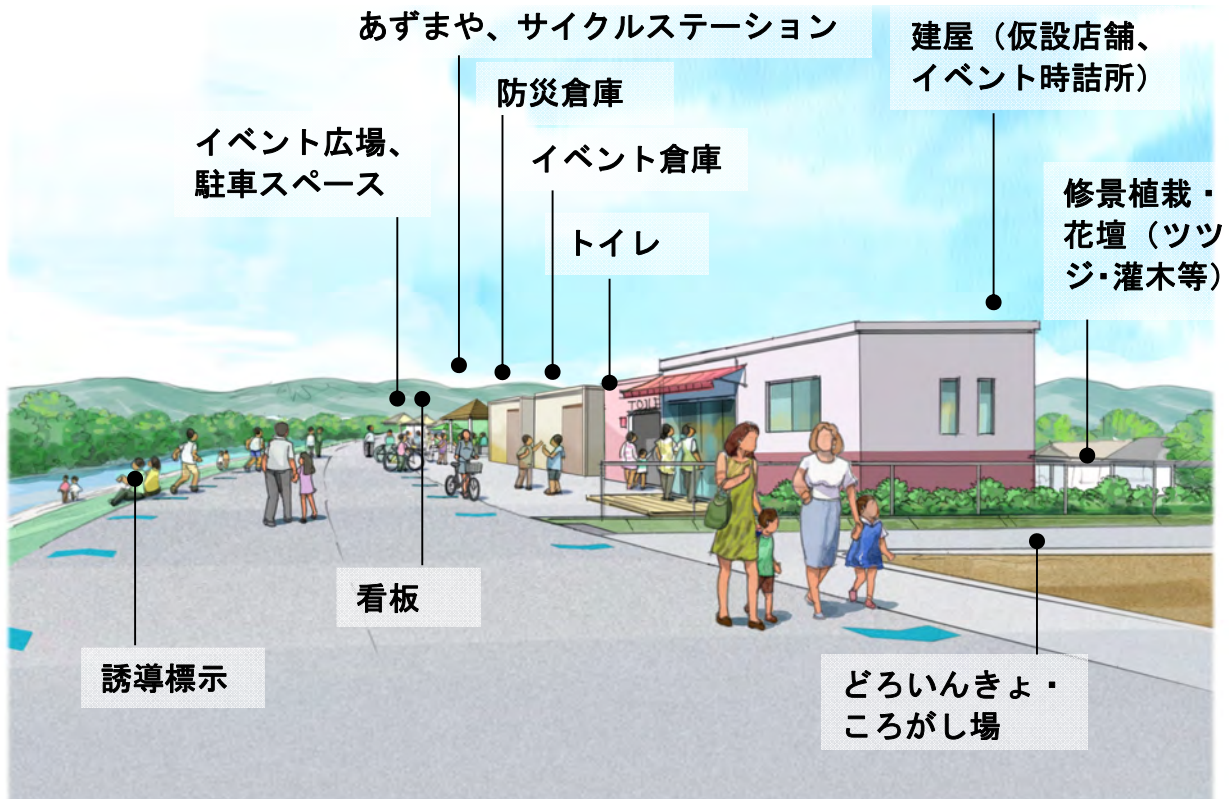


図 15 上尾市かわまちづくり・整備イメージ(1)

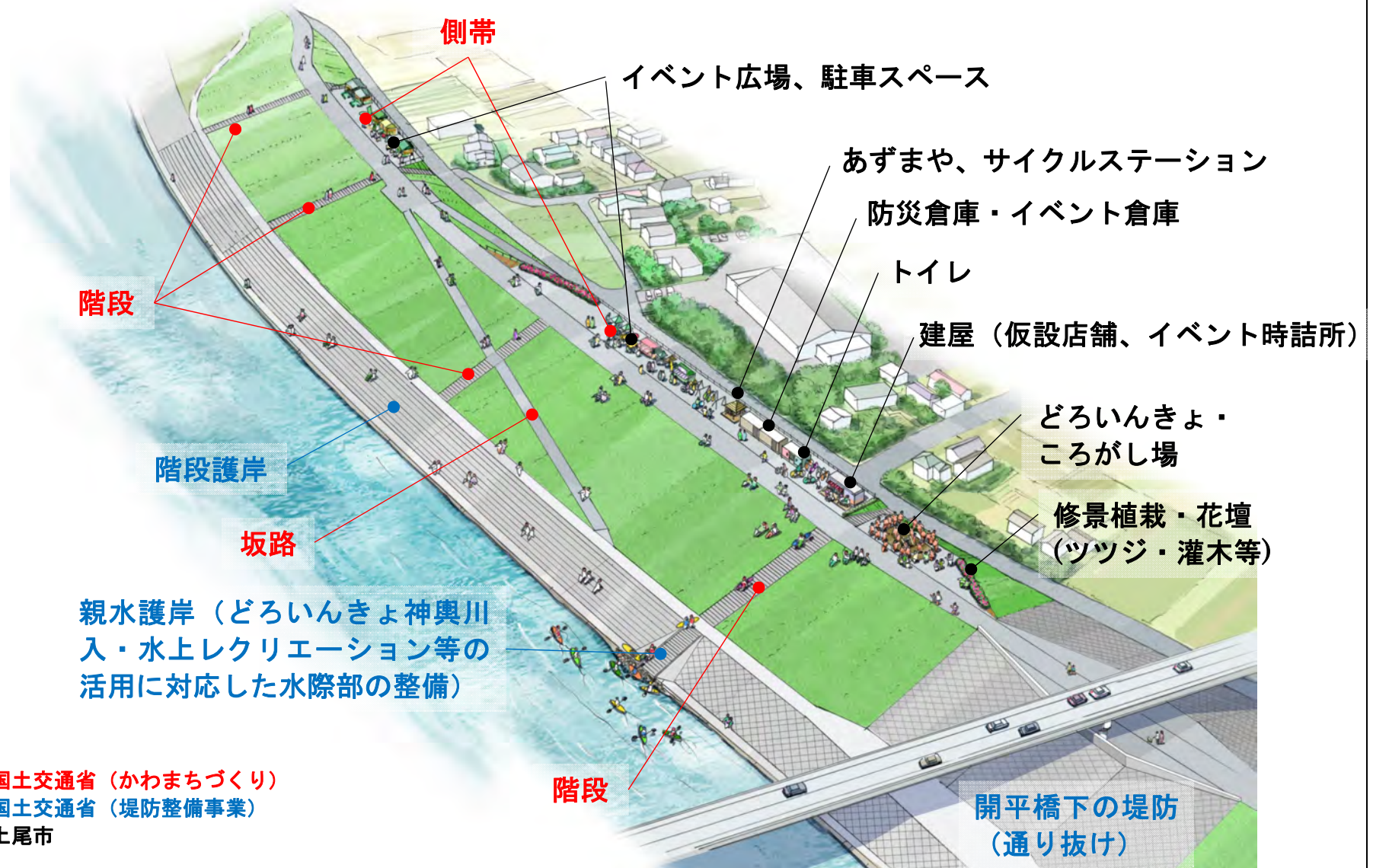


図 16 上尾市かわまちづくり・整備イメージ (2)

4. 整備の実現方策

・関連事業の整備計画

荒川平方地区では、上尾市平方地区堤防整備事業が実施中であり、堤防整備事業と当該事業との一体的な整備により、親水性を活かした魅力的な水辺等環境空間の創出を図ることができる。

・役割分担

	上尾市（観光協会・商工会等含む）	国土交通省
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・どろいんきょ・花火大会等の従来の開催事の継続的实施 ・地域防災活動や水辺の安全教育支援 ・地域イベント・集客イベントや屋外レクリエーション等のイベント開催支援 ・大学との連携による地域活性化方策 ・地域の情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市・地域再生等利用区域指定支援（事業運営上の必要性に応じて実施） ・先進事例等の情報提供
ハード	<ul style="list-style-type: none"> ● 休息・休憩に供する施設 ・あずまや（サイクルステーション） ・トイレ ・ベンチ ・修景植栽・花壇（ツツジ・灌木等） ● イベント等地域活性化に資する施設 ・イベント広場、駐車スペース ・建屋（仮設店舗、イベント時詰所） ・イベント倉庫 ● 地域の情報発信に関する施設 ・看板 ・誘導表示 ● 地域文化の伝承に関する施設 ・どろいんきょ・転がし場 ・歴史性に配慮した修景、説明モニュメント ● 防災に関する施設 ・防災倉庫（避難シェルター兼用）、シェルター等 <p>上記施設に必要となるその他安全・ライフライン施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転落防止柵 ・上下水道 ・電源引込、照明 	<p>（堤防整備、低水護岸整備に伴う付帯施設整備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・側帯 ・堤防部の坂路・階段 ・親水護岸・階段護岸

・整備工程

事業者	事業内容	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
上尾市	広場修景					
	休息・休憩施設					
	イベント関連施設					
	情報発信施設					
	地域文化伝承施設					
	防災関連施設					
国土交通省	堤防関連施設整備					

5. その他特筆すべき事項

●どろいんきょ（上尾市指定無形民俗文化財（S57 指定）、「平方祇園祭のどろいんきょ行事」として埼玉県指定無形民俗文化財（H23 指定））

(1) 概要

平方祇園祭のどろいんきょ行事は、7月の海の日の日曜日に、平方上宿に鎮座する八枝神社を中心とする夏祭りである。この祭りでは、神輿のほか、いんきょ神輿と呼ばれる装飾のない白木の神輿が町内を渡御する。上宿の各班で出す神酒所を廻る形で神輿の渡御は行われる。この神酒所の中の5か所で「どろいんきょ」が行われる。神酒所となる家の庭には、あらかじめ水を撒いておき、この土の上でいんきょ神輿を転がすことを「どろいんきょ」と呼んでいる。

(2) 歴史的背景

どろいんきょは、上尾市大字平方の上宿地区に鎮座する八枝神社の祇園祭の中で行われる行事である。八枝神社は、江戸時代には牛頭天王社と呼ばれていたが、明治初年に改称し現在に至っている。明治初年に著された『武蔵国郡村誌』では、八枝神社の祭日を7月14日としている。

明治時代、八枝神社の祇園祭は、現在の大字平方の範囲にあたる、南・下宿・上宿・新田の四地区合同で行われてきた。神輿がこの四地区を巡回し、その中でどろいんきょが行われてきた。「八枝神社日記」の明治42年6月24日の項には、「隠居輿」の修繕に関する記述があり、このころには既にどろいんきょが行われていたことが推察される。

祇園祭で、どろいんきょを含む神輿渡御を行うには、四地区の合意が必要であった。合意が得られた年のみ神輿の渡御ができたのである。大正一二年にどろいんきょを含む神輿渡御を実施したが、以降、これを最後に四地区合同での神輿渡御は行われなくなった。その後、祇園祭は四地区それぞれで神輿渡御が行われ、どろいんきょも各地区で小規模に行われる程度であった。

こうした中、上宿地区では、昭和四八年に祇園祭の中でどろいんきょを本格的に復活した。どろいんきょは、昭和五七年には上尾市指定無形民俗文化財、平成二三年には「平方祇園祭のどろいんきょ行事」として埼玉県指定無形民俗文化財に指定され、現在に至っている。

(3) 川入

どろいんきょの途中に、荒川への川入りがある。本来の祭りの行事ではないが、復活以降の恒例行事となっている。五班で行われる二回目のどろいんきょの最中、隠居神輿を逆さまにして担ぎ、神酒所を出て、川岸に向かう。隠居神輿を荒川に投げ入れ、若い衆もそれにしがたって川に飛び込む。少し下流に流されてから岸に上がり、また逆さまに隠居神輿を担いで神酒所に戻ると、どろいんきょが再開される。神輿と隠居神輿は、進んだ道を戻らないことが基本であるが、隠居神輿を逆さまに担ぐことで、本来の巡行ではないことになり、一度進んだ道に戻るができる。



図 17 荒川に入る神輿
「平方上宿の祇園祭 どろいんきょ」



資料：「あげお文化遺産ガイド」

<https://ageobunkaisan.jp/doroinkyo/contents/doro/doro.html>

図 18 神輿の渡御とどろいんきょ・川入箇所

●平方地域の歴史

(1) 地域史概要（平方上宿の立地と環境）

上尾市大字平方は、中山道の上尾宿から城下町・川越に向かう、古くからの街道沿いに立地する。この街道は大宮台地上を通過して、荒川・入間川を渡り、川越に向かうが、平方はこの荒川の大宮台地際に位置する。現在、荒川は開平橋で渡るが、江戸時代には船渡で渡河していた。また、江戸時代初頭から、平方河岸が整備され、近郷から江戸に年貢米を含む様々な荷物が集まり賑わったといわれる。『新編武蔵風土記稿』によると、江戸時代には「平方宿」と呼ばれ、現在の埼玉葛地方から上尾・桶川を通じて川越・多摩地域に抜ける重要な運送の中継地点となっていたという。

大字平方は大きく南・下宿・上宿・新田の四地区に分かれる。このうち下宿・上宿は、川越に向かう街道沿いの集落で、街並みを形成し、特に平方河岸が賑わいを見せた大正時代までは、活況を呈していた。一方、南・新田は、畑作主体の農村であった。

平方のどろいんきょの行われる平方上宿は、この街道の荒川に接する地域であり、平方河岸に関係する家も多かったという。

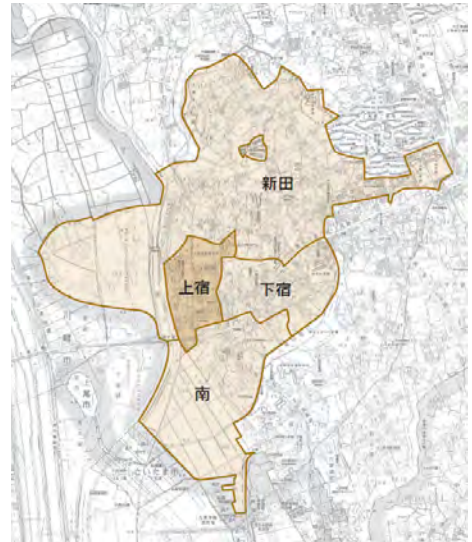


図 19 大字平方の四地区

資料：「平方上宿の祇園祭 どろいんきょ」、上尾市無形民俗文化財活用活性化実行委員会

平方は、蚕種製造－養蚕－製糸といった一連のサイクルを完結し、煉瓦工場をもち、酒造・醤油・味噌の醸造工場が立つほど地域経済の拠点として栄えた。金融においても、独自の地域銀行が設立された。石倉家が「平方の三井」と呼ばれたのもこの頃である。また砂利・砂採取などの新興産業が興り、農業においても技術改良が盛んに行われている。

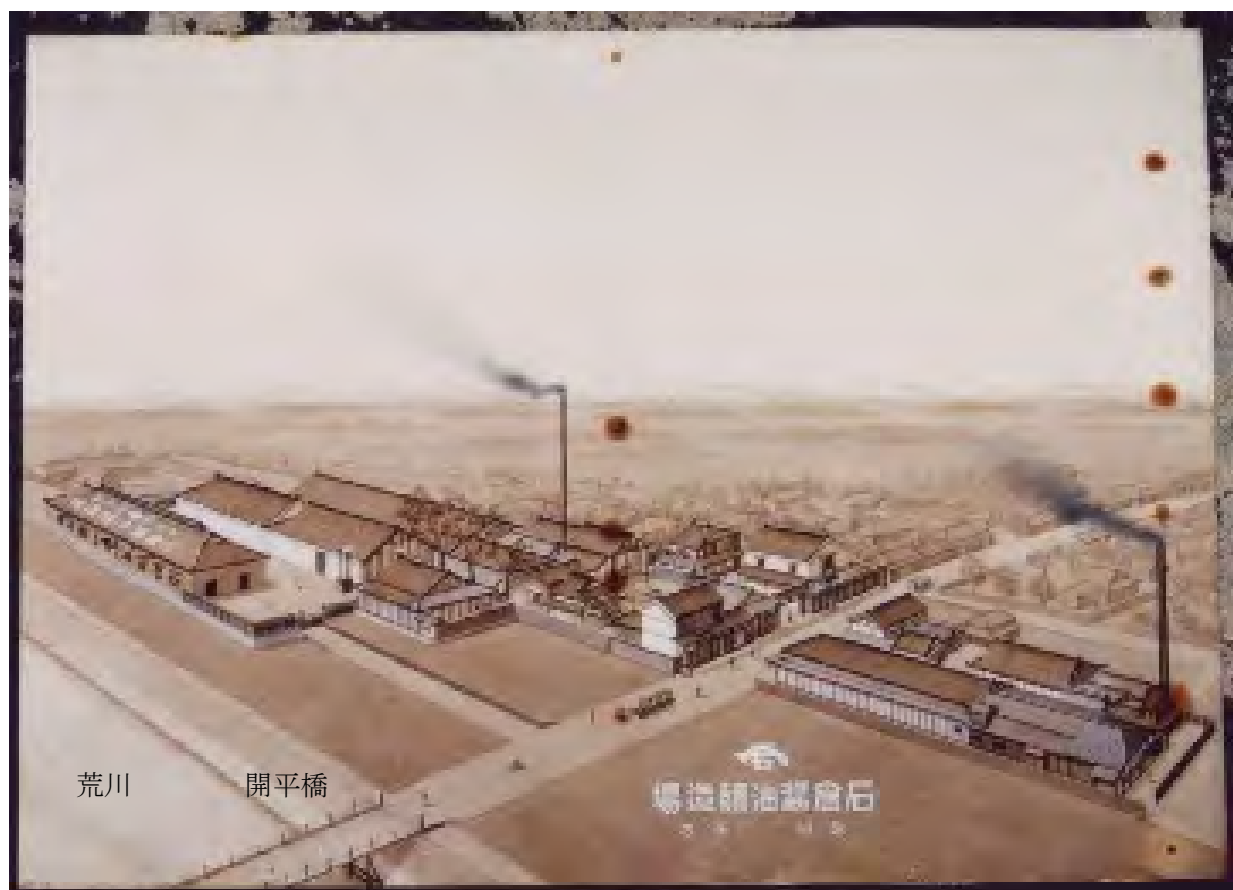
資料：リーフレット「歴史と文化と自然に育まれた 河岸町平方」



図 20 昭和初期の平方地区（橘神社の看板より）



図 21 昭和初期の平方地区（橘神社[上記★印]の看板より）



資料：上尾市教育委員会（平方村石倉家文書）Web サイト

図 22 平方地区の酒造・醤油・味噌の醸造工場

(2) 平方河岸・舟運

江戸期の関東は、荒川・利根川の舟運によって江戸の経済を支えていた。江戸の衣食住の様々な資材は、江戸近郊から供給され、江戸を中心に広がる広範囲の舟運による経済圏ができあがっていた。埼玉県内では江戸への近さもあり、平方と川越が栄えた。

明治期の近代化の中で鉄道の出現と、製糸の海外輸出拠点が横浜であったことから東京の経済圏は大きく様変わりした。しかし、平方は鉄道が通らなかったこともあり、舟運が昭和まで残存していた。

平方河岸は、近世には岩槻や原市方面から川越を経て多摩方面へ通じる、脇往還筋にある渡船場としても機能する交通の要諦だった。河岸の歴史は古く、寛永 15 (1638) 年以前には既に成立していたと考えられている。

江戸へ送る年貢米の集荷先として、平方周辺の村々の他、南村、久保村、原市村などの幕府直轄地や、弁財村、戸崎村、上瓦葺村などの旗本知行地といった地域からも広く利用され、大正時代末まで大変栄えていた。

河岸の繁栄を表すのが、橘神社にある平方村河岸出入商人衆奉納の石祠（上尾市指定有形文化財）である。3 基ある石祠のうち、中央の神明社が指定の石祠で、明治 40 年代に河岸場から橘神社に移された。左側銘文によると、平方村及び平方河岸に出入りする商人衆により、享保 2 (1717) 年に造立・奉納されたものである。右側銘文には、宝永 6 (1709) 年に祈願して以来、平方河岸が大神宮の神徳により反映したことのお礼と、今後の輸送の安全と一層の発展を願う奉納の趣旨が記されている。

資料：上尾市教育委員会・橘神社「平方村河岸出入商人衆奉納の石祠」説明看板



資料：井下田潤氏「高瀬舟」「河岸」／下館河川事務所 Web サイト
図 23 荒川沿いの河岸

●街道



(街道の線形はおおむねの位置を示す)

図 24 平方地区周辺の街道

○伝鎌倉街道

鎌倉幕府の成立とともに整備された鎌倉街道は鎌倉と関東諸国・信濃・陸奥とを結んだ歴史の道として知られています。かつての鎌倉街道には、上道・中道・下道の幹線とそこから派生する大小の枝道が発達していました。

北本市内の西部には、古くから鎌倉街道と伝わる古街道が南北に通っています。

この街道は中道から枝分かれして荒川沿岸を北上し、群馬県へと通じる上野道と考えられており、支道としての役割を果たしていたようです。

街道沿いには中世の城館跡や寺院等の文化財が数多く存在し、歴史的に重要な街道であったことがうかがえます。

この街道のルートは、上尾市の平方から桶川市の川田谷をへて、市内では庚塚（芭蕉句碑）―石戸宿―須賀神社・氷川神社―道標「これより石と舟とミち」―鉄砲宿を結んでいたと伝えられています。

（平成29年12月 北本市 北本市教育委員会）

資料：北本市教育委員会設置看板

○鎌倉街道羽根倉道

鎌倉街道は、鎌倉時代に幕府があった鎌倉と日本各地をつないでいた道である。

上尾市内を通過する鎌倉街道は、荒川（旧入間川）の羽根倉橋から2本の道が通っている。一つは大宮台地の西端沿いに平方を経て、県道57号線沿いに桶川・北本・鴻巣・行田を通り、利根川を渡り上野国（現太田市周辺）へ抜ける道で、上野道と呼ばれた。文献が少ない幻の鎌倉街道である。

もう一つは羽根倉橋から台地上を北上し、さいたま市北区別所から上尾市西宮下に入る道である。この道は羽根倉道とも奥州脇道とも称され、古くは大宮氷川神社と府中武蔵国府を結んだ連絡道である。

資料：広報あげお 2014.12

●河川の現況

○2022 年 7 月 8 日・水辺で乾杯



図 25 水辺で乾杯実施状況

○平方地区の堤防整備状況

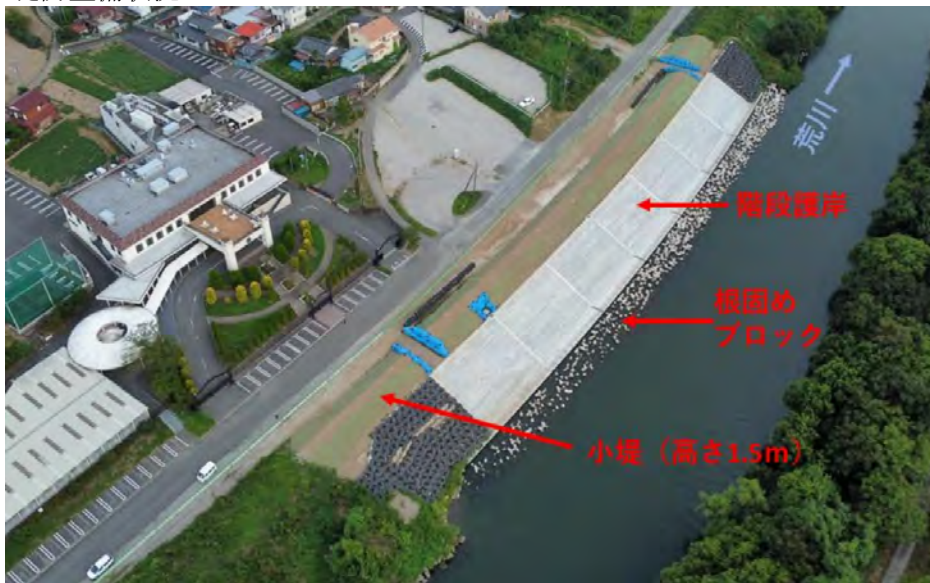


図 26 護岸基礎部分の作業状況 (令和 5 年 9 月 22 日撮影)

●かわまちづくり計画を契機とした上尾市による周辺整備計画

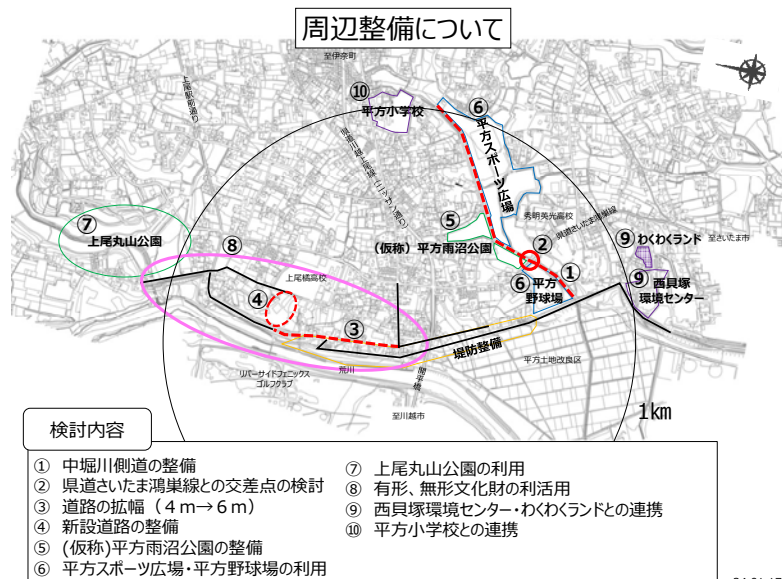


図 27 周辺整備について (第 3 回上尾市かわまちづくり協議会資料)

●かわまちづくり勉強会（令和４年度）／かわまちづくり協議会（令和５年度）

かわまちづくり計画の検討及び策定に向け、地元関係者等から意見を求める場として、令和４年度はかわまちづくり勉強会を実施しています。

表４ 上尾市かわまちづくり勉強会（令和４年度）開催状況

回数	開催日	主な協議事項
第１回	R4年８月２５日（木）・２６日（金）	・かわまちづくりとは ・堤防整備後の利活用方法
第２回	R4年１０月２７日（木）	・かわまちづくりの進め方 ・堤防整備後の利活用方法
第３回	R5年１月１８日（水）	・荒川築堤の整備の考え方 ・堤防の坂路、階段
第４回	R5年３月１４日（火）	・堤防の利活用方法 ・次年度の検討スケジュール

表５ 上尾市かわまちづくり協議会（令和５年度）開催状況

回数	開催日	主な協議事項
第１回	R5年５月１１日（木）	１．かわまちづくりに関するこれまでの経緯 ２．堤防の利活用について ３．今後の取り組みについて
第２回	R5年７月２０日（木）	１．上尾市かわまちづくり計画の概要について ２．堤防の利活用について
ワークショップ	R5年１０月２３日（月）	１．平方堤防の利活用イメージの共有
第３回	R6年１月１７日（水）	１．上尾市かわまちづくり計画書・整備の提案について （ワークショップ形式を想定）
第４回	R6年３月 中旬 27日（水） 予定	１．計画内容の承認 →市長への答申



上尾市かわまちづくり勉強会の実施状況
(第１回)



上尾市かわまちづくり協議会の実施状況
(第１回)

<様式5>

維持管理計画書

1. 継続的な有効利用に関する計画

- ・地域住民の日常的な散策・休息や、行催事利用（どろいんきょ、あげお花火大会）について、その利用を図る。
- ・どろいんきょ（側帯でのどろいんきょや川入）、あげお花火大会は継続的に実施を図る。
- ・イベント展開では、関係機関（観光協会、商工会、芝浦工業大学等）との協力・連携のもと、民間事業者の参加運営により実施を検討している。
- ・屋外レクリエーション活動は、上尾丸山公園職員（自然・天文等）、市民団体・NPO、民間事業者、教育機関等との連携協力・運営により実施を検討している。
- ・親水利用は、市民団体・NPO、民間事業者等との連携協力・運営により実施を検討している。
- ・サイクリング利用に関連したイベントやマナーアップ対策は、市民団体・NPO、愛好者団体、民間事業者等との連携協力・運営により実施を検討している。
- ・歴史散歩等歴史をテーマとした散策利用は、市民団体・NPO、愛好者団体、公民館等との連携協力・運営により実施を検討している。

2. 維持管理計画

- ・堤防及び河川管理施設については、河川管理者が「荒川上流河川維持管理計画」もとづき、維持管理及び巡視・点検を行う。
- ・側帯の維持管理（日常清掃等）及び諸施設の維持管理については、上尾市及び民間事業者等により実施する。
- ・地域住民の日常的な利用の中で、日常清掃活動等に協力するほか、不具合箇所の市への連絡等を行っていく。
- ・出水時は、居住者・利用者の安全を図るため、警報、使用制限、施設保護、避難、救助活動等の対策を実施する。河川管理者及び上尾市は出水後、速やかに施設点検を行い、施設の復旧や土砂の除去等を行う。

上尾市かわまちづくり計画 作業スケジュール

資料3

2024.3.27版

	令和4年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下
かわまちづくり計画												申請書 (たたき台)
勉強会調整等		庁内調整等 (計画範囲・担当課)	観光協会・商工会等との調整		第1回勉強会	第2回勉強会 (活用案の検討)			第3回勉強会		第4回勉強会	

	令和5年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下
かわまちづくり計画					計画内容をまとめる	事前調整					最終調整	
協議会検討会	庁内検討会	第1回協議会 (委嘱式) (申請書原案に基づいた協議)	庁内検討会	第2回協議会 (利活用案、計画内容)			ワークショップ (現地視察・)	市民コメント	庁内検討会	第3回協議会 (計画内容ほぼ確定)	庁内検討会	第4回協議会 (計画承認、答申)
		5/11		7/20			10/23	11月中旬～12月中		1/17		3/27

	令和6年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下
かわまちづくり計画	募集	締切	審査		登録	伝達式						
協議会社会実験	市長決裁			庁内検討会	第5回協議会 (社会実験案)		社会実験	庁内検討会	第6回協議会 (社会実験結果報告、今後の予定)			

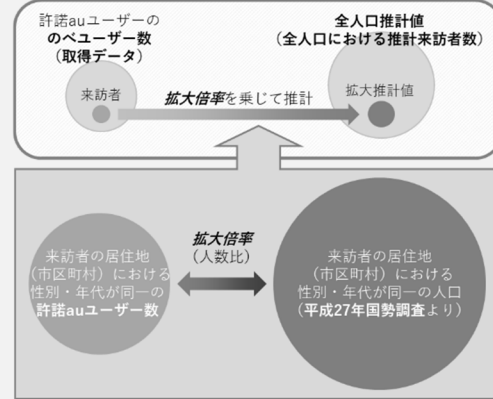
ビッグデータ分析によるかわまちづくり対象地周辺の利活用状況の確認

【ビッグデータ概要】

KDDI Location Analyzer

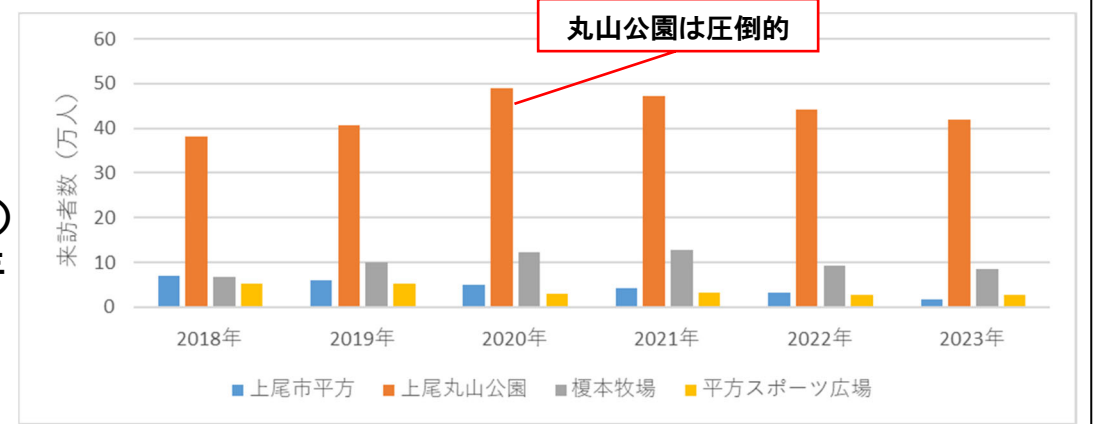
※au スマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象とした集計データより、国勢調査人口データを参照して拡大推計を行う。

※未成年は含まれない



■年間来訪者数

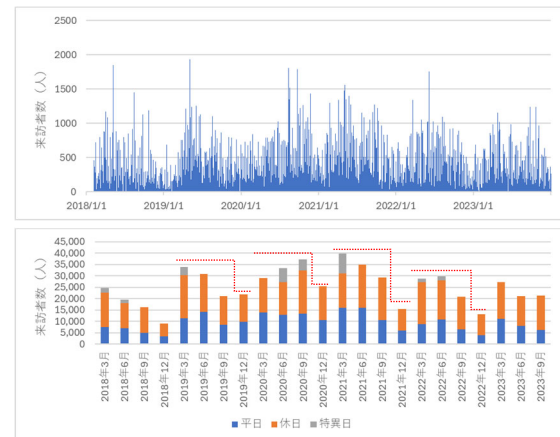
- ・上尾丸山公園が圧倒的 約 40～50 万人/年
- ・榎本牧場は 10 万人前後/年
- ・平方かわまち対象地は 5 万人前後/年(R1 被災前)
⇒R4 年 3 万人強/年、R5 年 2 万人弱/年
- ・平方スポーツ広場は 5 万人前後/年(コロナ前)
⇒コロナ以降 3 万人前後/年



■地区別傾向

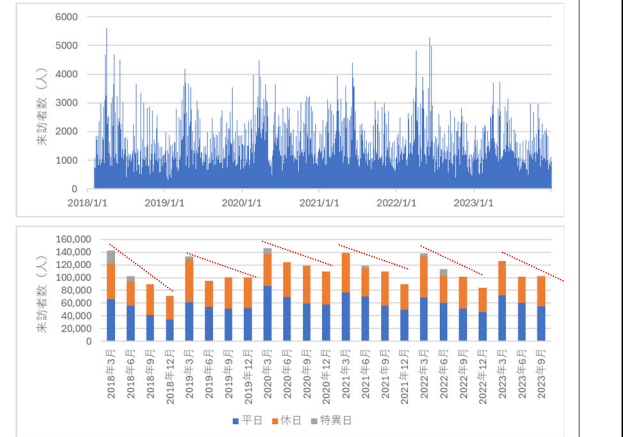
【榎本牧場】

- ・休日が平日より多い
- ・春夏の夏休みや GW 時期に多い
- ・年により差はあるが、冬季以外が多い



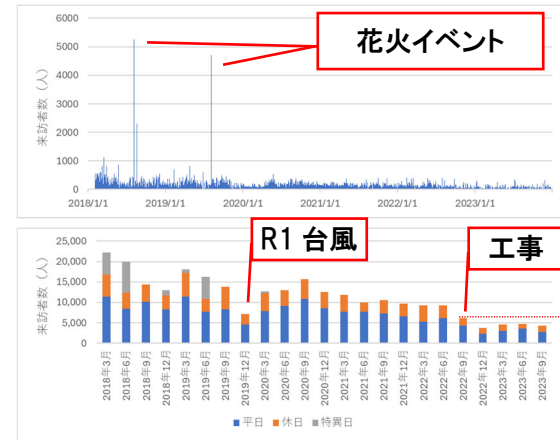
【上尾丸山公園】

- ・休日が平日より多い
- ・3 月下旬から 4 月上旬にかけて休日(桜まつり実施時期)及び 6 月上旬の休日(菖蒲まつり実施時期)が顕著に多い
- ・春をピークに冬に向けて減少



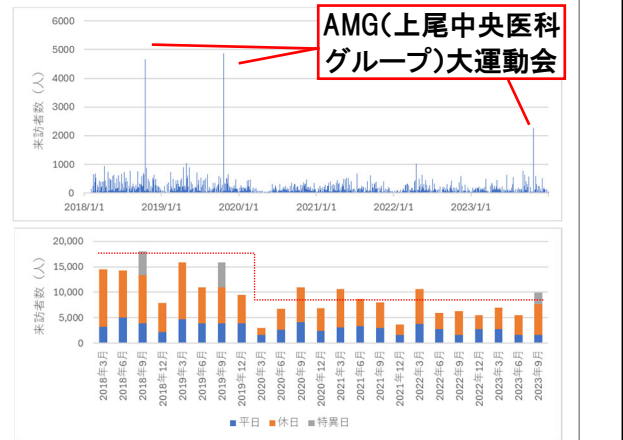
【平方地区(かわまちづくり対象地)】

- ・休平日同程度
- ・花火を実施していたころは、圧倒的な日ピーク
- ・R1 台風で一時的に減少
- ・2022 年工事による立入り制限後減少



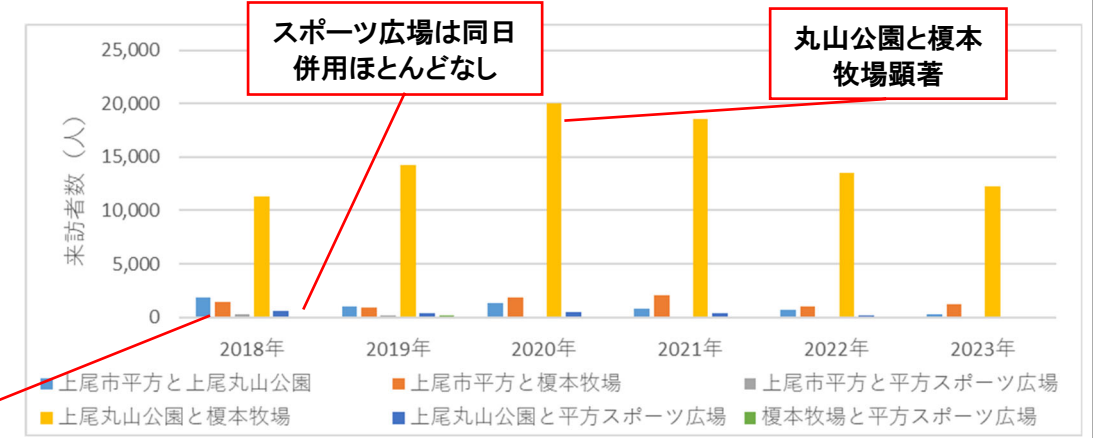
【平方スポーツ広場】

- ・休日が平日より多い
- ※未成年除く
- ・5 月前後及び 10 月前後の休日に利用が多く、企業の大運動会時に日ピークを記録
- ・2020 年コロナ蔓延以降減少

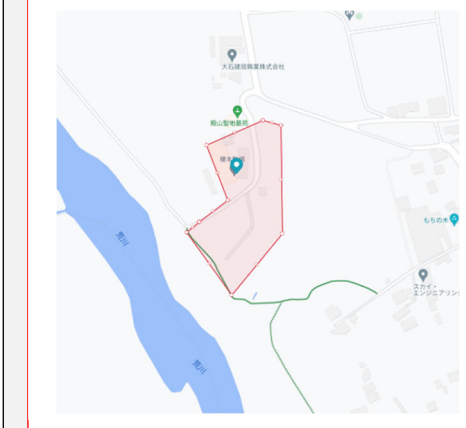


■併用分析(同日併用状況)

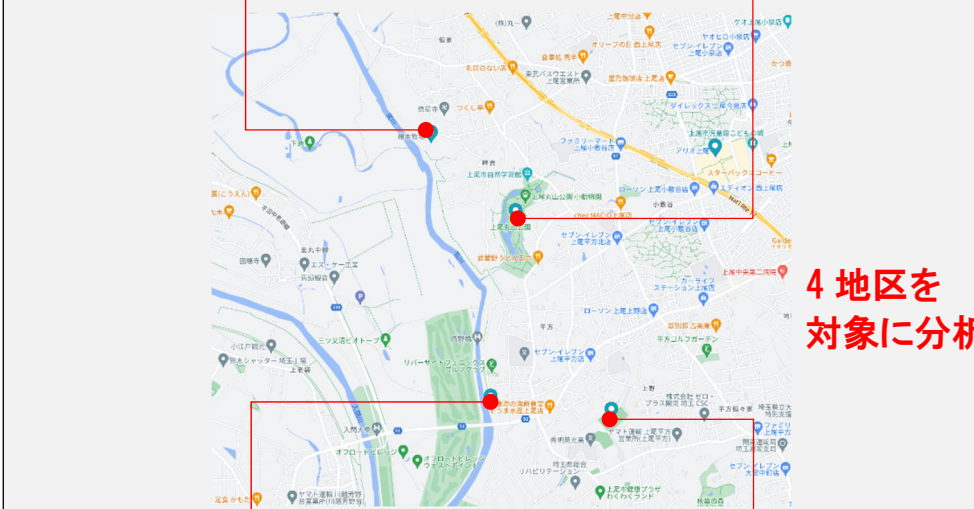
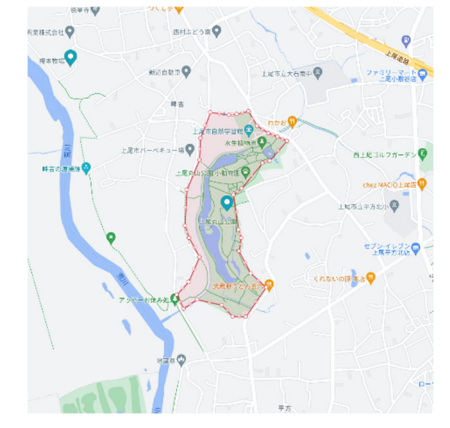
- ・上尾丸山公園と榎本牧場は同日併用が多い
- ・平方かわまち対象地は一定数上尾丸山公園と榎本牧場との同日併用あり
- ・平方スポーツ広場はほぼ単独利用



【榎本牧場】

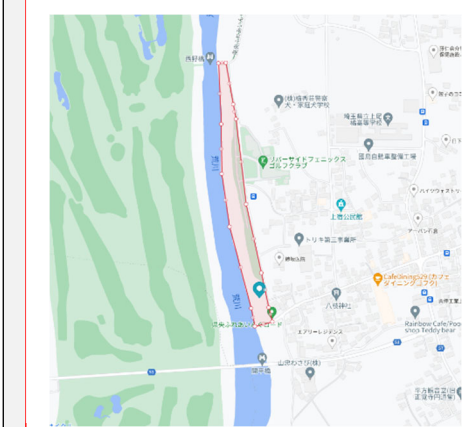


【上尾丸山公園】



4 地区を
対象に分析

【平方地区(かわまちづくり対象地)】



【平方スポーツ広場】



平方かわまち対象地は
ある程度同日併用

かわまち先見事例での社会実験例

■木曽川中流かわまちづくり

- ・マルシェ
- ・スタンプラリー
- ・ウォーキングイベント
- ・無料バス
- ・かわまちづくり協議会ブースの出展

日本ライン・KISOGAWAリトリート
スマホスタンプラリー
参加期間 11/4(土)～12/3(日)

会員登録をして
中流域の賞品を当てよう！
※会員登録は、日本ライン・KISOGAWAリトリート事務局（美濃加茂市）にて実施します。

パーク&ガーデンコース
スタンプ帳

ハイキング&トレッキングコース
スタンプ帳

日本ライン・KISOGAWA リトリートワーク
スタンプ帳

①パーク&ガーデンコース
スタンプ3個集める

②ハイキング&トレッキングコース
スタンプ3個集める

③日本ライン・KISOGAWA
リトリートワーク
スタンプ3個集める

各コースで
抽選券1枚ゲット！

抽選で100名様に賞品をプレゼント！
賞品の発送は12月中旬を予定しています。

シャトルバス

River Summit
美濃加茂市

無料巡回バスのりば
11/4 SAT・5 SUN

美濃太田駅(発)	リバーポートパーク 美濃加茂	日特 スパパークテック WKSパーク	美濃太田駅(着)
9:30	⇒ 9:50	⇒ 10:10	⇒ 10:25
10:35	⇒ 10:55	⇒ 11:15	⇒ 11:30
12:40	⇒ 13:00	⇒ 13:20	⇒ 13:35
13:45	⇒ 14:05	⇒ 14:25	⇒ 14:40
14:50	⇒ 15:10	⇒ 15:30	⇒ 15:45
15:50	⇒ 16:10	⇒ 16:30	⇒ 16:45

※各駅停車の10分前まで乗降しています。

リバーポートパーク
美濃加茂

日本ライン・KISOGAWAマルシェ

開催日 2023年11月4日(土)、5日(日)

開催時間 10:00～16:00

料金 入場無料

まちなかアウトドアの拠点をコンセプトとする、リバーポートパーク美濃加茂にキャンピングカーやメカクルーザーが大集合！さらに、中流域のグルメやワークショップなどのブースも出展します！

かわまち協議会
ブース

環境(エコネット)
ブース

防災ブース

■一関地区かわまちづくり

- ・ミュージックフェスティバル
- ・SUP
- ・カヌー&カヤック

一関のかわまちに、
響くハーモニー。

5/5開催
決定
入場無料

出演者募集中！
カラオケのご自宅開催！
プロの音響機材で
歌ってみませんか？
一関市では、R2年度より「一関市かわまちづくり」として、民間事業者や地元住民、国土交通省と連携の元、磐井川周辺の整備内容や有効な活用方法を探るための社会実験を行っています。

かわまちマルシェ
キッチンカーが集結！
ピクニック気分
でテイクアウト

一関地区かわまちづくり社会実験
いちのせきミュージックフェスティバル

日程 2022年5月5日(祝) 雨天時は5月8日(日) 10:30～16:00(予定)

会場 磐井川堤防山側特設会場

料金 入場無料

※一関地区かわまちづくり協議会/主催/一関地区かわまちづくり協議会/後援/株式会社社会実験コンサルタント/お問合せ:090-3164-9528(伊藤)

キッチンカー

ミュージシャンによる演奏

音楽と笑顔あふれ
社会実験 キッチンカーも盛況

一関市は26日、一関地区かわまちづくり事業の一環で市内中心部を流れる磐井川と北上川を対岸にかみーやら11号(大田原)と大田原(大田原)などを使った水産利用の社会実験を始めた。関係者が2日間の日程で行う予定で、安全面などの課題と対応方法を模索する。

磐井川をSUPで下る関係者

一関市は26日、一関地区かわまちづくり事業の一環で市内中心部を流れる磐井川と北上川を対岸にかみーやら11号(大田原)と大田原(大田原)などを使った水産利用の社会実験を始めた。関係者が2日間の日程で行う予定で、安全面などの課題と対応方法を模索する。

キッチンカー

ミュージシャンによる演奏

■盛岡地区かわまちづくり

- ・デモンストレーションキャンプ
- ・焚火トークイベント
- ・水上アクティビティ

デモンストレーションキャンプ

焚火トークイベント

水上アクティビティ

デモンストレーションキャンプ

焚火トークイベント

水上アクティビティ

■鬼怒川・小貝川かわまちづくり

- ・筑波サーキットのサイクルイベントでのかわまちブース出展
- ・サイクリングロードの開通オープニングイベント
- ・大学生観光まちづくりコンテスト
- ・アプリによるサイクリングルート広報(検討段階)
- ・スタンプラリー走行

大学生観光まちづくりコンテスト2019
関東RiverCycRingステージ

対象地域・テーマ

対象地域

筑波圏：取手市、かずみうら市、石岡市、筑西市、碓氷市、つくばみらい市、守谷市、八千代市、下妻市、常総市(鬼怒川・小貝川かわまちづくり計画実施中自治体7市町) 栃木県：小山市、栃木市、野木町、宇都宮市、上野市、さいたま市、熊谷市、北本市、上尾市、熊谷市、千代田市、野田市、狭山市

テーマ

RiverCycRingで「観光まちづくり」

※「観光まちづくりプラン」とは単なるツアー企画ではなく、観光を通じて、地域資源を発見・活用し、地域自身が大きく活性化するための計画です。

鬼怒川・小貝川かわまちづくり

筑波サーキットのサイクルイベント

サイクリングロードの開通オープニングイベント

大学生観光まちづくりコンテスト

アプリによるサイクリングルート広報

スタンプラリー走行

次年度以降の社会実験の提案

- 【ビッグデータの分析結果から】
- ・上尾丸山公園の大きな集客力があり、榎本牧場～上尾丸山公園～かわまち箇所は既に回遊有り！

・かわまち箇所～平方スポーツ公園は現段階で併用が少なく(仮称)雨沼公園と合わせて充実が必要！

・社会実験段階から、かわまち箇所～下流側への周遊動線検証と広報が必要！
- 【かわまち先見事例での社会実験結果から】
- ・既往のイベントに合わせて周知広報を行う！

・まちあるきや舟・カヌーなどのルート、将来利活用は実際にやってみて検証！

⇒メディアにも取り上げられる

■かわまち計画で将来想定する利活用と社会実験内容

方向性	利活用	具体的な利用方法の案	社会実験内容
地域の利用	①地域の歴史の伝承と地域の憩いの場としての利用	・地域の歴史の伝承の場としての利用(平方河岸や地域の発展史、旧街並み、築堤前の地域の状況等＝歴史広場・看板設置、屋外レクチャー等) ・どろいんきょの「ころがし」や「川入り」等の利用 ・周辺住民が川を見ながら集い・憩う(場づくり)	・ 歴史資源をたどるまち歩きによるガイド試行 ・ どろいんきょ行事時の川入り等の試行 ・ 川の風景コンテスト(写真、絵画、スケッチ)による視点場設定
	②防災活動	・消防訓練 ・市民らによる防災訓練・防災体験 ・水辺利用の安全教育(災害用Eボートレース等)	・ 消防訓練、防災体験等の試行 ・ 水辺の安全教育デモイベント
来訪者等の利用(イベント等)	③イベントの展開	・あげお花火大会の観覧利用 ・地域の人が集う地域イベント(「市」、農産物直売、ドッグラン等)の開催 ・集客イベントの展開	・ 「市」、農産物直売、ドッグラン等地域イベント
	④屋外レクリエーション活動	・夜間の暗さを活かした天体観測や焚火等、アウトドア活動(上尾丸山公園天文台の協力連携等) ・課外学習活動等での利用	・ 天体観測(丸山公園天文台/ピクセン)イベント ・ アウトドアイベント ・ 課外学習デモ
	⑤親水利用	・水辺への近づき、釣り ・水上レクリエーション(カヌー等)	・ 釣り大会等イベント ・ カヌー等の試走イベント
広域利用者の立寄・発着地としての活用	⑥サイクリング利用(立ち寄り拠点化・まちなか「散走」への誘導)	・サイクリング利用者の立ち寄り利用の促進(休息、飲食、メンテナンス)(立ち寄り利用による交流・地域活性化や、自転車減速による散策者の安全確保) ・市のサイクリングコース等を活用したまちなか「散走」への誘導 ・自転車を活用した市内の歴史地点(寺社仏閣・史跡等)や街道等を巡る「散走」への誘導	・ サイクリング立寄りイベント ・ 自転車によるまちなかポタリングモデルイベント(フォトロゲイニング®など)
	⑦歴史をテーマとした散策利用(広域連携利用)	・地域の歴史(河岸、寺社、地域銀行や工場跡地等)を巡る歴史散歩 ・中山道や伝鎌倉街道等の街道筋をたどる広域歴史散歩・散走	・ 歴史資源をたどるまち歩きによるモデルルート検討 ・ まちの風景コンテスト(写真、絵画、スケッチ)による歴史資源の発掘
	⑧上尾丸山公園(総合公園)等との連携	・堤防天端等を活用した散策・自転車ネットワーク利用 ・自然学習館、天文台等職員と連携した荒川の自然観察会	・ 堤防天端走行イベント ・ 自然観察会デモイベント

※赤字：堤防整備が完了していない現段階で着手可能性のあるもの

■想定される社会実験

目的：かわまちづくり取組の**広報を重視する**

- ⇒多くの来訪客が見込まれる既往イベント等に合わせたブース出展
- ⇒ブース出展に伴う学校・民間協力体制の構築デモンストレーション
- ⇒ブース来訪者アンケートによるニーズ調査

※KLA分析により連携上課題があるかわまち箇所～下流側でのイベントにより広報展開を実施することが考えられる

※上尾丸山公園は桜まつりや菖蒲まつりの時期が最多であるが、かわまち箇所やスポーツ広場は通年利用があり、秋季イベントにも合致している

目的：かわまちづくり取組の**具体的なハード整備の検証**を目指す

- ⇒側帯整備部広さの実地検証やデモ出店などによる施設配置検証
- ⇒歴史資源まち歩き(丸山公園～整備対象地～(仮称)雨沼公園)実施によるモデルルートの検証(案内サイン配置などの他、ガイド教育などソフト面も同時検証)

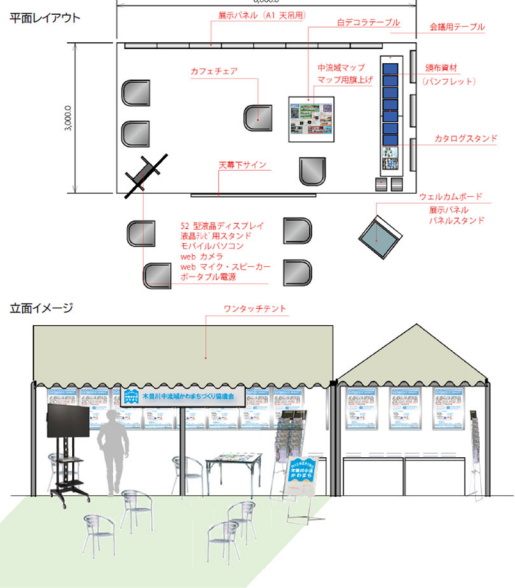
目的：かわまちづくり取組の**持続可能な運営維持管理に向けた連携体制の構築**を目指す

- ⇒完成堤防を用いたどろいんきょ行事試行やデモカヌーツアー
- ⇒担い手候補者への公募を前提としたサウンディングやファムトリップ、それに基づくデモイベント
- (これまでに挙げた候補：「橘高校」「上尾丸山公園天文台」「榎本牧場」「cadfe529」「梅香荘」「ブリヂストン」「タテイスカンナ」「Vixen(ピクセン)」など)
- ⇒サイクリストのわくわくランドでのお風呂利用など将来の来訪者の体験デモツアー

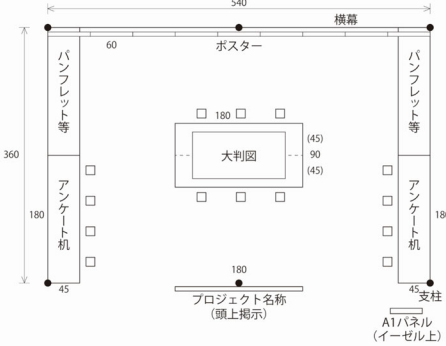
※工事見学会などとの併用開催でより具体的なイメージを共有可能
※水辺のオープン化を見据えた地域合意体制を合わせて構築可能

3.出展イメージ

3.1 ブースイメージ(案)



木曽川中流かわまちの企画事例



鬼怒川小貝川かわまちの企画事例



かわまち箇所近傍で八枝神社や橘神社など歴史資源を活かした出店による来訪者の呼び込み広報、まち歩きによるルート検証を実施



平方スポーツ広場に隣接する貝殻樋管部では完成後の堤防の広さが具体的にイメージできる



大学からも提案があったサイクリスト立ち寄りマルシェ、天体観測関連、ドッグラン関連等、具体の連携可能性のある民間事業者に声掛け